令和3年度厚生労働省委託事業

地域産業連携ガイドブック

障害者就労における地域の産業と福祉の連携推進事業

目次

１．はじめに …… 1
２．なぜ今、地域産業×福祉 という発想が必要なのか …… 2
３．地域産業と福祉の連携の主なイメージ …… 3
４．連携による地域企業等のメリット …… 3
５．地域産業型福祉に取り組んでいる事業所の特徴 …… 4
６．期待される連携効果 …… 5
７．事例から地域連携を考える …… 6
（事例１）伝統工芸①　縁 …… 7
（事例２）伝統工芸②　ワークくわの木金城第２事業所 …… 9
（事例３）伝統工芸③　ＷＩＳＨ …… 11
（事例４）伝統工芸④　幸呼来Japan …… 13
（事例５）地域活性①　ソーネおおぞね …… 15
（事例６）地域活性②　にじいろ …… 17
（事例７）地域活性③　インクルーシヴ・松山 ヒカリのアトリエ …… 19
（事例８）地域活性④　GENIUS …… 21
（事例９）地域活性⑤　日本海倶楽部 …… 23
（事例10）地域課題解決①　ヴィ長屋 …… 25
（事例11）地域課題解決②　JOCA×３（じょかかけさん） …… 27
（事例12）地域課題解決③　San-fuku（さんふく） …… 29
（事例13）地域課題解決④　スタジオれもん …… 31
（事例14）地域課題解決⑤　社会就労センターぴいす …… 33
（事例15）地域課題解決⑥　カーマン …… 35
（事例16）地域課題解決⑦　盛岡書房 …… 37
（事例17）地域課題解決⑧　直売所カフェこころや …… 39
（事例18）地域課題解決⑨　白潟事業所 …… 41
（事例19）地場産業①　こだかさ障害支援センター …… 43
（事例20）地場産業②　まこと（松前事業所） …… 45
（事例21）地場産業③　まちかどステーション八百萬屋 …… 47
（事例22）地場産業④　エコテリアなんぐん市場 …… 49
（事例23）地場産業⑤　がんばカンパニー …… 51
（事例24）六次化商品①　雫石町福祉作業所かし和の郷 …… 53
（事例25）六次化商品②　ひまわり畑 …… 55
（事例26）リサイクル素材①　みちのく屋台こんにゃく道場 …… 57
（事例27）リサイクル素材②　あおぞらソラシード …… 59
（事例28）リサイクル素材③　アイラブ作業所 …… 61
（事例29）リサイクル素材④　深谷たんぽぽ …… 63
（事例30）リサイクル素材⑤　ドルフィン・アイ、グレースハウス …… 65
８．地域産業連携型福祉の取り組み手順 …… 68
９．企業の皆様へ …… 69
10．共同受注窓口一覧 …… 70
事業所・連携先一覧（リスト） …… 71

1 はじめに

農福・林福・水福の各連携では、一次産業と障害福祉の協働により障害者の就労機会の拡大、工賃・賃金の向上、また高齢化や人手不足が課題となっている農林水産業の活性化に好影響をもたらしています。

また、内閣官房のまち・ひと・しごと創生戦略においては「将来にわたって『活力ある地域社会』の実現」を目指すことが謳われており、その横断的目標の１つに「多様な人材の活躍を推進する」ことが挙げられています。総合戦略は、新型コロナによる社会情勢の変化を受け、改定が加えられ、地方への関心の高まり、人の流れ、企業の意識・行動変容にも目を向けながら新たな地域創生を進めようとしているところです。

こうした状況をみると、全国各地で地域密着の生産活動を行っている就労継続支援事業所が、農福連携にとどまらず、あらゆる地域の産業と連携し、プレイヤーとして活躍することへの期待がますます高まっていると言えます。

就労継続支援Ａ型・Ｂ型事業所が地域産業の担い手となり、それによって利用者の就労の充実や賃金・工賃の向上につなげることは、福祉の観点からも地域活性の観点からも大変望ましいことです。

このガイドブックでは、すでに、地域産業連携といえる企業と連携して成果を挙げている福祉事業所や、地域課題の解決をビジネスチャンスととらえ、地域を巻き込んで事業を展開している福祉事業所の事例をとりあげ、ご紹介しています。

これから取り組みたい就労継続支援事業所はもちろん、福祉とのコラボレーションで事業振興と地域貢献を実現したい企業の方にもご覧いただき、参考にしていただければと思います。

2022年3月
株式会社FVP

本事業でとりあげる地域産業連携には、農業、林業、水産業と福祉の連携、資源リサイクルによる製品製造、伝統工芸品の製作、大学や自治体との連携等が含まれます。中小企業庁のホームページには、施策として行う地域産業支援として「地場・伝統的工芸品産業などの地域産業の活性化を目指す支援」と記述があり、本事業における地域産業についても、「地域資源を有効に活用しながら地域に根差した経済活動を担う産業全般」を対象としてとらえ、福祉とのマッチングにより、これらの地域産業の活性化に寄与するモデルづくりを目指します。

2 なぜ今、地域産業×福祉　という発想が必要なのか

就労継続支援事業所は、障害のある方に生産活動を通じて就労の支援を行っています。食品や手工芸品等の自主製品、企業からの受注作業など、多種多様な事業に取り組み、工賃・賃金の向上を目指していますが、新型コロナ感染の影響も受け、就労継続支援Ｂ型事業所の平均工賃は、15,776円（令和2年度）と低迷し、就労継続支援Ａ型事業所の多くは事業収支マイナスの状況が続いています。

地域の企業から下請けの仕事を受注することも、ショッピングモール内で自主製品の販売イベントを行うことも「地域産業との連携」の一つです。ただ、今回、改めて「地域の産業と福祉の連携」をとり上げているのには理由があります。これまで地域の福祉事業所は「何か私たちに仕事をください」「私たちの作った商品を買ってください」と地域の企業や団体、市民に対して協力をお願いしてきた傾向があります。障害者理解・啓発という点では大切な取組です。しかしながら、福祉施設が取り組む「生産活動」は立派な「経済活動」であり、商品やサービスを通じて、お客様や地域社会の役に立つことができるのだと考えれば、事業可能性をもっと広げられるのではないでしょうか。地域の産業や地域の抱える課題に目を向け、企業、自治体、地域団体と連携してさまざまな成果をあげている福祉事業所はすでに全国にあります。

「地域産業×福祉」が期待される背景・理由を整理してみました。

１．地域で働く障害者に対する社会の認知が広がっていること

農福連携の推進、障害者雇用の広がり、クラウドファンディングやSNSを通じて福祉事業所の活動や商品を知る機会が増えたことなど、障害者が多様な働き方をしていることが広く認知されるようになりました。繁忙期の農作業に取り組む障害者は農家にとって貴重な戦力になっています。SDGsの観点からも福祉事業所とのコラボレーションに興味を持つ企業が増えています。

２．生産活動の新陳代謝が必要であること

従来から取り組んできた生産活動の中には、市場がそもそも小さかったり縮小しているものがあり、事業転換が必要になっています。企業から仕事を受注する場合も、市場の変化に応じた対応が求められます。事業の新陳代謝を進める過程で、地域に求められる商品・サービスを選択することは自然な流れです。人手不足で困っている企業や後継者難で技術の継承が危ぶまれる産業に福祉事業所が関わり、障害者の仕事として連携することができれば、企業にとっても困難を乗り越えるきっかけになるのではないでしょうか。

３．人口減少、8050問題、社会的孤立・・地域全体で取り組むべき課題解決に、福祉事業所として参画する意義

地域が抱えるさまざまな社会課題は地域全体で取り組むべき課題です。地域を巻き込み、課題解決に取り組むことは福祉事業者としてのミッションでもあると思います。生産活動という手段を使って地域に貢献することは、障害者が支援を受ける存在から、支援する側に回ることを意味しており、共生という意味でも大きな意義があると思います。

3 地域産業と福祉の連携の主なイメージ

地域産業と福祉の連携の具体的なイメージは以下のようなものです。

六次化、地場産業、伝統工芸、リサイクル素材を使った商品開発、地域課題解決、地域活性等々。地場産業の中には特産野菜の加工品や伝統工芸の生産・販売も含まれますので、それぞれのテーマが明確に分かれるわけではなく、重なる部分もありますが、こうしてみると、福祉事業所がこれまで取り組んできたことも近いイメージを持たれる方も多いと思います。見方を変えれば、これまでの経験を生かしつつ、改めて地域の産業やその価値に目を向けると、事業所で働く利用者の皆さんの活躍の場がまだまだありそうです。

六次化商品 × 福祉

・特産野菜・廃棄食材・有害鳥獣などを使った商品開発
・農福・水福・林福から生まれた地域の特産品づくり　等

地場産業 × 福祉

・社員の高齢化や人手不足を課題とする地場産業企業への施設外就労
・地場産業を取り入れた自主製品開発　等

伝統工芸 × 福祉

・織物、和紙など伝統工芸品の製造工程の一部を事業所が担当
・伝統工芸品の製造技術を用いた自主製品の開発 等

リサイクル素材 × 福祉

・廃棄される商品を再利用して作った自主製品
・環境問題対応して商品・仕組みづくり 等

地域課題解決 × 福祉

・高齢者支援
・空き店舗対策
・防災活動
・自治会活動の維持
等に事業所が生産活動の一環で参画　等

地域活性 × 福祉

・観光振興
・町おこし
・Uターン、Iターンの雇用創出
・交流人口・関係人口拡大
などに寄与することで、生産活動にも好影響 等

4 連携による地域企業等のメリット

地域の企業や団体、自治体等が福祉事業所と連携するメリットには以下のようなことが挙げられます。

福祉事業所というハブを使った社会貢献型ビジネスの実現

地域に点在する就労継続支援事業所は、事業を通じて地域福祉に取り組んでいます。CSR（企業の社会的責任）から CSV（共通価値の創造）へのシフトが進む中、地域に根差し、事業と福祉の双方にフィールドを持つ福祉事業所をハブとして連携・活用することは、企業の目指す社会貢献型ビジネスを実践する上で有効な方法です。

経営マネジメント面の改善効果

農福連携は農家にとって「売上・収益の向上」につながる有効な手段の一つと評価されています。障害者が働きやすい作業手順や環境を整備することが従業員の意欲向上や生産性向上につながったという声も挙がっています。他の産業においても、障害者の適性に合わせた仕事をマッチングさせることにより、同様の効果が期待できます。

商品・サービス品質の向上・訴求力の向上

障害のある人の中には、繰り返し作業が得意な人、正確性を追求できる人など、細かな手作業に向いている方たちがいます。技術の習得には時間がかかるかもしれませんが、品質向上に寄与できる可能性は大いにあります。また、福祉施設の取組は地域の共感を呼び、訴求力も期待できるでしょう。

奥行きと継続性のあるSDGsの取組

環境問題への対応やリサイクルなどＳＤＧｓの取組が活発になっていますが、さらに地域の福祉事業所をパートナーに加え、障害者の就労促進に寄与することで「貧困をなくす」「不平等をなくす」「住み続けられるまちづくり」など取組のインパクトは大きなものになります。障害者を巻き込むことは地域を巻き込むことであり、その責任は大きくなりますが、やりがいのある取組になることは間違いありません。

5 地域産業型福祉に取り組んでいる事業所の特徴

全国の福祉事業所の中には、すでに「地域産業連携型福祉」といえる事業展開で、存在感を発揮している例が見られます。その特徴は以下のとおりです。

ハイクオリティな自主製品が地元企業を呼び寄せる

モノづくりを行っているメーカーや、魅力ある商品を探している流通企業は、福祉事業所が作っている高品質の商品に注目しています。自主製品の品質が高く安定していること、製造・販売の実績を地元企業の社長さんはよく見ています。モノづくりで地域の企業と連携している事業所は、もともと作っていた自主製品の高い評価を基盤として、コラボレーションにつながる例が多く見られます。

企業や団体に「ここぜひ一緒にやりたい」と思わせる特徴（強み）を持っている

「伝統工芸をモチーフにしたデザインの商品を作りたい」「自社の仕事の一部をアウトソーシングしたい」「どんな仕事ができるのかわかれば、施設に作業委託をしてみたい」。企業の担当者がそう考えたときに、企業が求めている期待に応えられるかどうかがポイントになります。 連携実績を持つ事業所は、地元の経営者が安心するような強みを持ち、それをしっかりと伝えています。「小口の注文も受けられる」「人手がある」「製造機械を持っている」などリソースを示すことも企業の安心感につながります。

地域の困りごと・地域課題にアンテナを張っている

福祉事業所は地域との良好な関係なくして成り立たないことを考えれば、地域課題に関心を持つことは基本と言えるかもしれません。今、地域では誰がどんなことに困っているか、に着目したり、地域で元気を失いつつある産業を維持・発展させるためにできることはないかという視点で考えることは、地域福祉の観点からもビジネスチャンスという点でも重要です。

地域産業連携型福祉の実績を持つ事業所は、地域の経済団体の会員となったり、自治会や商店街の活動に参加して、地域を支えながら、経営者人脈を作っていることも確認されました。活動を通じて、地域の生きた情報をつかんでいます。

地域の福祉事業所が連携し、発信している

企業が福祉事業所に関心を持ち、連携を考えた時に最初に問い合わせる先としては、県や市に作られている「共同受注窓口」が利用されていることがわかりました。新聞やメディアで福祉事業所の取組を目にしたことがあるが、いざ、声をかけようと思った時にどこに連絡すれば良いかわからない、ということはよくあり、共同受注窓口や事業所ネットワークの存在や活動を日頃から発信しておくことは連携のきっかけを作るうえで有効です。

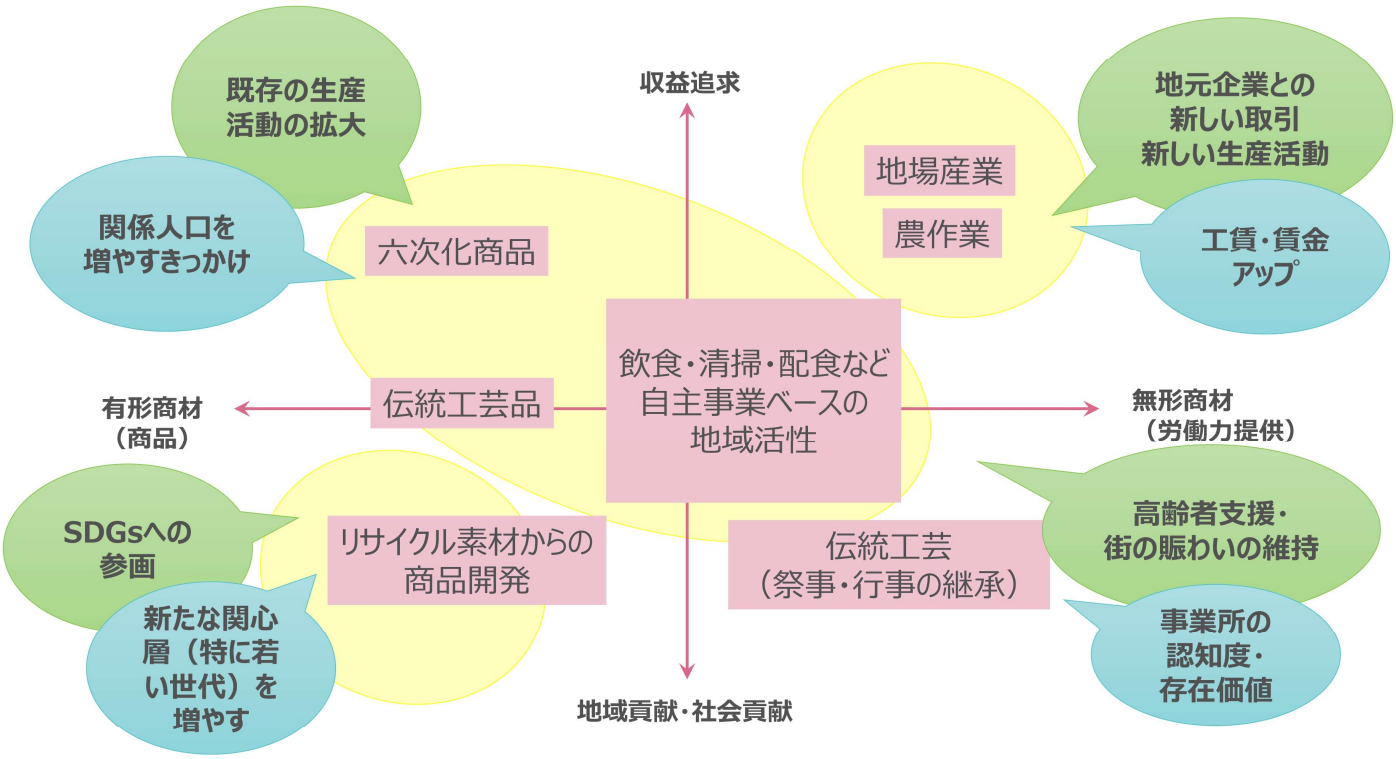
6 期待される連携効果

地域産業型福祉にはさまざまなテーマが考えられますが、福祉事業所が取り組むうえでは、何を目指して取り組むのか、その目的を明確にしておくことが重要です。下図は、縦軸に「収益追求」と「収益よりは地域貢献・社会貢献」という軸、横軸に「有形商材（形のある商品）」と「無形商材（サービスや労働力の提供）」という軸をおいて、連携テーマごとにプロットしたものです。

地場産業や六次化商品については、生産活動としてもイメージしやすく、利用者の適性に合わせた職域を設定し、生産性を追求することで、売上・工賃の向上に寄与する事業になる可能性が十分あると思います。

一方で、リサイクル素材の商品開発や伝統工芸に係る連携については、最初から高い収益を目指すのは難しい側面があると考えます。ただ、環境問題やSDGsに関心の高い若い世代が福祉についても知るきっかけとなる点では、将来への希望を感じる連携ですし、地域の文化を絶やさず次の世代につなぐ役割を福祉事業所が担うことになるのであれば、その意義は大きなものです。利用者のやりがいや誇りにつながる取組にもなるでしょう。

図の中央にある、これまで福祉事業所が取り組んできた事業の拡充による「地域活性」テーマの連携については、4象限のどの方向性でも可能性を広げることができると思います。



7 事例から地域連携を考える

この冊子では、全国の地域産業連携型福祉の事例を紹介します。「地域産業との連携とは何を指すのか」を探りながらの事例収集でしたので、目新しい事例というよりは、今まで取り組んできたことの延長戦上の事例が多いかもしれません。ですが、ここで紹介した事例をきっかけに、地元企業との連携を強化したいと考えた時には、この冊子を使って地域の企業や団体に働きかけることで、ともに地域の課題を解決しようという新たな連携を生み出すことができるのではないかと考えています。企業の方にも見ていただきやすいよう1事例2ページで構成した事例になっていますので、類似する連携を作りたい場合には、是非該当ページを企業の方にも見ていただき、営業ツールとしてご活用ください。

連携テーマ	内容	ページ
伝統工芸	石見神楽、若狭塗り箸、三原だるま、東北地方伝統の裂き織りなど、地域に古くから伝わる伝統工芸品づくりと福祉の連携事例	7~14
地域活性	観光振興に貢献する土産物の開発、地域の賑わいづくりなど地域の企業や団体とともに地域活性に取り組む事業所事例	15~24
地域課題解決	高齢者の健康維持、見守り、買い物支援、地域コミュニティの維持・活性化、棚田の維持、民間企業が受託しにくい役務の受注など地域の企業や自治体の要請に応じた地域課題解決に取り組む事業所の連携事例	25~42
地場産業	農林水産業や地場産業とコラボレーションした特産品開発など地場産業と福祉の連携事例	43～52
六次化	地元の生産者、一次加工業者と連携して取り組む六次化商品の開発事例	53～56
リサイクル素材	木材の再利用、自然素材だけで作るアウトドア用品、制服やユニフォーム、シートベルトなど自動車パーツの再利用など、循環型得エコノミーを創出するリサイクル素材のアップサイクル商品の開発事例	57～67

伝統工芸×福祉

福井県
小浜市

若狭塗箸の老舗メーカー
株式会社イシダ

就労継続支援Ｂ型事業所
株式会社縁（ゆかり）

株式会社イシダのショールームに
展示されている若狭塗箸

一本一本手作業で行う

製造中の箸

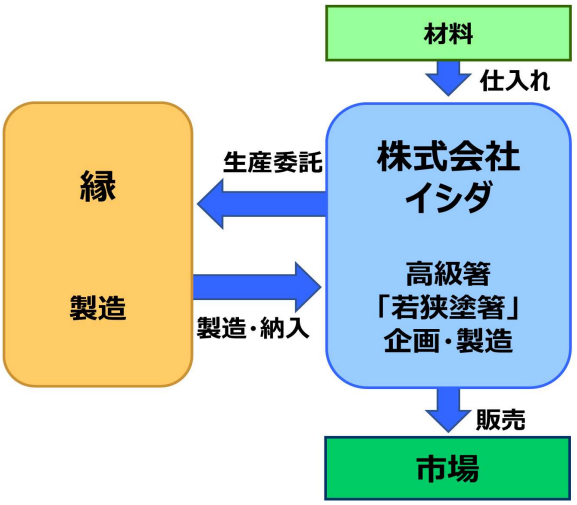
イシダのブランドのひとつ

製品となった箸

連携の概要

「小浜市を代表する伝統工芸品“若狭塗箸”の製造工程で連携」

福井県小浜市で創られる箸は若狭塗箸と呼ばれ、日本の塗箸の80%以上の生産量を占めている。小浜市の若狭塗り箸のメーカー「株式会社イシダ」（以下、イシダ）と同市内の就労継続支援Ｂ型事業所、株式会社縁（以下、縁）が製造工程で連携している。イシダは高級箸、土産・贈答品用の箸を扱う市内でも規模の大きな老舗企業。箸の製造工程は木地づくりから塗り、研ぎ出しまで多岐に渡り、その一部を縁が担っている。若狭塗箸という伝統工芸品の生産に関わる福祉事業所は多いが、縁は「内職」にとどまらず「製造」に関わっている希少な事業所である。



【連携のきっかけ】

イシダとの連携は縁が事業を始めた2013年から行っている。もともと箱の製造に携わっていたが、売上が落ち込む時期に近隣のメーカーであるイシダの箸を内職する機会があり、今に至る。縁の事業所は2階建ての民家で乾燥室の機材を設置できる広さがあることなどから、製造工程に関わるようになった。クオリティが問われる工程で職員を中心とするスタッフたちの積極的な技術力の向上が事業の継続につながっている。

【連携の特徴】

- 若狭塗箸の「内職」に関わっている事業所は多いが、縁は「製造」過程を担うほぼ唯一の福祉事業所である。「内職」とは箸の袋詰めなど製品の完成後に発生する作業を指し、「製造」は箸の製品化の過程で発生する作業を指す。
- 箸のつくり手は手作業主体の職人事業者も多い中、イシダは複数の工場を持つ小浜市内の有数の大規模メーカーである。
- 両業者は円滑な連携事業のために現場見学の機会を持つなど、信頼関係の構築に努めている。

【連携の成果】

- 福祉事業所は若狭塗箸の生産に関わる内職だけでなく製造加工にも関われるのだという理解が地域の企業等に広がった。
- 施設外就労のほうが高い工賃を出せる中、屋内の静かな場所で安定した生産活動を行ない高工賃を実現している。
- 地域産業にプレイヤーとして関わっていることが利用者の自信につながっている

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
沈金	レーザーで彫られた模様に金などの塗料を塗り込み、吹き上げて模様を浮かび上がらせる	持続性のある人
糸巻き	塗料に糸を沈めて、糸の上で箸を転がす	技術習得のための理解力がある人、手先の器用な人、状態の把握ができる人、作業について積極的にコミュニケーションがとれる人
平巻き	スポンジの上に塗料を塗って、模様の境目を消す	

【ここが違う！縁の取組み】

内職ではなく、重要な製造工程の一部を請け負う

① 縁ではできあがった箸を封入するなどの内職的な受注ではなく、磨く・塗るなどの製造工程の一部を業務委託で受注している。
② 箸の製造工程は成形する「木地づくり」から、模様や重ね塗りを行う「塗り・研ぎ出し」を経て完成するまで20近い工程をたどる。縁はその中の最終工程の数段階に携わっている。様々な作業で構成されているため、仕事を切り出しやすく、できる作業をできる人に割り振りしやすいのが特徴。
③ 乾燥設備を事業所内に設置することで完成品を傷つけることなくイシダに納入できる。製造工程の一部を担う〝工場"として位置付けと役割意識を持っている。
④ 製造過程に関わる唯一の事業所という自負もあり、クオリティ向上のために改善を積み重ねているため技術力が高い。企業へ改善面の提案も行っている。
⑤ イシダへ納入した製品を縁がつくった製品として卸してもらい、福祉事業所が集まるイベントなどで販売している。

磨き上げる作業

糸巻きの作業

これから取り組む事業所に WIN−WINのポイント

株式会社イシダ
代表取締役社長　石田茂樹氏

品質には妥協せず、正確な納入を依頼できる外注先

障害者が働く福祉事業所だからという理由で品質に妥協することはありません。できるだけ正確に納品してもらうよう依頼しています。一方で障害者就労支援に関わっていることで社会的貢献ができたらと思っています。この連携では当社としてもまとまった数を発注できる外注先ができてありがたいです。

株式会社縁
縁（ゆかり）
代表取締役　北山政道氏

品質向上のために工夫や改善は必須です

製造の一部を担っている唯一の福祉事業所としてこの事業には力を入れています。福祉事業所という理由で品質が劣っていると言われたくないので、現場では品質を上げるため利用者の特性に合わせた治具や作業方法を（株）イシダの担当者と打合せを行い対応頂くことで生産効率の向上にも努めています。

縁（ゆかり）のホームページへ
美しい若狭箸についてご覧いただけます。

法人名 事業所名	株式会社縁 縁(ゆかり)
住所	福井県小浜市東市場38-17
TEL	0770-56-3066
URL	https://yukari-obama.hp.peraichi.com/

伝統工芸×福祉

島根県
浜田市

神楽という伝統を継承する団体

神楽社中

就労継続支援Ａ型・Ｂ型事業所(多機能型)

ワークくわの木金城第２事業所

神楽舞いの公演の様子

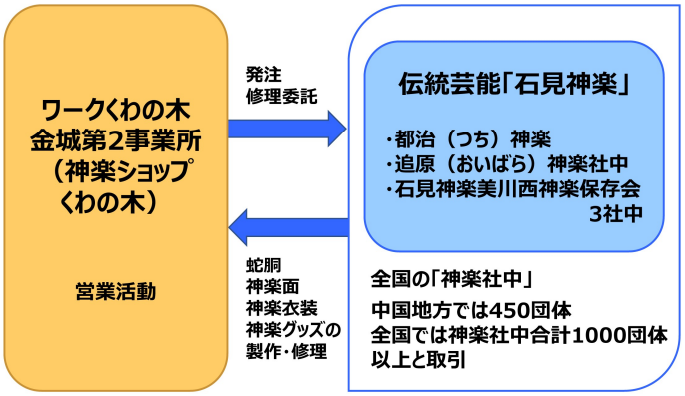
仕立て

竜　金糸掛け

連携の概要

「石見地方の伝統芸能「神楽」の衣装、蛇胴、面の製作販売」

島根県の石見地方は古くから「神楽の里」とも言われ、「石見神楽」という伝統芸能が継承されてきた地域である。「ワークくわの木金城第２事業所」は障害者の職業訓練や職業自立の一環として、石見神楽の衣装や蛇胴、神楽面などの製作や修理を行っている。連携先は販路として全国の神楽社中が対象となる。数にすると中国地方450、全国1000以上の団体と取引を行っている。また、同事業所では神楽衣装・蛇胴・お面の製作にとどまらず、石見地方の伝統産業である和紙生産も行っている。店舗機能を併せ持つ神楽ショップくわの木では神楽を舞う事に必要な道具等も幅広く取り扱っている。



【連携のきっかけ】

1974年神楽産業にはじめて挑戦した。当初は屋台やお土産物屋で売るおもちゃの面である玩具面制作からスタートした。その後、蛇胴や神楽衣装へと製作に挑戦していった。伝統産業に携わる業者間ではモノづくりの技術を互いに教え合うことは皆無。本格的に神楽産業に挑戦した蛇胴制作では商品として地域から信頼を得るのに10年以上の歳月を要したが次第に評価していただける蛇胴が製作できるようになった。現在は島根県・広島県を中心に全国の神楽団から注文が入るようになり、年間50-60本の蛇胴をはじめとする神楽衣装・神楽道具の製作販売を行っている。

【連携の特徴】

- 石見神楽は地元で愛されている伝統芸能であり、長い歴史の積み上げがある。地域全体で事業を守るという雰囲気がある。
- 県内の福祉事業所では同業がなく、同事業所は石見神楽商品の製作販売を事業として行う貴重な存在である。
- 事業所の職員数名が連携先（地元の神楽社中）のメンバーでもあり、事業に顧客の視点を活かすことができる。

【連携の成果】

- 事業継続の中で作業改善に取り組んでいる。そのひとつに工程を分散させて多人数で対応することで生産性を向上させて納期短縮を図った。
- 技術力の向上はもとより神楽ショップくわの木という商談の場を設けてきめの細かい商談を行い適性価格の設定に努めている。
- 当初は神楽団の練習場を訪問して直接営業をしていたが、実績を積み、現在はホームページを通じて全国に宣伝できている。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
綿糸への蝋引き	綿糸に蝋を塗り付ける	単純作業を黙々とこなせる人
生き物綿詰め	下絵に沿って綿を用いて竜や虎を成形する	手先が器用な人・黙々と作業をこなせる人・立体的な凹凸を表現する感性がある人
生き物仕上げ	金糸掛けした竜や虎にガラスを用いて目玉を入れたり眉毛・キバを取り付ける	丁寧に作業ができる人・目玉や眉毛を表現する感性がある
平縫い刺繍	デザインされた図柄に沿って金糸・銀糸で刺繍する	丁寧に作業できる人・手先が器用な人・黙々と作業をこなせる人
仕立て・縫製	刺繍が全て完了すると専用の糊で糸止めを施し、乾燥後台から取り外した生地を縫製する	縫製の知識を持っている人

【ここが違う！ワークくわの木金城第２事業所の取組み】
納期の短縮と適正価格の設定。顧客ニーズをしっかり把握

① 利用者が携わる作業工程では難易度の高いものとそうでないものを分け、利用者の特性や技術の熟練度よって人を配置した。地域からはパート従業員や家庭内職を雇用し共働・協働を実現することで納期短縮をはかった。以前は納期まで２～３年かかることもあったが、現在は1年に短縮できている。
② 価格がわかりにくい商品だが、他店との価格差をリサーチするなど適正価格を分析し、事業所と顧客の両者が納得のいく金額設定を行っている。
③ 一般的に神楽社中の予算内で作り手が自由に作るところを、同事業所では神楽ショップという商談の場を設けて顧客のニーズを引き出し、ニーズに合うものをつくっている。この点が成功のポイントとなっている。
④ 同法人には石見神楽を演じる「いわみ福祉会芸能クラブ」があり、海外公演も行っている。舞い手がいるから成り立つ神楽産業で、全国の神楽の普及の位置役を担っている。

平縫い刺繍

竜　仕上げ

これから取り組む事業所に WIN－WINのポイント

都治神楽社中 桑原史寿氏
追原神楽社中 高原真氏
石見神楽美川西神楽保存会 後藤純希氏

生産力、対応、利便性などよいところがたくさんです（写真左から桑原氏・高原氏・後藤氏）

神楽衣装を扱う店は家内工業的なところが多いのですが、福祉事業所と連携することで生産スピードが向上したと思います。新設の社中の注文にも親切に対応してくださいます。神楽ショップは道具一式が何でも揃う利便性の高いお店です。

社会福祉法人いわみ福祉会
ワークくわの木金城第2事業所
係長 佐々木満氏

伝統を守りながら新しさも取り入れていきたいです

当事業所の商品が全国に知られるようになるまでかなり時間がかかりましたが、これからも積極的に情報発信をして、できるだけ多くの人に石見神楽のことを知っていただきたいと思います。伝統を守る一方で、衣装では若者向きのデザインを考案するなど、時代に合わせた表現もしていきたいですね。

作業の様子を写した動画を公開中！
利用者が実際に作業している様子をご覧いただけます。

法人名 事業所名	社会福祉法人いわみ福祉会 ワークくわの木金城第２事業所
住所	島根県浜田市金城町下来原1541-８
ＴＥＬ	0855-42-0039
ＵＲＬ	http://www.iwamifukushikai.or.jp/kanagi2.html

伝統工芸×福祉

広島県
三原市

150年以上の歴史をつなぐ伝統工芸

三原だるま保存育成会

就労移行支援・就労継続支援Ｂ型事業所

株式会社WISH

和紙をつくる作業　ミキサーで撹拌する（中国新聞撮影）

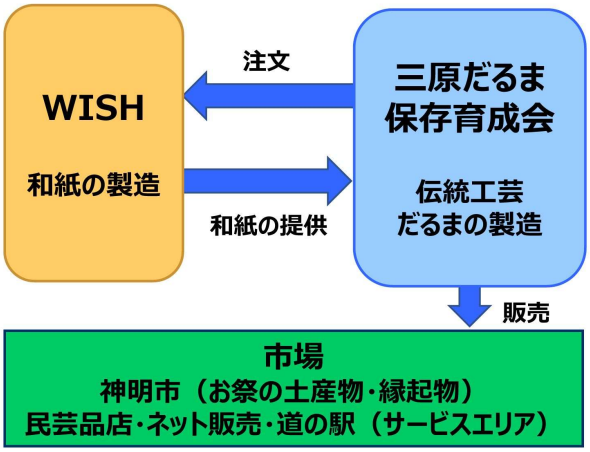
手作業が中心

三原だるま

連携の概要

「和紙生産で地域の伝統工芸品“三原だるま”の伝承に貢献」

三原だるまは150年以上前から伝わる広島県三原市の伝統工芸品。特殊な和紙で形を作り、すべて手作りで色塗りや面相描きを行っている。その三原だるまの和紙を「株式会社WISH」がつくり、「三原だるま保存育成会」に提供している。三原だるまの製作に携わる職人は高齢化のため年々減少し、今では同保存育成会のごくわずかな人数が製作に携わっている。また、これまで和紙を製作していた職人も高齢のため生産が途切れるところを、WISHが引き継ぐことになった。地域の伝統工芸を守る連携事業となっている。



【連携のきっかけ】

三原だるまの形を作る際に使われる和紙の製造を行っていたのは、埼玉県の和紙の里の1箇所のみ。そこでの生産が途切れることを機に、三原市の観光協会を通じてWISHに話が入った。和紙でハガキ等をつくる福祉事業所は他にもあるものの、三原だるまで使う和紙は大きさや作り方が独特なため請け負う事業所がなく、WISHが着手。代表の山田氏が和紙の里から作り方を習い、独自の過程を考案した。現在で8年間継続している。

【連携の特徴】

- 三原だるまは約150年以上の歴史を持つ伝統工芸品だが、現在は作り手が少なく、三原だるま保存育成会のみが作っている。
- 販路は三原市で毎年2月に行なわれる「神明市」。約500もの露店と人で賑わう地元の祭りで、だるまを買うのが地域の風習となっている。
- WISHが生産を引き継ぐにあたって、和紙の製造工程を簡略化・独自化した。特殊な設備は不要なのが特徴。

【連携の成果】

- 職人の高齢化で途切れそうになった和紙の生産をWISHが引き継いだことにより、三原市の伝統工芸の歴史をつなぐことができた。
- 地域の特産品に携わる仕事を請け負い、実際に売られているだるまを見ることで、事業所の利用者が仕事にやりがいを感じている。
- WISHが独自に考案した和紙製造のプロセスは三原だるまの成形にとどまらない用途として広がる可能性がある。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
枚数数え	新聞紙、コットンの枚数を分ける	確実に枚数を数えられる人
切る	新聞紙、コットンを切る	一定の大きさで切れる人
撹拌	ちぎった新聞紙と和紙の切れ端を水を入れたミキサーで撹拌する	量が的確に測れる人 座って作業が出来る人
厚み調節	木枠に流し入れ、水を抜き、厚さを手で均等に広げていく	均等な感覚が分かる人
乾燥	天日干しにする	丁寧に作業が出来る人

【ここが違う！WISHの取組み】

簡単に入手可能な原材料を使い、製造工程を考案

① 三原だるまの形を作る際に貼り合わせていく和紙（張子紙）をつくっている。その張子紙から三原だるまが作られる。
② 埼玉県和紙の里から製造方法を伝授され、WISHでは本来の工程を簡略化した工程を考えた。原料は新聞紙とコットンのみ。新聞紙を手作業でちぎり、和紙独特の長い繊維質は木の皮の代用品としてコットンを使用している。それらをミキサーで撹拌し、手製の木枠に流し込み、漉き作業には市販の網戸を使い、ベニヤ板で押圧する。市販の原料と設備で製造が可能である。そのうえで三原だるまの品質を確保している。
③ WISHでは現在三原だるまの制作のための和紙生産にとどまっているが、今後は他の人形の下地として使うなど他の用途で利用できる可能性もある。

木枠に流しいれる

ベニヤ板で押える

これから取り組む事業所に WIN−WINのポイント

三原だるま保存育成会
代表 鳥生悦郎氏

コロナで神明市が中止
少しずつでも作り続けます

WISHさんで創っていただいた和紙はだるまの本体に使っています。枚数を注文し、納期をお願いしています。品質についてはこちらが提案する課題を前向きに取り組んでくれます。コロナの影響で神明市が2年連続で中止になりました。売れ行きはずいぶん減りましたが、少しでもつくっています。

株式会社WISH
WISH
代表 山田賢治氏

今後は生産量を
増やしていきたいです

地域の歴史ある伝統工芸に関われる仕事ということが皆のモチベーションになっています。今は事業所の小さな屋外スペースを使ってつくっているため生産量が限られていますが、設備を整えて生産量を増やしていきたいですね。そしていずれはだるまをつくっていけたらいいなという思いもあります。

事業所ホームページへのご案内です。
事業所の活動を俯瞰的にご覧いただけます。

法人名 事業所名	株式会社WISH WISH
住所	広島県三原市城町1-15-1旭ビル201
ＴＥＬ	0848-38-9555
ＵＲＬ	http://wish20131101.mond.jp/

伝統工芸×福祉

岩手県
盛岡市
一関市

創業100年　染め・デザイン・加工
自主一貫の染物店
株式会社京屋染物店

就労継続支援Ｂ型
幸呼来（さっこら）Japan

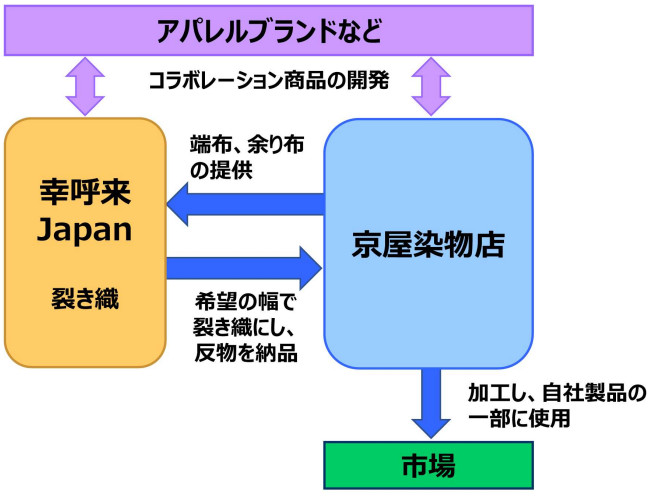
京屋染物店から預かった端布、余り布を裂き織として再生
タグとして商品の一部に

アウトドアブランドSnow Peakとのコラボ商品

連携の概要

「老舗染物屋が自社製品の端布・余り布から作られた裂き織を使って土地の香りのするオリジナル商品を開発」

東北地方の伝統技術である裂き織を事業化した幸呼来Japan。地元メディアや催事販売で優れた商品に注目していた京屋染物店の社長から声がかかり、連携がスタートした。裂き織は、古くなった布や浴衣を細く裂き、織物の横糸として織り込むことで新しい布に生まれ変わらせるという、日本伝統の“アップサイクル“技術。手染めにこだわる京屋染物店の製品は端切れ、余り布も貴重な存在。これを預かり、裂き織の反物にして納品するのが基本の連携スタイルとなった。京屋染物店では、裂き織となって戻ってきた布を商品のモチーフとして使用する。サステナブルなモノづくりが注目を集め、京屋染物店を通して大手アパレルとのさらなるコラボレーションも生まれている。



【連携のきっかけ】

幸呼来Japan代表の石頭氏が裂き織で事業所を立ち上げたきっかけは、特別支援学校の授業で行われていた裂き織づくりを見学したことだった。こんなすごい技術を埋もれさせるのはもったいないと、社内ベンチャーを立ち上げ、軌道に乗りかけたまさにその時、震災に遭い、独立を決意し、福祉事業所を立ち上げた。復興を応援してくれた多くの企業との出会いを通じてさまざまな経験をする中で、品質管理や企業との取引について学び、経営力を磨いてきた。一方、京屋染物店社長の蜂谷氏は、伝統を守りつつ挑戦する経営スタイルで地域活性をけん引する存在。地元の企業の共存共栄で地域を盛り立てていこうと常にアンテナを張っている中、両者を結びつける出会いがあり、連携が始まった。

【連携の特徴】

- 京屋染物店と幸呼来の連携は伝統工芸×伝統工芸、かつ、時流にあったアップサイクル型商品であり、ストーリー性が高い。循環型モデルを模索しているアパレル業界の中でも注目度の高い取組みとなっている。
- 京屋染物店の藍染は、数種の幅の横糸に加工した上で反物として納品する。素材として提供することで、活用の仕方は企業次第であり、商品展開の可能性が広がる。

【連携の成果】

- 京屋染物店では、商品のタグ、ポケットのデザインなど裂き織を使った定番商品を製造・販売しており、継続的な連携が実現している。
- 京屋染物店を通じ、Snow Peak社とのコラボレーションで「LOCAL WEAR IWATE」が生まれた。
- 「企業の残反を預かり、裂き織の技術を使って新しい生地に再生し、企業に新たな価値を持つ素材を提供する」という取り組みが評価され、幸呼来Japanは2018年にグッドデザイン賞を受賞した。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
布ほどき	浴衣、端切れなどの縫い目をほどき布にする	手先の器用な人
染色	決まった時間、糸や布を染料に浸水し、染める	体力のある人 集中力のある人
布裂き	布を、一定幅にはさみで切りこみを入れ、思い切り引っ張って、裂く 裁断機を使って、一定幅の布になるよう慎重に切る	手先の器用な人 集中し、正確に作業ができる人
糸巻	織機にセットするたて糸を糸巻機を使って巻き上げる	正確に作業ができる人 注意力のある人
織り	織機を使ってたて糸、横糸を組み合わせ織っていく	正確に作業ができる人 集中力のある人

【ここが違う！幸呼来の取組み】

安定品質・量産・素材提供・・サステナブルな伝統工芸事業モデルを構築したことで、企業が組みたいパートナーになっている

① 企業とコラボレーションできる裂き織の秘密は、幅とカラーを規格化した横糸にある。端布、余り布を適当に裂いてそのまま織り込む、単なる裂き織ではない。そのための工程として、染色（残反の染め直し）や機械裁断（ペーパーカッターを使用）があるが、高い技術が求められる。
② 作業ごとに求められる適性が異なり、織りの作業もよこの糸や織幅によって難易度が異なる。そのため、適材適所でいかに得意な分野で力を発揮してもらうか、作業マッチングと技術力向上の支援が重要である。
③ 生産の効率化には現場の工夫も欠かせない。裂いた布の糸巻には丸椅子と手作りの糸巻台を組み合わせて活用している。
④ 企業とのコラボレーションの際には、素材提供の場合でも、必ずダブルネームをお願いしている。受注額についても時間当たりの単価を計算し、採算がとれる価格での提案を行っている。

幅の揃った裂き布

長い残反を裂き、巻くために手作りの道具を活用

これから取り組む事業所に WIN−WINのポイント

株式会社京屋染物店
代表取締役 蜂谷悠介氏

良い工房さんだからコラボするというスタンスです

幸呼来Japanさんに対して、福祉施設だから一緒に仕事をしようという意識は特にありません。障害のある人が作っているから心配ということは全くなくて、その組織のリーダーが信頼できる人であれば、協力しあって、お互い良い経営ができればいいし、地元を元気にしたいと思うだけです。自社の使命は和の文化を作ること。世界を相手に仕事を創っていきたいと思っています。幸呼来さんとともに商品価値を高める取り組みをしていきたいですね。

幸呼来Japan
代表取締役 石頭悦氏

京屋染物店さんとともに商品を世界に発信していきたい

地域産業連携と聞いて、京屋染物店さんとご縁をいただいていることがまず頭に浮かびました。東北の文化である裂き織を、地元の染物店さんとともに、持続性のある事業として育てていきたいと思います。時間のかかる手仕事の価値、布を捨てず再利用することの価値をブランディングすることにも力を入れています。利用者の仕事としては、根気のいる難しい作業が多いので、厳しい側面もありますが、難しいからこそやりがいも誇りも持てる仕事です。

作業の様子を写した動画を公開中！
利用者が実際に作業している様子をご覧いただけます。

法人名 事業所名	株式会社幸呼来Japan 幸呼来Japan
住所	岩手県盛岡市安倍館町19-41
ＴＥＬ	019-681-9166
ＵＲＬ	https://saccora-japan.com/

地域活性×福祉

愛知県
名古屋市

サ高住を含む480戸の公営住宅

大曽根住宅自治会

就労継続支援A型事業所

ソーネおおぞね

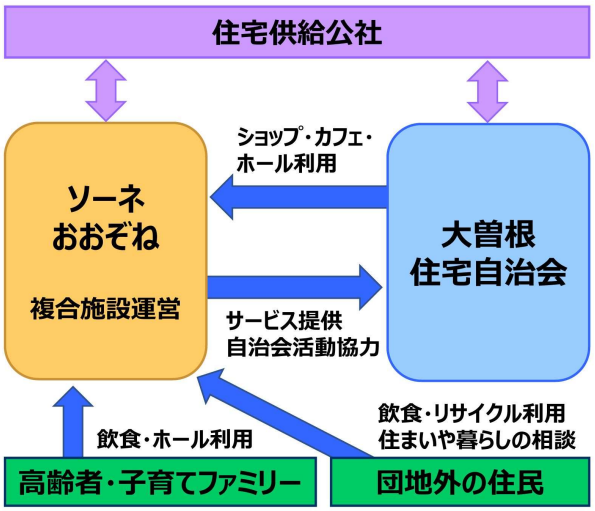
スーパー撤退後、ひっそりと静まりかえった団地１F商業スペースに活気が戻った

多世代の顧客が利用するカフェ・レストラン

連携の概要

「1000㎡の空間に作ったコミュニティ拠点が、法人理念を実現する新しい職場に」

ソーネおおぞねは、カフェ、有機野菜やパンのショップ、ホール、相談スペースを備えた複合施設である。隣には資源買取りセンターを設置している。公営団地の1階に作られた当事業所は、住民同士の交流を促し、また周辺からも人を呼ぶ地域総合交流拠点となっている。住宅供給公社が団地の一部を使ってサ高住（サービス付き高齢者向け住宅）を開設することになった際、長らく空き店舗となっていた場所に住民向けの店舗を出してもらえないかと声がかかったことがきっかけである。地域住民の代表である自治会とは、設立前から対話を重ね、コンセプトづくりに活かした。コロナ禍で当初の計画通りに進んでいないこともあるが、自主企画のイベントの他、自治会の夏祭りなどにも全面的協力し、地域を盛り上げることで周辺からの集客も促進されている。



【連携のきっかけ】

サ高住の運営会社から声がかかったのが、大曽根住宅に出店するきっかけだった。以前から住む旧住民、サ高住に住む新住民とも高齢者が大半であり、住民の暮らしや健康を支えることを目指し、飲食や物販の店を計画した。店のメイン顧客でもあり、支援対象でもある住民の代表として、自治会との活動を理解し、協力すること、要望を聞き、事業運営に活かすことは、経営上連欠かせない要素である。

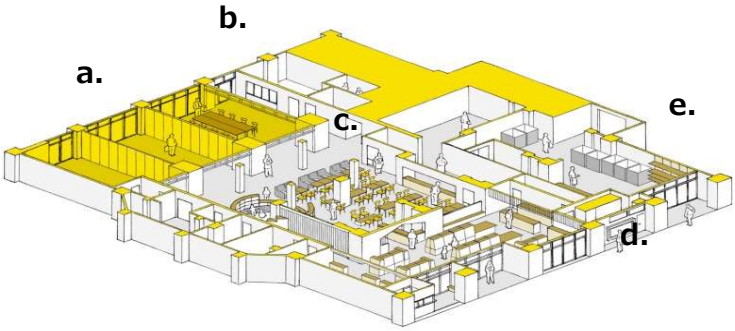
【連携の特徴】

- 住民の食事を支えるために、カフェは朝、昼、夜の3食の需要に対応している。
- 子どもの遊び場、家族向けの座敷席を設置するなど、周辺地域からの集客を意識した店づくりを行っている。ホール利用を含め近隣客の評判も良い。集客に成功することで、住民との自然な交流が生まれている
- 自店のイベントを頻繁に実施する他、自治会のお祭りにも積極的に協力し、賑わいを創出している

【連携の成果】

- コロナの影響を受け、カフェの回転率、ホールの稼働率など厳しい状況にあったが、広く地域に認知されていることで、客数は回復傾向にある。リピーターが多く、地域住民交流の中心的な場所になっている。
- 地域に根ざして活動を続けてきた就労支援事業所が、その経験を生かし、空き店舗をダイナミックに利用した店舗を作ることで、住民の利便性向上に寄与している。

施設概要



a. ソーネホール：イベントスペース
b. ソーネそうだん：地域サービス相談コーナー
c. ソーネカフェ：カフェ・レストラン
d. ソーネショップ：ショップ（パンなど）
e. ソーネしげん：しげん買い取りセンター

【ここが違う！ソーネおおぞねの取組み】
コミュニティ拠点に出店するのではなく、事業所自らコミュニティの核となるという発想

① 1000㎡のスーパー跡地利用。天井が高く、広々した空間で、お客様は他の人の存在を認識しながらもストレスを感じることなく食事を楽しむことができる。
② 民営のホールでさまざまな催しを行うことができる。大衆演劇は固定客がつく人気で、住民の楽しみになっている。ワクチン接種に関するセミナー、フェアトレードについての講座など多様なテーマの研修も行われている。自治会や地域団体の会議利用も気軽に使えて便利と好評である。
③ 長年、事業所を運営してきた当法人のノウハウを活かし、イベントを頻繁に実施している。ヤギを連れてきたイベントは、子どもたちにも大人気。自治会長も驚く賑わい演出で、団地が明るくなった。
④ 地域住民が誰でもなんでも相談できるスペースを設けたことも、地域への貢献の一つである。高齢者の相談のほか、生活困窮者等の居住支援、子育ての相談など福祉の各専門領域につなぐ役割も担えるのは、当法人が培ってきた支援の一つである。

勤務しているスタッフの皆さん

ダイニングカフェ

これから取り組む事業所に WIN−WINのポイント

大曽根住宅自治会 会長　戸塚淳詞氏

賑わいを作ってくれる存在。お互い言いたいことを言い合える関係を作りたい

天井が高くて広々したカフェは居心地が良くていいね。奥のホールも気軽に借りることができて助かっている。住民が高齢になって、旧住民とサ高住の住民が交流することはあまりないけれど、ソーネおおぞねが秋祭りや餅つきのイベントをやったり、自治会のお祭りもテントを増やして共同でやるようになって、賑わいを作ってくれるのはありがたい。これからもっとお互いに良い関係をつくれたらいいなと思っています。

特定非営利活動法人わっぱの会 ソーネおおぞね 理事長　齋藤縣三氏

共に働き・共に生きる社会を体現する場として

当法人の活動を始めて50年になります。共に働き、共に生きる社会をつくることを目指し、さまざまな事業を行ってきたことが、地域住民の暮らしに直結する事業として結実したのが、ソーネおおぞねです。コロナの影響は受けつつも着実に地域に浸透してきました。ここを拠点に仕事の充実を図るとともに、さらに暮らし良い街づくりに貢献できればと思います。

事業所ホームページへのご案内です。
事業所の活動を俯瞰的にご覧いただけます。

法人名 事業所名	特定非営利活動法人わっぱの会 ソーネおおぞね
住所	愛知県名古屋市北区山田2-11-62 大曽根住宅1棟1階
ＴＥＬ	052-910-1001
ＵＲＬ	https://sone-ozone.com/

地域活性（観光振興）×福祉

宮崎県
高千穂町

宮崎の名所、高千穂の観光振興を支える
一般社団法人
高千穂町観光協会

就労継続支援A型・B型事業所（多機能）
にじいろ

製造・販売拠点のそらいろ

メインストリートのにじいろカフェ

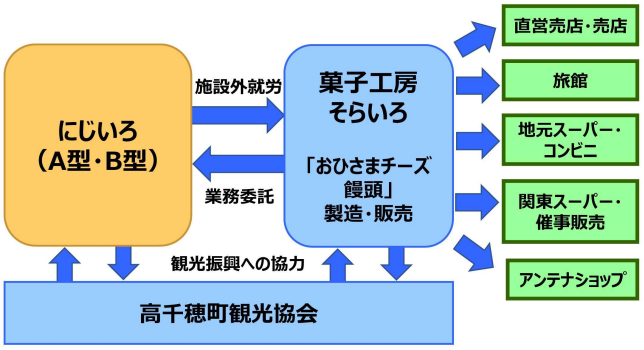
チーズ
まんじゅう

製造作業風景

連携の概要

「高千穂土産といえば“おひさまチーズ饅頭”その製造を支える“にじいろ”の利用者」

菓子工房そらいろの「おひさまチーズ饅頭」は高千穂観光土産として人気の定番商品である。高千穂峡は有数の観光地だが、お土産品が少なく、地元での消費行動が少ないことが地域課題となっていた。ここに目をつけた田尻氏とその母親が、勤めていた非営利活動法人で生産活動のひとつとして開発したのが始まりである。地元の評判もよく、さらに事業を拡大できると考えた田尻親子はその後独立して、法人を設立。観光土産としてのポジションを確立する上では高千穂町観光協会との連携が欠かせなく、観光協会の直営売店への納入を開始してもらったほか、諸々のアドバイスをもらうなど、地元での販路確保に協力をしてもらった。営業努力が実を結び、現在、商品は地元の道の駅、スーパー、コンビニエンスストア等で販売している。



【連携のきっかけ】

平成27年に田尻氏が観光協会会員として加わったことが最初の出会い。半年ごとに発行する機関誌でにじいろの活動を紹介したり、高千穂峡近くの直営売場でのチーズ饅頭の販売を開始したことから連携が始まった。その後、理事の発案ではじまった「販売支援事業」のメンバー（全６名）として自発的に加わり、積極的に発言されるなど町の観光事業の推進にも深く関わっている。

【連携の特徴】

- 菓子工房そらいろは、利用者の施設外就労先とすることを前提として作られた。
- 観光土産が少ないという地域課題に目をつけ、ターゲット・コンセプトの明確な商品を開発した。従来からあるチーズ饅頭を研究した上で特徴を打ち出した。
- 福祉事業所として企業と関わるというより、菓子工房そらいろ、にじいろが一体となって、地元の商工業者の一員として、観光振興に貢献している。

【連携の成果】

- 町内唯一の就労継続支援Ａ型事業所として、利用者に10万円以上の賃金を支給すると同時に、成果の見える、やりがいのある仕事を提供している。
- 商品は高千穂町を代表する土産品となり、県外販売や通販でも成果をあげている。
- チーズ饅頭の製造・販売という基幹事業を通じて地域企業等の信頼が得られ、Ｂ型利用者の受注作業の種類・量も年々拡大している。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
生地を切る	工程はすべて手作業でおこなっている	集中力・持続性・正確性がある人
餡となるチーズの分轄	小さめのディッシャーを使うことで、10㌘のチーズの塊から饅頭１個分のチーズを形よく分ける	集中力・巧微性・体力がある人

＊細分化された作業、一つ一つの作業工程において、職人でなければできないような難しい作業はない。生産性を考え、得意なところで活躍してもらう。
＊他にＨＰ制作、カフェでの接客など個々の利用者のニーズや適性に合わせた仕事を提供している。

【ここが違う！にじいろの取組み】
地域ニーズを発見し、商品開発力・障害者の生産力をマッチさせて生まれた逸品

① 観光名所でありながら土産物が少ないことに着目し、チーズ饅頭を開発。就労継続支援事業所を立ち上げる前に法人として製造・販売体制を整えてから利用者を迎えることとして、会社設立の3年後にNPO法人を立ち上げた。
② 宮崎県内ですでにチーズ饅頭は土産物の定番ではあった。商品開発は、既存の商品を十分に研究した田尻氏の母親が、独自のレシピを開発。栄養士の資格も持っていることから、衛生管理・品質管理も万全であり、販路の拡大でも問題なく対応できた。
③ 福祉を前面に出さず、商品力と積極的な営業活動でＡ型の事業を軌道に乗せている。利用者にとっても、自分の作ったものが、地元のあちこちの店で販売されていることや、全国の催事で販売されることに誇りとやりがいをもって取組めている。
④ 地域との緊密な関係は商品のバリエーションにも表れている。釜炒り茶という地元の製法で作られたお茶を使ったチーズ饅頭や、季節の果物のフレーバーをとり入れたチーズ饅頭は、結婚式の引き出物の注文をいただいた際に、お客様の要望から生まれた商品。

一つ一つ手作りで製造

種類も豊富に

これから取り組む事業所に
WIN－WINのポイント

一般社団法人高千穂町観光協会
地域振興課統括主任　丹波由香氏

高千穂町観光業の振興を担う大切な存在です

田尻さんは、高千穂町へ移住される前には他業界での勤務をされていたので、幅広い知識を持たれてます。そのような背景から、新しい発想による意見が多く、私たち周辺への刺激となっています。
将来に向けて、この町での基幹産業である観光業の振興には欠かすことのできない大切な存在です。

特定非営利活動法人彩り
にじいろ
理事長　田尻哲朗氏

商品を全国・海外に広めることが高千穂のPRにもなると思います

自分たちの作った商品が関東のスーパーや宮崎県の物産館で売られることが、利用者のやりがいや誇りにつながります。さらに全国・海外に展開していきます。商品を通じて高千穂観光の振興にも貢献したいと考えています。また、事業規模を拡大し、より多くの利用者の働く場としたい。自立することが望ましい方がたくさんいるように思うので、グループホームを作りたいと考えている。住まいがあれば、他の地域から転居して働くこともできます。

作業の様子を写した動画を公開中！
利用者が実際に作業している様子をご覧いただけます。

法人名 事業所名	特定非営利活動法人彩り にじいろ
住所	宮崎県西臼杵郡高千穂町三田井１１７１-7
ＴＥＬ	0982-83-0707
ＵＲＬ	https://nijiiro8.wixsite.com/website

地域活性×福祉

愛媛県
松前町

「印刷テクノロジー」をベースに
幅広い事業活動を展開
凸版印刷株式会社

就労継続支援B型事業所
インクルーシヴ・松山
ヒカリのアトリエ

利用者の作品

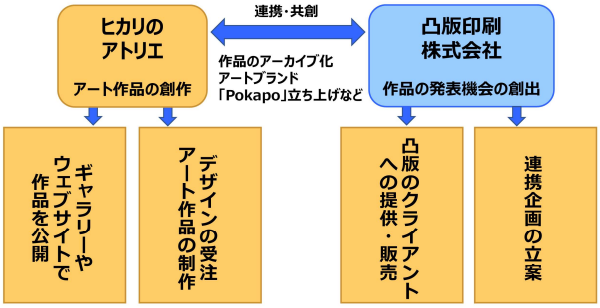
gallery inclusive

Pokapoのエコバック

連携の概要

「個性豊かなアート作品をアーカイブ化し、多くの人の目に触れる作品発表の機会を創出」

60人の障がい者アーティストから日々生み出される年間500点にものぼるアート作品を、凸版印刷株式会社（以下、凸版印刷）のリアルスキャン技術を使いアーカイブ化している。WEB上で、美術館のようなバーチャル空間を作り出し、世界中の人々に閲覧が可能となった。アート作品は企業の商品パッケージやプロモーションイベントのコンテンツやツールのデザインとして活用いただけるように販売スキームを構築している。2021年4月にはカフェとアートを融合させた会員制サロン「ART CAFÉ Inclusive supported by NESCAFÉ」を松山市にオープン。共同プロジェクト第二弾として、アートブランド「Pokapo」を立ち上げ、持つだけで支援になる！障がい者アーティスト応援「エコバック」を製作、同年10月18日より「Makuake」にて作品の露出機会を創出、販売を開始した。



【連携のきっかけ】

ヒカリのアトリエがホームページのリニューアルを相談したことが出会いのきっかけである。当事業所のビジョンに凸版印刷が共感し、同社の持つ「リアルスキャンの技術」を用いた共同プロジェクトをスタートする運びとなった。凸版印刷の社員が何度も事業所に足を運び、技術提供のみならず、PRやプロモーションについても議論を繰り返し行い、様々な可能性が生まれた。

【連携の特徴】

- 凸版印刷の担当者から役員に至るまで、ヒカリのアトリエの理念、方針、ビジョン、取り組み内容を深いところまで理解し、共感している。
- 「納期ファースト」ではなく、「利用者ファースト」を第一に、一人ひとりの個性や状況に応じた対応や連携を実践している。
- 繊細に表現された障がい者アート作品と作品の質感を維持したままデジタル化できる「リアルスキャン」との相性が良くアーカイブ化に適している。

【連携の成果】

- 凸版印刷の取引企業に対しアート作品を提供し、PRやプロモーション用のアート素材として活用いただける機会が増加。
- 愛媛県の広報誌やメディアでの露出、美術館での展示、海外自動車のディーラーのギャラリーに展示されるなど発表の機会の増加につながっている。
- ノベルティグッズやパッケージ化など社会とつながりを持つことで、工賃や自己肯定感の高まりなどの好循環が広がりつつある。

創作風景

創作風景

【ここが違う！ヒカリのアトリエの取組み】
企業の最先端技術で障がい者アートの認知度向上と商用利用拡大を目指す

① 高い志のもと社会的課題に取り組んでいる事業所の姿勢に共感した凸版印刷が磁石のように引き寄せられ、ヒカリのアトリエの目的である作品発表の機会が次々と創出されている。
② 創作活動に関わる利用者への指導は行わず、それぞれが日々描きたいものを描けるよう材料と環境を提供するだけに留めるよう心掛けている。
③ 凸版印刷のアーカイブ技術を利用し、完成した作品が、ウェブサイトで販売できる他、凸版印刷の取引先にも紹介され、デザイン素材として販売できる環境がつくられている。これにより、利用者の工賃アップにつながった。
④ 凸版印刷から提案される企画を通じて更に多くの人の目に触れる機会を継続的に増やしつつある。
⑤ 利用者の中には、描く作品のテイストが明るい色合いの絵に変わり、本来持っていたアーティストとしての才能が開花する利用者も増えてきている。

アメリカンフラワー制作風景

アトリエ内部

これから取り組む事業所に WIN−WINのポイント

凸版印刷株式会社 西日本事業本部
関西事業部 関西TIC本部
コミュニケーションデザイン部
部長　谷口剛氏

SDGsやダイバーシティといった社会的潮流からも障がい者アートが見直される良い機会

多様性が求められる社会の中で障がい者をどうフォローできるか？近視眼的ではなく本質と向き合われている素晴らしい事業所です。また営利企業である限り綺麗事だけでは続かないため、支援だけでなく価値を生み出すビジネスパートナーとして三方良しの循環モデルを構築することが大切だと考えています。最後に人を動かすのは当事者の熱量であり、青山様はじめ取り組む姿勢から学ばせていただくことが多々あります。

（右：青山氏）

特定非営利活動法人
インクルーシヴ・ジャパン
インクルーシヴ・松山 ヒカリのアトリエ
青山俊子氏

安い労働力という印象を払拭し才能を活かせる仕事に就いてほしい

障がい者にも健常者同様に職業選択の自由があり、そのためには作品発表の機会を作り社会とつながりを持つことが大切です。凸版印刷さんはリアルスキャンなど先進の技術やネットワークの素晴らしさはもちろん、当施設の経営理念や方針を深いところから理解と共感をいただいたことで、同じ方向で仕事を進めることができています。その結果、一進一退ながら、当初の目的である利用者さんの才能を活かせる仕事が広がりつつあります。

事業所ホームページへのご案内です。
事業所の活動を俯瞰的にご覧いただけます。

法人名 事業所名	特定非営利活動法人インクルーシヴ・ジャパン インクルーシヴ・松山 ヒカリのアトリエ
住所	愛媛県伊予郡松前町大字徳丸字松ノ西1208-4
ＴＥＬ	089-909-6556
ＵＲＬ	https://www.inclusive.jp/

地域活性×福祉

佐賀県
佐賀市

1910年創業
調剤薬局、ドラッグストア、化粧品店、
漢方相談薬局等を展開
株式会社ミズ

就労継続支援Ｂ型事業所

GENIUS

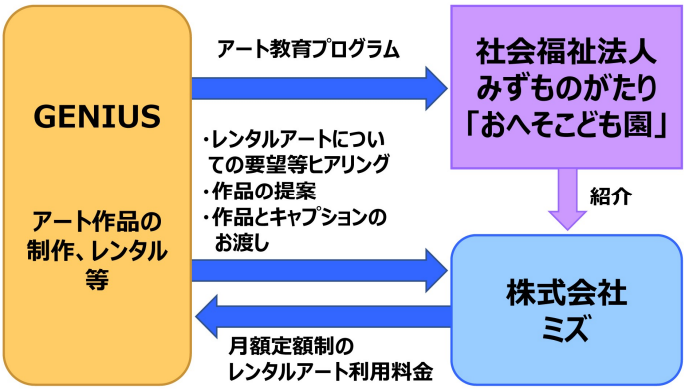
「佐賀市をテーマにバルーンやムツゴロウなどが描かれた架空の街」の作品
ミズ本社玄関ロビー

企画展で展示された作品
サガテレビー階ロビー

連携の概要

「地域で薬局を中心に多方面にビジネスを展開する企業へレンタルアート」

GENIUSが株式会社ミズ（以下、ミズ）の会議室や玄関ロビーを活用し、制作した絵画を3ヶ月ごとに交換するレンタルアートの提供を行っている。アート作品以外では、ミズにて社員研修の記念品をデザインし、エコバックなどを制作した。また、連携協力している社会福祉法人みずものがたりが運営するおへそスタジオでは、出張型アート教育プログラムを実施している。



【連携のきっかけ】

社会福祉法人みずものがたりではアートプログラムを保育行事として定期的に実施していた。園長よりミズの代表者に紹介されたことがきっかけで、本格的な連携に繋がった。

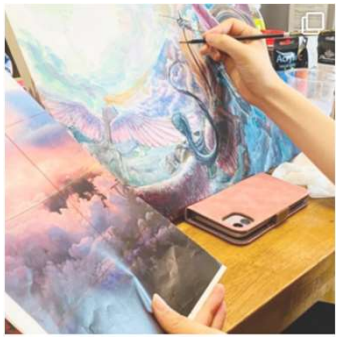
【連携の特徴】

- ミズに提供する絵画の対象や色合い等のニーズを把握してマッチした創作物の提案を行い、喜んで戴いている。
- 柔軟な料金プランや月額を設定しており、ミズの選択肢を増やしている。
- 高度なスキルをもつプロフェッショナルが担当し、アート制作についての指導体制がしっかりしているため、品質が保証できる。

【連携の成果】

- 佐賀県のリーディングカンパニーであるミズの玄関ホール等にアーティストの作品が掲げられていることにより、多くの人・企業等にも関心をもっていただく機会が増えた。
- 実際、既に８社ほどの佐賀県内企業へのレンタルアートの導入実績に繋がっている。
- 少しずつではあるが地域の住民及び企業へのアート文化の醸成が進みだしている。

作品及び創作風景



利用者の創作の様子やアート作品

【ここが違う！GENIUSの取組み】

地元企業との連携をきっかけにサブスクリプション型のサービスを開始。利用者のアート作品を店や会社に届けていきたい

① GENIUSでは、利用者を「アーティスト」と位置づけ、各アーティストが創作する絵画、デザイン等のアート制作物を販売、展示、レンタルしたり、自社ブランドのデザインとして販売したりしている。
② 展覧会等で最優秀賞受賞や入賞経験を重ねているプロのアーティストによる指導を受けており、創作物は高く評価されている。メディアにとりあげられることも多い。
③ 利用者が持ち合わせている能力と個性を引き出す環境が整っていることが質の高いアートを創作する源泉になっていると、連携先から評価されている。
④ サブスクリプションシステムの導入で企業には都度提供される新しいアート作品を楽しんでいただけると共に、事業所としては継続的な収入を見込めるビジネスモデルを導入できた。

創作風景

細かい作業を集中して

これから取り組む事業所に WIN−WINのポイント

株式会社ミズ 代表取締役 溝上泰興氏

質の高いレンタルアートがオフィスを彩る

GENIUSでは「利用者」ではなく「アーティスト」と呼んでおり、その人の特性や個性を受け入れ、認め、活かしていく姿勢は当社の考えに通じるところがあります。また、当社事業におけるサービスのあり方やホスピタリティにかかる考え方として人財教育の参考になることがあり、それは発見の一つでした。また、現在は本社ビルでレンタルアートを展示していますが、今後は店舗等でも絵画を飾りたいと考えています。また、社内研修等を通じて当該事業所への理解を深める機会をつくりたいです。

株式会社すみなす GENIUS 代表取締役 西村史彦氏

連携することでアート作品に触れて戴く機会が大きく拡大

「アーティスト」の作品は、これまでも様々な場面でメディア等でも取り上げられてきましたが、レンタルアートでミズ社の玄関ホールや会議室を作品が飾ることにより、より多数の人に作品を鑑賞してもらうことが可能になり、さらなる認知度の向上につながります。また「アーティスト」の創作モチベーションアップの源泉ともなっています。

作業の様子を写した映像を公開中！
利用者が実際に作業している様子をご覧いただけます。

法人名 事業所名	株式会社すみなす GENIUS
住所	佐賀県佐賀市鬼丸町7-3
TEL	0952-60-2673
URL	https://geniusart.jp/

地域活性×福祉

石川県
能登町

過疎地の雇用創出を目指し、研究を行っている
石川県立大学

就労継続支援Ａ型・Ｂ型（多機能型）
日本海倶楽部
（Healing Bay Area 日本海倶楽部及び日本海倶楽部ザ・ファーム）

奥能登エリアの観光資源・地域住民の憩いの場である「日本海倶楽部レストラン」

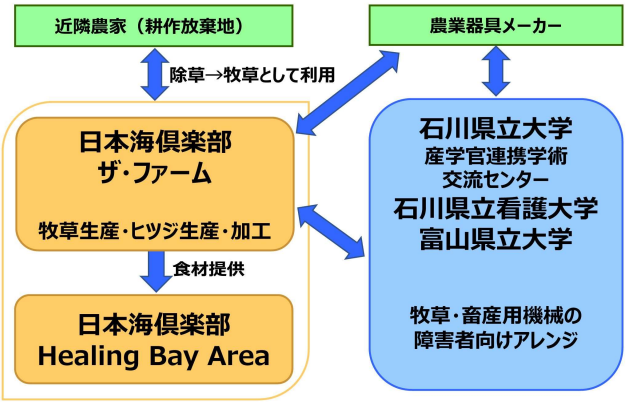
ブルワリー・オブ・ザ・イヤー2014を受賞したオリジナルのクラフトビール

ヒツジの世話をする利用者

連携の概要

「人口減の町を元気にし続ける日本海倶楽部。次の挑戦は、産学福連携のヒツジの飼育」

当事業所は1998年に地ビール醸造とビアレストランを生産活動として開設された。障害者施設初のクラフトビール事業は、地元に新しい産業と観光資源を生み出し大きな成果をもたらした。2008年には、農業を主事業とするザ・ファームを設立。生産した野菜は食材としてレストランや食品加工センターに供給される他、地元特産のかぼちゃを加工して商品化するなど農福連携にも取り組んでいる。
こうした実績をベースに、次の挑戦として現在進行中なのが、石川県立大学等と連携して研究中のヒツジの飼育である。畜産事業に参入することで利用者の職域を広げつつ、地元の新たな特産品開発につなげる計画である。大学、企業の協力を得て、利用者特性に配慮した農機具の改良を行い、利用者を主力とする新たな事業開発が進められている。



【連携のきっかけ】

石川県公立大学法人石川県立看護大学では、アニマルセラピーの研究を、また同法人の石川県立大学では、過疎地の雇用創出や耕作放棄地の活用を目指し、畜産（特にヒツジの飼育）を研究している。アニマルセラピー研究への協力を日本海倶楽部が行ったことがきっかけで、農福連携の視点でヒツジの飼育を進めることになり、上記２大学及び富山県立大学を加えた共同研究プロジェクト（生物系特定産業技術研究支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業」【基礎研究ステージ（チャレンジ型）】採択）へと発展した。本研究では、看護学的見地から障害者の機械運転を妨げる要因やヒツジ飼育が障害者にもたらす影響等を調べ、障害特性にマッチした生産活動として採算のとれるモデルを創ることを目指している。

【連携の特徴】

- 農業を主としているザ・ファームだが、冬場の農作業には限界があり、通年で仕事ができる畜産には魅力があると考えていた。今回の共同研究は、既存の農機の改良により、特に知的障害や発達障害のある利用者にとって安全で使いやすい機械の開発を目指している。
- 食品加工、レストランでの実績を有する当事業所だからこそ、飼育の先の商品化を見通した畜産事業に参入ができる。
- 利用者の職域拡大、工賃向上という成果指標を明確にして、共同研究が行われている。

【連携の成果】

- 共同研究は今後令和10年まで続く息の長い事業であり、目に見える成果は出ていないが、AI、ICT技術活用による障害者向け農機改良は、採算性の高い農福連携の新しいモデルとなることが期待されている。
- 地域活性を図るうえで、「関係人口」を増やすことが重要という認識のもと、新たな挑戦を続けている。それにより、当事業所に関わり、応援してくれる人の輪を確実に広げることができている。

畜産関連の農機具改良による利用者の職域拡大の視点

想定している作業	利用者が作業を行う上で想定されるハードル	改良視点
牧草生産 たい肥散布、耕転、播種、刈取、運搬。これらの作業工程に対し、機械を使った作業を想定	**農業機械学の見地から** 機械操作（操作力・可動範囲）騒音（エンジン音、モータ音）、レバー操作（手順理解、タイミング、速さ）など	・レバー・スイッチの数が多すぎる ・動力音が大きい ・手順が多く、複雑
	精神看護学の見地から 機械操作を不得手とする要因、機械操作に消極的な要因	・不具合時の対応（刈刃停止時の対応）など

＊対象利用者として、知的障害・発達障害のある利用者を想定

【ここが違う！日本海倶楽部の取組み】

地ビールレストラン・農業に続く新たな連携プロジェクトも、地域に人を呼び、活力ある町をつくる１手段。やらない理由はない。

① 社会福祉法人佛子園の考える地域連携は、まず福祉事業所があって、周辺企業や関係者と連携するという考え方ではない。地域課題を解決するために事業として何を立ち上げることが望ましいかを探り、自治体、地域住民、関係者と話し合いながら事業計画を立て、地元の理解を得て事業所を作る。

② 地域住民と共有した人口減少という課題に対し、日本海倶楽部の事業を通じて、地元の賑わいが復活し、町が活性化することを目標としており、利用者がここで働くことは地域に貢献することに直結している。

③ 地域のリソース・強みにも着目し、県内でも特に一次産業に携わる人口が多い地域であることから、農家との連携、協業にも力を入れてきた。ヒツジの飼育という畜産事業への参入は、その延長線上にあるもので、耕作放棄地の活用や地元特産品の開発により、さらなる地域活性を目指している。

農機具を利用者が操作することで、生産性向上を目指す

これから取り組む事業所に
WIN－WINのポイント

石川県公立大学法人石川県立大学
産学官連携学術交流センター
コーディネーター（名誉教授）
石田 元彦氏

耕作放棄地を牧草地に変える推進力に

日本国内のヒツジはわずか17,821頭（2017年）で、国産の羊肉は貴重です。日本海倶楽部の皆様と協力して少しでも多くのヒツジを生産し、地域の飲食店に活用していただくことを目指しています。今回の飼料生産用機械改良は、障害者の働きやすい環境整備と労働生産性の向上を目標とするもので、障害者福祉と地域活性化のお役に立ちたいと思っております。

社会福祉法人佛子園
日本海倶楽部
管理者　竹中誠氏

地域課題解決のスキームで事業を構築

地域課題に目を向け、解決の役に　立つために何ができるかを考えて、日本海倶楽部を創設しました。町や住民とひざ詰めで話し合って計画を立てたんです。そういう意味では開設時から地域産業との連携があったということです。地域一番の産業が一次産業だったので、自ずと食に関わる仕事や農業に取り組むことになりました。就労支援事業所は「事業」を通じて地域の役に立てることが一番の強み。おかげさまで多くの方が関わり、応援してくださっています。

こちらから、事業所の詳しい情報をご覧いただけます。

法人名 事業所名	社会福祉法人佛子園 Healing Bay Area 日本海倶楽部 日本海倶楽部ザ・ファーム
住所	石川県鳳珠郡能登町字立壁92
ＴＥＬ	0768-72-8180
ＵＲＬ	http://www.bussien.com/nihonkai_club/

地域課題解決×福祉

東京都
北区

高齢者福祉、児童館、学童クラブ等を運営し、地域とともに育つ
社会福祉法人東京聖労院

就労継続支援Ｂ型事業所
ヴイ長屋

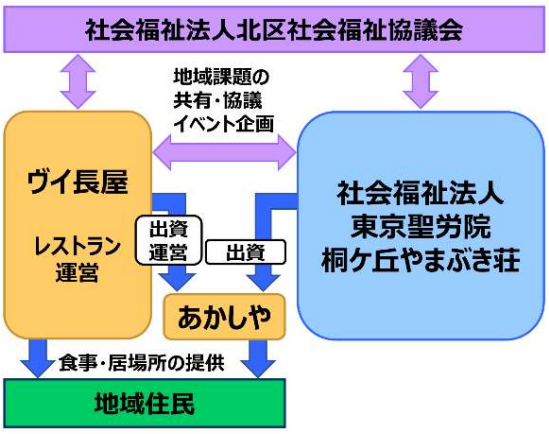
ヴイ長屋の外観

和食を中心とした食事の提供

連携の概要

「地域を知る人々と連携して、地域が本当に求めるものを！食事処と居場所を提供」

社会福祉法人ドリームヴイは、東京都北区を中心に障害者の就労支援、生活支援等を行っている。特に高齢化率が高い桐ヶ丘地域の地域課題を探るうちに、住民の高齢化に伴い、地域の中心であった桐ヶ丘団地の中央商店街の多くはシャッターが閉まってしまい、買い物をする場所や外食をする場所がないことに困っていることが分かった。そこで、独立行政法人福祉医療機構の「社会福祉振興事業」を受け、シャッター街に食事処をつくることで地域を活性化することを目指した。実現にあたっては、桐ケ丘やまぶき荘の地域包括センターや、地区の自治会長、民生委員、商店会長、北区社協等の様々な人々と協力して推進し、平成26年にカフェレストラン「ヴイ長屋」をオープンした。
さらに地域のみんなが気軽に立ち寄れ、SOSを出せる場づくりをしたいと、平成28年には「ヴイ長屋」のすぐとなりに「あかしや」をオープンし、地域の高齢者に食事と憩いの場を提供している。



【連携のきっかけ】

ドリームヴイは、障害のある人たちといっしょに地域で必要とされていることを仕事にしたいと考え、住民の半数以上が高齢者である桐ヶ丘地域に着目したが、元々北区の十条地域を中心に活動していたため、桐ヶ丘地域が抱える問題がよくわからなかった。そのため、町のお寺や地域の行事に顔を出すとともに、商店街から近いところにある高齢者施設やまぶき荘を訪ね、この地域の高齢者が抱えている問題について学んだ。これをきっかけに北区社協や高齢者施設の運営団体と連携しレストランと居場所を作ることになった。

【連携の特徴】

- 地域の事情に精通している桐ケ丘やまぶき荘と連携することで、地域が本当に求めるものを提供することが出来ている。
- あかしやは、桐ケ丘やまぶき荘が出資し、３者で協議し、運営をドリームヴイがしている。
- 週1回、外出できない高齢者に夕食を宅配し、地域の見守りサービスを実施している。

【連携の成果】

- 地域の高齢者が抱える「地域で外食が出来ない」課題を解決しただけでなく、気軽に集える居場所を作ることができた。
- 地域の障害者が活躍する場所を提供。定年を迎えた高齢者は利用者と近い目線でコミュニケーションを取れることで、若者は地域を若返らせ、活気を生んでいる。
- 高齢者のプロと障害者のプロが連携することで、高齢者と障害者双方のニーズを見たす機会を創った。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
キッチン（配膳準備･片付け）	食器への料理の盛り付け、食器の洗浄、買い出し	やる気がある人
ホール	配膳、食器回収	人と関わることが好きな人
宅配	高齢者の自宅への懐石風弁当の宅配･食器回収、見守り	人と関わることが好きな人

【ここが違う！ヴイ長屋の取組み】

元気に働く高齢の利用者が地域の高齢者を元気にし、地元の学生もかかわってユニークな交流に発展

① 和食専門のシェフと栄養士の連携で高齢者が喜ぶ栄養バランスのよい食事を提供。働く半数以上が定年を迎えた高齢者であり、地域の高齢者と働く障害者双方が楽しめる場所になっている。
② 区が推進する「高齢者ふれあい食事会」を行っており、この食事会を楽しみにして仲間づくりや元気の源にしている人が多い。
③ 地域の高齢者だけでなく、新たな連携として近隣の東洋大学･東京家政大学の大学生には、地域課題の調査･分析に協力してもらった。調査結果をもとに地域住民も交えた話し合いから新たな活動が生まれ、大学生も継続的に参加している。
④ ヴイ長屋が盛況でお客様が入りきらないため、隣接している施設、あかしやでも食事を可能にして対応。あかしやでは、落語や懐かしの歌等、高齢者が親しみやすいイベントを月1回開催。

ヴイ長屋の内観

お食事のようす

これから取り組む事業所に
WIN－WINのポイント

社会福祉法人東京聖労院
桐ケ丘やまぶき荘地域包括支援センター
内田美穂氏

実行力のあるドリームヴイと組めたからこそ長年の構想が実を結びました！

”行けば誰かがいる”常設のサロンを作りたいという構想を長年あたためてはいましたが、具体化に向けて動き出したのは、ドリームヴイとの出会いがきっかけでした。異分野だからこそ得意分野が違い、一つの法人だけでは解決できない困難な事柄にも挑戦することができました。お互いを知ったり実現していく過程で、発想の広がりや人脈を得ることができ、それまでよりも地域をより多角的に見渡すことが出来るようになりました。

社会福祉法人ドリームヴイ
ヴイ長屋
理事長　小島靖子氏

地域課題をよく知っている人々との連携があったからこそ実現できました！

障害者の支援活動を専門とする自分たちだけの力では、こんなにも桐ヶ丘の地域に受け入れられ、必要とされるサービスは作れなかったと思います。「ヴイ長屋」が地域に愛されることが出来たのは、地域の課題を理解しているやまぶき荘や社会福祉法人北区社会福祉協議会の力を借りられたからこそです。これからも、障害者がいきいきと働きつつ、地域に根付き、必要とされるものを提供していきたいです。

作業の様子を写した動画を公開中！
利用者が実際に作業している様子をご覧いただけます。

法人名 事業所名	社会福祉法人ドリームヴイ ヴイ長屋
住所	東京都北区桐ヶ丘1-9-4-2
ＴＥＬ	03-5948-4300
ＵＲＬ	http://www.dream-v.or.jp/nagaya/

地域課題解決×福祉

広島県
安芸太田町

地域住民の暮らしをサポートする拠点づくり

安芸太田町役場

就労継続支援Ａ型・Ｂ型事業所
（多機能型）

JOCA×3（じょかかけさん）

鉄道が廃線となった旧駅前で賑やかさを取り戻した　月ヶ瀬温泉の玄関

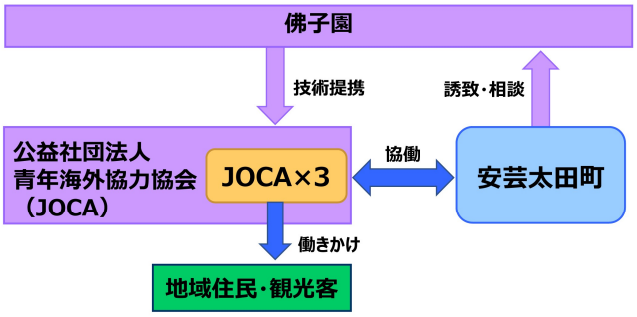
食事処での接客対応

調理場での作業

連携の概要

「町の人口流出減と高齢者サポートのための拠点づくり。温泉施設『月ヶ瀬温泉』の運営」

高齢化が進み、町の人口流出を懸念した「広島県安芸太田町」が暮らしやすい町づくりという地域課題解決のために「JOCA×3」（じょかかけさん）と連携。JOCA×3は同町内にある元老舗旅館を改修し、エリアサポート拠点『月ヶ瀬温泉』を運営し始めた。月ヶ瀬温泉は温泉施設と食事処で近隣住民の方が気軽に立ち寄ったり、住民主体でのイベントが開催されたり、地域の集いの場を目指す一方、障がいを持つ方への働く場の提供、生活介護事業の運営など福祉事業所としての一面も持つ。自然豊かなロケーションに位置することもあり、紅葉の季節は町外や県外からの観光客も多数訪れている。地域住民、観光客、障がい者、外国人、様々な方が同じ空間に集う「ごちゃまぜ」の場所を目指している。



【連携のきっかけ】

安芸太田町は地域社会の高齢化に伴い独居老人が増え、子ども世帯と同居するために町を転出する人が増えてきた。それを食い止めるための体制として、高齢者をサポートする拠点づくりを行なった。住民共助による地域コミュニティの再生と障害者の就労支援に取り組む石川県の社会福祉法人「佛子園」と技術提携している公益社団法人青年海外協力協会（JOCA）を誘致し「月ヶ瀬温泉」の整備に取り組んだ。安芸太田町は整備段階で補助金を交付し、現在は地域活性に向けて日常的に意見交換を行っている。

【連携の特徴】

- JOCAは青年海外協力隊（JICA）の参加経験者を中心に結成された団体で地方創生事業も手がける。JOCA×3による安芸太田町での取り組みはそのひとつ。
- 温泉と食事処の経営にA型事業所とＢ型事業所を組み込んでいる。JOCA×3は誘致のきっかけとなった社会福祉法人佛子園の協力を得て、サービス運営のノウハウを導入している。
- 安芸太田町の人口流出抑制と高齢者等サポートを主目的に、町と事業所が日常的に意見交換を通じて連携を取っている。

【連携の成果】

- 安芸太田町のからの誘致に伴うJOCA×3の設立によって、安芸太田町内では初の就労継続支援Ａ型事業所ができた。
- 今回の連携事業によって地域の高齢者や住民の居場所ができた。月ヶ瀬温泉は地域交流拠点となっている。
- 休日は町外や県外からの観光客が訪れる施設になり、安芸太田町の交流人口を増やすきっかけとなった。
- 温泉にとどまらず、今後、高齢者の健康維持のためのウェルネス事業を整備予定に加え、若者からの要望が多いカフェなどの新規事業にもチャレンジしていきたい。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
接客・レジ	挨拶等のお客様対応。水を出す。注文を取る。レジ清算	人と接することが好きな人
調理場作業	盛り付け等簡単な調理補助。下膳後の食器洗浄	調理に興味がある人
開店・閉店作業	開店前の準備、閉店後の片付け	ルーティン作業が得意な人
加工調理（製麺・製菓）	水分を調整しながらそばを製麺（機械使用） かえしづくり、団子・餅・漬物つくりなど	細かな作業が得意な人

【ここが違う！JOCA×3の取組み】

地域住民のリピーターを増やす多彩な企画

① JOCA×3という事業所名には、地名の加計（かけ）と３町村合併（筒賀村、加計町、戸河内町）を掛け合わせた意味が込められている。
② JOCAの関連組織である石川県の社会福祉法人佛子園の協力を得て、温泉施設の経営と障害者就労支援のノウハウを導入している。
③ 青年海外協力隊経験者の職員も在籍し、2年間の発展途上国での活動で培ったノウハウを活かしながら、福祉分野を通し地域の課題に向け取り組んでいる。
④ クリスマスや冬至など季節ごとのイベントやミニコンサート、フラワーアレンジメントやヨガ教室などさまざまなワークショップを企画開催し、地域住民が飽きずに訪れたくなる工夫をしている。
⑤ 地域住民にとって、月ヶ瀬温泉がサードプレイス（自宅や学校、職場とは別の居心地の良い場所）になるように、上記のような取り組みを通じ目指している。

製麺の様子

調理場での補助作業

これから取り組む事業所に WIN−WINのポイント

町のキャラクター「もりみん」

安芸太田町役場　企画課 課長 二見重幸氏

暮らしやすい町になるための場所として

地域住民がいつでも気軽に行ける場所として拠点整備をすすめました。ここにくれば顔見知りがいて安心できる、そんな場所にしたいですね。観光客を含めて利用してくださるお客様が増えていますが、安芸太田町としては観光施設というより地元の皆さんの利用をさらにすすめて町全体の暮らしやすさにつながるようにしていきたいです。また、障がい者雇用の福祉にも力をいれたいですね。

公益社団法人青年海外協力協会 JOCA×3 月ヶ瀬温泉 松岡洋司氏

コンセプトはサードプレイス

2020年8月にオープン以降、少しずつですが、近隣地域の方々にも足を運んでもらえるようになってきました。当施設のコンセプトは地域の人たちが自宅のようにくつろげるサードプレイスです。家に帰るような感覚でつい寄ってしまい、そこに行けばいつもの人たちとおしゃべりができる、そんな場所になってほしいので、今後も地域の方々との関わりを深くしながら運営を安定させていきたいですね。

作業の様子を写した動画を公開中！
利用者が実際に作業をしている様子をご覧いただけます。

法人名 事業所名	公益社団法人青年海外協力協会 JOCA×3
住所	広島県山県郡安芸太田町大字加計3505-2
ＴＥＬ	0826-22-6666
ＵＲＬ	https://www.facebook.com/pages/category/Health-Spa/Joca%EF%BC%93-%E6%9C%88%E3%83%B6%E7%80%AC%E6%B8%A9%E6%B3%89-115264203354299/

地域課題解決×福祉

鳥取県
米子市

耕作放棄地の再生とユニバーサル就労に取り組む
株式会社シルクファーム

就労継続支援Ｂ型事業所
San-fuku（さんふく）

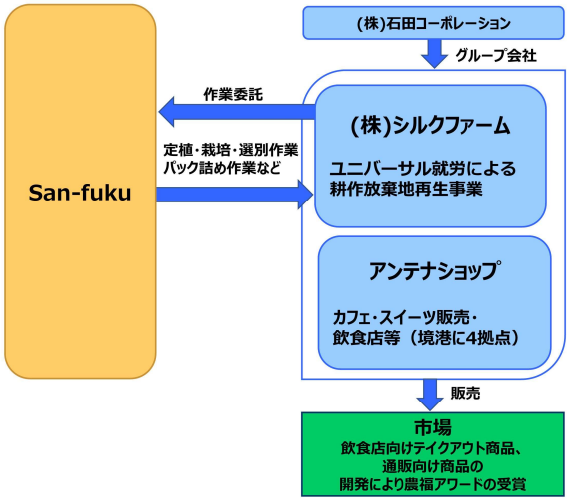
シルクファームの農園の一部

パック詰め後のさつまいも

連携の概要

「大規模な農園を運営する企業と生産工程の一部で連携」

鳥取県米子市の「株式会社シルクファーム」（以下、シルクファーム）と同市内の事業所「San-fuku」の農福連携事業。ユニバーサル就労と耕作放棄地の再生事業としてシルクファームが運営する約40haの農場で、San-fukuが農園の枯草の除去、トマトのパック詰め、さつまいもの根切り、選別作業等を行っている。シルクファームは米子市に本拠を置く総合商社「株式会社石田コーポレーション」の関連法人で、多品種の果物・野菜の生産から六次化までを手がける企業。San-fukuは現在、その生産工程の一部に携わっているが、今後は食材の加工に関わる計画もあるなど、農作業にとどまらない連携の可能性を秘めている。



【連携のきっかけ】

鳥取県の弓ヶ浜半島では、近年、農業従事者の高齢化、後継者不足等の理由で廃農が増加し、荒廃農地の課題解決が求められている。障がい者就労継続支援事業所ではの平均工賃を引き上げの目標があり、両者の課題を解決すべく、人の紹介を通じて農業と福祉の活性化を充実していこうと取り組みが始まった。

【連携の特徴】

- シルクファームは総合商社の株式会社石田コーポレーションのグループ会社であり、SDGsやユニバーサル就労にも積極的に取り組んでいる。San-fukuはその事業の一部を通年業務として請け負っており、個人農家の作業手伝いにとどまらない連携ができている。
- シルクファームが取り扱う産品や作業の幅が広いため、その中からSan-fukuの利用者の特性に合わせた作業を切り出したり、組み合わせることができる。

【連携の成果】

- この連携事業が障害者就労に貢献していることを理由のひとつに、シルクファームは農林水産省の『ノウフク・アワード2020』の優秀賞に選ばれている。
- San-fukuにとって通年業務を請け負うことで、工賃が伸びる要因のひとつになっている。
- アナログな農作業の工程をマニュアル化したり、作業ごとの単価算出を行うなど、農福連携に経営の視点を強化する取り組みが始まっている。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
とまとのパック詰め	選別し決められたグラム数に合わせパッケージしラベルシールを貼り、出荷ケースに入れる	丁寧な人、指先の器用な人
さつまいもの根切り	土を落とし、傷み、サイズ、を見極めひげ根や、つるの部分を落とす	判断できる人、根気の続く人
さつまいもの化粧箱詰め	箱を折り、芋を磨き、キロ数を合わせてバランスよく詰める	サイズ、バランスを見られる人
苗植えポット土入れ	決められたラインまで土を入れ、軽く押さえケースにきちんと並べる	丁寧に作業に取り組める人

【ここが違う！San-fukuの取組み】
農作業の手伝いにとどまらない事業化を視野に入れる

① シルクファームとの連携事業では、9棟のハウスのいちご観光農園での枯草の除去、トマトのパック詰め、さつまいも（紅はるか）の根切り、選別と箱詰めなどに携わっている。
② これらはシルクファームの通年業務の一部を請け負う形で行っており、利用者はシルクファームが経営する農園とその選果場に出向き、シルクファームのスタッフと同じ作業を行っている。
③ San-fukuが請け負う作業について、誰でも同じ作業ができるようにと作業スピードや所要時間を測って単価を算出したり、農作業の工程のマニュアル化等を進め、連携事業の拡大を図ろうとしている。
④ San-fukuの別事業であるさんふくフーズの食品加工場には大型の業務用急速凍結機が備えられており、San-fukuはグループ事業所と連携して食材の加工事業にも乗り出すことができる。今後はシルクファームとの連携の中でも、果物や野菜の加工を行っていくことを視野に入れている。

さつまいもを計量してパックに詰める

ハウスで水やり作業

これから取り組む事業所に WIN−WINのポイント

株式会社シルクファーム
取締役農福連携担当
中本雅之氏

農業を通じてお互いが win-winになる関係づくり

シルクファームは農業を通じて障害者の職場提供を行っています。ここで働いている障害者の皆さんは覚えたことを忠実にやってくださる方ばかりです。農業には様々な種類の仕事や工程があるので、向いた仕事があればいろいろな仕事に携わってもらえると思います。お互いがwin-winになる仕組みができるといいですね

特定非営利活動法人
山陰福祉の会
San-fuku
理事長 山中裕二氏

農業×福祉×経営の取り組みを進めたいです

シルクファームさんはSDGsやユニバーサル就労などにしっかりした理念を持っておられる地域を牽引する大きな企業です。そのような企業さんとの連携は、人を雇用する概念や経営的視点を福祉に取り入れることができます。今後は２社の連携にとどまらず、地域の事業所や企業が参画するコンソーシアムのような仕組みをつくっていきたいです。

事業所ホームページへのご案内です。
事業所の活動を俯瞰的にご覧いただけます。

法人名 事業所名	特定非営利活動法人山陰福祉の会 San-fuku
住所	鳥取県米子市福市1850-2
ＴＥＬ	0859-21-9789
ＵＲＬ	https://san-fuku.com/

地域課題解決×福祉

徳島県
石井町

まちの高齢者の見守りを依頼する
石井町役場

就労継続支援Ｂ型事業所
スタジオれもん

買物サービスの提供とともに地域の高齢者を見守る

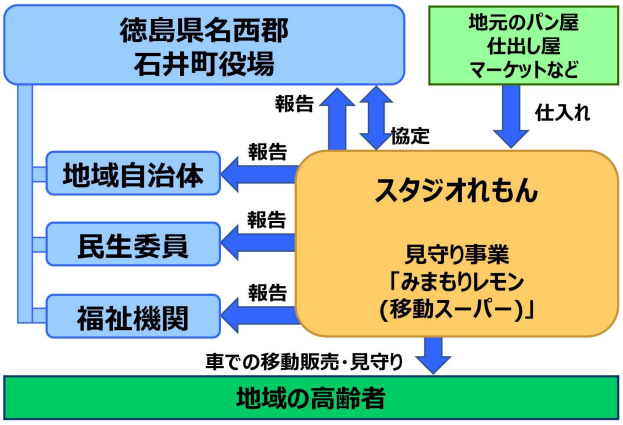
事業所全景

移動販売車で食品や生活用品を販売

連携の概要

「移動販売車で高齢者に買物サービスと見守りを」

「徳島県名西郡石井町」と同町内の社会福祉法人カリヨンの事業所「スタジオれもん」との連携。徳島県名西郡石井町のほか2市町（徳島市、上板町）の広範囲のエリアにおいて、高齢者等の買い物弱者を対象に、「移動販売車」で食品や日用品の販売を実施している。また販売にとどまらず、配達のかたわら、高齢者に異変があると石井町に連絡するという見守り連携の覚書を交わしている。「みまもりレモン」という名称で一人暮らしの高齢者の様子を見守る活動が地域の問題解決につながっている。



【連携のきっかけ】

平成25年度、スタジオれもんが県の事業（障がい者が繋ぐ地域の暮らし“ほっとかない”事業）を活用して、1台の移動販売車を導入し、移動販売という地域活性化事業と買物弱者対策や高齢者の見守り活動という地域課題解決事業に取り組むことになった。その後、移動販売車は１台追加導入され、２台体制で展開中。

【連携の特徴】

- 自治体から支援の必要な人を本人合意のもと紹介され、毎週決まった曜日に販売のうかがいと見守り支援を行っている。毎週会うことで細かい変化に気付き、見守りとして成立している。
- 現在は移動販売車2台で個人宅と施設を訪問している。対象者（お客様）は70～80代の方が中心。
- ワゴン型の移動販売車に食品と日用品約500～600点を積んで訪問している。

【連携の成果】

- 継続して高齢のお客様と接点をもつことから相手の変化がよくわかり、見守りの重要な役目を果たしている。
- 高齢者の買物客の「買いすぎ」を意識するなど、販売と地域課題解決のバランスをとっている。
- 地域の人と定期的に触れ合う仕事が、事業所の利用者のモチベーション向上につながっている。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
商品の値付け	卸業者から仕入れた商品にラベラーを使って値付けする	ラベラー操作のための握力がある人 ラベルの数字を操作できる人
伝票入力	売上金額やレシートの数字をパソコンに入力する	パソコン入力（エクセル）ができる人
買い出し同行	商品の買い出しに同行し、職員の補助をする	状況に応じて行動できる人
開店準備・運搬	移動販売車の扉の開閉、荷物の出し入れ、運搬	重い荷物を運ぶ体力がある人
お客様への声掛け	お客様宅のチャイムを鳴らし、声掛けを行う	大きな声で挨拶・笑顔で 接客できる人

【ここが違う！スタジオれもんの取組み】
同じエリアに同じ担当者を配置して継続的に見守りを

① 利用者の仕事は商品の買い出し、伝票入力、タグ付け、商品運搬、販売に行くときのお客様への声かけ、コミュニケーションなどで、職員と利用者の2人1組で行動している。高齢者を継続的に見守れるように、対象エリアに同じ人が関われるようにシフトを組んでいる。同じ曜日に、朝昼とシフトを分けて訪問している。定期的な接点を通じてお客様の好みなどを知り、喜ばれる商品を選択している。
② 個人宅だけでなく、地域の高齢者施設などに対しても販売を行っている。短時間で売上があがるメリットがある。
③ 仕入れ先は平均して3か所。曜日に応じて変えている。地域を大切にしたい思いから、仕入れ先も一企業に絞らないようにしている。

開店準備作業

高齢者の買物をサポート

これから取り組む事業所に
WIN－WINのポイント

石井町役場
福祉生活課

買い物が出来る機会の提供と、障がい者の活躍できる場所が増えていく事を期待しています

石井町も高齢化が進み、高齢者の数が年々増えているので、これからも活動を期待しています。また、就労支援事業所として障がい者の就労支援機会が拡大すればいいなと思っています。

社会福祉法人カリヨン
スタジオれもん
塚原唯氏

移動販売車の仕事で地域の人との関わりがたくさん生まれてきています

行政、施設、利用者、地域の高齢者がそれぞれの要望と役割を果たして連携できているのがいいですね。以前は短時間で売上があがる施設の販売先がもっと多かったのですが、コロナの影響で少なくなりました。早く回復するといいですね。

事業所ホームページへのご案内です。
事業所の活動を幅広くご覧いただけます。

法人名 事業所名	社会福祉法人カリヨン スタジオれもん
住所	徳島県名西郡石井町石井字尼寺138-2
ＴＥＬ	088-679-6208
ＵＲＬ	https://www.lemon.or.jp/office/studio.html

地域課題解決×福祉

群馬県
玉村町・前橋市

アットホームな雰囲気で個性を生かした深い学びを実現
群馬県公立大学法人
群馬県立女子大学

就労継続支援Ｂ型事業所

社会就労センターぴいす

学生食堂「ぴいすきっちん」

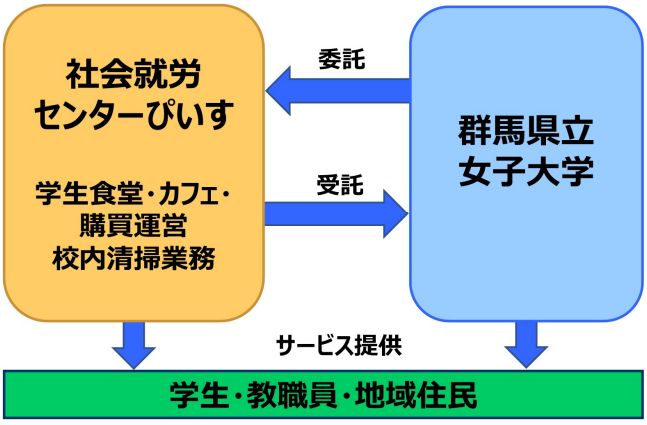
手作りパン

大学校門

連携の概要

「美味しい焼きたての手作りパンを求めて、学生食堂が憩いの場に！」

社会就労センターぴいすは、2005年6月より群馬県立女子大学内の学生食堂の運営を受託。そこで働く利用者がその運営の一部を担っている。特にランチは旬な食材を用い、良質なものを手作りで安価に提供。2006年４月からは購買部門の運営も受託。学生食堂の厨房奥に設置した窯で焼いた焼きたてパンを提供しており、学生や教職員から好評を得ている。さらに2007年には学内の清掃業務も指名競争入札により受託。プロの清掃業者から学んだ清掃技術をぴいすのスタッフのサポートにより利用者に習得してもらうことで、質の高い清掃サービスを提供している。また、同年に大学の2号館建設に際してはカフェが併設され、学生食堂での運営実績を評価されカフェの運営も受託し、開業に際してはその設計から携わり、障害者でも働きやすいユニバーサルデザインとなっている。



【連携のきっかけ】

群馬県立女子大学（以下、大学）では、これまで学内の学生食堂と購買は別々の業者が担ってきたが、大学長期休暇時の売上減少を要因とした採算悪化を理由に学生食堂受託業者が撤退してしまい、大学側でも新たな業者を探していた。一方で、社会就労センターぴいす（知的障害者通所授産施設）側も2005年開所にあたり事業所で作る弁当やパンの販売先を探す営業を行なっている中で、人を介して大学の紹介を受け、学生食堂と購買ともに受託できることを条件に連携が始まった。

【連携の特徴】

- 学生食堂と購買、学内清掃業務を合わせて社会就労センターぴいすが受託していること。これにより、ぴいす側では年間を通じた売上の安定化が図れ、大学側でも安定的な学生食堂や購買等のサービス提供につながっている。
- 利用者の工賃向上や作業の質の維持及びモチベーションアップのため、作業工程を細分化しチェック項目を作成、利用者の特性や能力に応じて適性にあった業務を行なっている。

【連携の成果】

- ぴいす側では、学生食堂と購買、学内清掃業務を合わせて受託することで、安定的な売上確保となり、持続可能な事業化を図ることができている。
- 施設の利用者である障害者にとっては、地域社会の中で働き安定的な工賃を得ることで、やりがいと生活の安定化を図ることができている。
- 大学側では学生が障害者の働く姿を間近に見ることで、ダイバーシティや共生を自然に学べる機会が創出できている。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
食材仕込み・調理	食材の洗浄、調理に適した形にカット、調理	衛生管理ができ、手先が器用な人
盛り付け	食器への盛り付け	計量が出来、綺麗に手際よく作業ができる人
接客サービス	レジにて接客	金銭の計算が出来、笑顔で受け答えができる人
食器等洗浄	食器、調理用具の洗浄	汚れがわかって丁寧に作業ができる人

【ここが違う！社会就労センターぴいすの取組み】

民間が参入しにくい事業をチャンスととらえ、学生生活を支える存在として貢献

① 公立大学の学生食堂運営業者の確保が事業規模が課題となり不安定であった。そこに法人内で食品事業で実績のあるぴいすがみごとに解決。
② 学生食堂では健康を第一に旬な食材を使用し、バランスがよく、栄養価も高い食事の提供等の質の高いサービスが評価された。これにより学内清掃業務や購買、カフェの運営受託にまで業務の幅を広げ、季節による作業量の平準化に成功。
③ 当初利用者が学内で働くことに学生が戸惑い、否定的な投書が寄せられたことがあった。これを学長自ら丁寧に説明に努めるとともに、以後の入学式等で学生たちに多様性や共生の重要性を説いている。
④ 地道な取り組みにより、学生たちは利用者と身近に接することを通じてダイバーシティについて体験的にも学ぶことができ、結果、大学の強みの一つとなっている。
⑤ 利用者も社会の役に立っていることが自身のモチベーションアップに繋がっている。

ぴいすカフェ

厨房

これから取り組む事業所に
WIN−WINのポイント

群馬公立大学法人
群馬県立女子大学
小林良江学長

障害者のひたむきに働く姿に教職員や学生も触発、共生を身近に学ぶ機会に！

「焼きたての手作りパン、これ本当に美味しいのですよ！」

ずばりこの連携成功の要因は、社会就労センターぴいすで働く障害者の方々の質の高い仕事ぶりにあります。焼きたての美味しい手作りパンは学外にもアピールしたいほどです。障害者の方々のひたむきに働く姿に感銘を受けており、学生だけでなく教職員にとっても良い影響を与えてくれています。

社会福祉法人すてっぷ
社会就労センターぴいす
施設長 新井亘氏

多能工化による高い工賃の実現と働く障害者のやりがいを創出！

学内の長期休暇もあり、売上を安定させ工賃を高めるために清掃業務など業務の幅を広げてきました。丁寧な接客や栄養バランスのとれたランチ提供、手作り焼きたてパンの販売を行い、清掃は一般の清掃会社と同等の技術で行っています。この結果、学内の教職員や学生からその働きぶりを認めていただき、働く障害者本人のモチベーションアップにもつながっています。

事業所ホームページへのご案内です。
事業所の活動を幅広くご覧いただけます。

法人名 事業所名	社会福祉法人すてっぷ 社会就労センターぴいす
住所	群馬県前橋市広瀬町3-7-15　内山ビル101
ＴＥＬ	027-290-6161
ＵＲＬ	https://s-step.com/?cat=17

地域課題解決×福祉

佐賀県
唐津市

特定非営利活動法人
蕨野の棚田を守ろう会
相知市民センター産業・教育課

就労継続支援Ｂ型事業所

カーマン

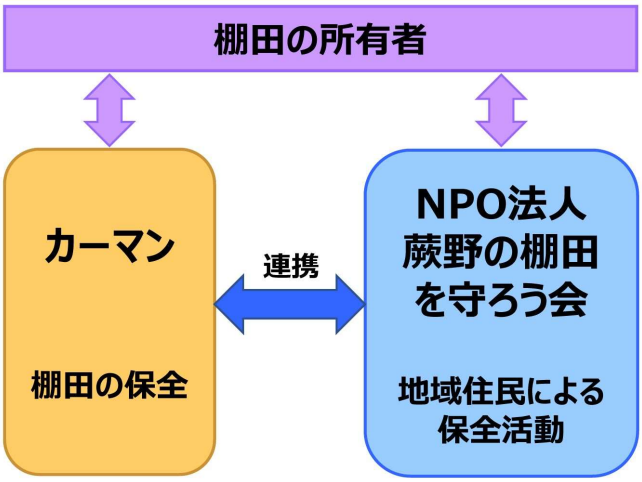
蕨野棚田

カーマン事業所

連携の概要

「地域課題解決に向けて唐津市、NPO法人、事業所による保全・活用への連携」

相知町の「蕨野の棚田」は、平成11年に「日本の棚田百選」に認定、平成20年に棚田では初めて「重要文化景観」に選定、令和2年には指定棚田地域振興法に基づく「指定棚田地域」に選定されている。その一方で高齢化と過疎化の進行による棚田の保全と活用が大きな課題となっている。
カーマンは平成23年から地域の農家と連携して、原木シイタケ栽培を行っていたが、平成28年に連携する農家の紹介で棚田を所有する個人農家から耕作放棄田を借り受けて、桜苗の定植を行ってきた。
その取り組みが評価されたこともあり、現在は棚田の保全活動を行っていた蕨野の棚田を守ろう会と連携して、この重要な景観を保全・活用するための取り組みを行っている。



【連携のきっかけ】

令和2年初夏、居石克己氏（蕨野の棚田を守ろう会理事）より「蕨野棚田地域振興協議会　設立総会」の会議にて、全会一致で、カーマンと蕨野の棚田を守ろう会が連携して、棚田の保全と活用を行うとの参加協力が承認されたことがきっかけとなる。

【連携の特徴】

- 官民一体（所有者、市、カーマン）となった連携の一翼を担っている。
- 桜の定植について収穫した桜葉の出口戦略（民間企業へ納品）が明確であること。
- 作物の作付けをもって棚田の保全・治水を行っている。

【連携の成果】

- 現在、国内に流通する桜葉は、原材料の６割ほどを海外から輸入している。これを国産品として出荷し、「安心、安全」な品物の市場への提供を実現。
- 定植終了（約１万株）後の田畑は、雑穀の作付けをもって保全できる。
- 耕作放棄田の減少を防ぎ、景観保存及び治水に貢献できている。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
定植・柊竹	種を発芽させ、苗になったものを定植。苗の周り四隅に竹杭を打つ。	全員（全障害者）
草刈り	杭の外側の草を刈る。	利用開始後、 公的安全講習を終えた者
枝の剪定	初冬、地より30㎝高さに剪定。	全員（全障害者）

【ここが違う！カーマンの取組み】
耕作活動を進めつつ、棚田の景観保全及び治水に貢献

① 棚田保全による土砂崩れを防止・抑制や耕作放棄地の活用を図るという意義ある仕事に従事することで利用者の就労意欲や社会性も過疎地の活性化に貢献している。
② カーマンは、「基礎課程」と「専門課程」からなる就労支援を行っている。「基礎課程」では、社会生活を送るために必要な職場でのコミュニケーションを習得する訓練を行い、基礎課程を終了した利用者に対しては、一般就労に向けて適性を考慮した専門課程訓練を実施している。こうしたカリキュラムにより棚田の保全活動、定植、そして多様な農作物の耕作で結果に繋がっている。
③ 令和２年では、スダチ（約1,600kg） 実山椒（約215kg） 梅（約180kg）椎茸（約10,600kg）を収穫。更に、令和3年より約33,000㎡の放棄田の保全管理を受託。
④ 地域の困りごとを一つ一つ解決することで育んできた信頼関係をベースに、既存住民、新規就農者、Uターン住民などとの連携体制が整っている。

桜定植

スダチ

これから取り組む事業所に WIN−WINのポイント

特定非営利活動法人蕨野の棚田を守ろう会
理事　居石克己氏

唐津市相知市民センター 産業・教育課
係長　青木繁明氏
係長　藤田直樹氏

地域に不可欠な担い手として期待してます

カーマンさんは、棚田と里山の保全にあたり、桜の植栽、実山椒や菜花の栽培事業を展開されてます。また、通行できなくなるほどになっていた農道等の復旧・整備もやっていただいてます。こうした取り組みにより、棚田の景観保全が可能となり、大いに貢献してもらって助かっています。地域においては、高齢化と過疎化により、後継者不足が深刻になっていて、今後さらにカーマンが担う役割は重要なものとなっていくと思います。

合同会社トランスーノア
カーマン
施設長 河野博氏

「障害者である前に社会人であること」に向けて取り組みたい

事業拡大のために農地を探していましたが、棚田の活用により、展開可能な農地が確保できたことをとても嬉しく思っています。地域の課題解決を地域住民と取り組むことで、利用者自身が社会の一員であることを認識し始めてきました。今後もこうした取り組みを続けることで、利用者が社会人であることへの自覚に繋がることを期待してます。

作業の様子を写した動画を公開中！
利用者が実際に作業している様子をご覧いただけます。

法人名 事業所名	合同会社トランスーノア カーマン
住所	佐賀県唐津市厳木町牧瀬399番地3
ＴＥＬ	0955－63－2140

地域課題解決×福祉

岩手県
盛岡市

青少年教育・社会教育に関する施設の管理運営
一般財団法人岩手県青少年会館
フラップいわて

就労継続支援Ｂ型事業所

盛岡書房

フラップいわてと連携し古本市へ出店

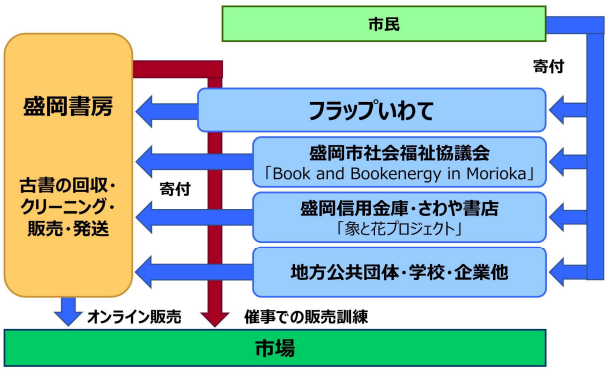
撮影作業

オンラインショップ出品作業

連携の概要

「プロジェクトで古本の仕入れ販売を仕組化。産学福が連携し地域循環型モデルに成功」

盛岡市は１人当たりの本の購入額で全国１位と本が好きな人が多い地域である。その地域で「盛岡書房」は利用者（発達障害やメンタル疾患、引きこもりなど）が古本の回収から仕分け、チェック、発送まで全ての業務を担当しインターネットでの販売をしている。仕入れに関しては、様々なきっかけからフラップいわて、社会福祉法人盛岡市社会福祉協議会、盛岡信用金庫・さわや書店、他との連携に広がり、幅広く寄付を受けるまでに拡大。利用者はこの業務を通じて、自己解決能力や仕事に必要な知識・能力が身についており、その結果通所から１年後には多くの利用者が一般企業などへの就労を実現している。職員は相談にのることや安全配慮など必要最低限の支援に努め利用者の自立を促している。



【連携のきっかけ】

フラップいわてとは、盛岡書房の営業活動を通じて、また盛岡市社会福祉協議会等とは古本の地域循環型モデルプロジェクトへの共感がきっかけとなり連携が開始した。フラップいわてが地域密着型のイベントを毎年実施する中で住民から本の寄付をいただき、その本を盛岡書房で整備して市場に戻すことが最初の取り組みとなった。その後、古本市の開催、就学生の職場体験の実施などの連携によりさまざまな取り組みを行っている。

【連携の特徴】

- 地域の知的資産である本を回収、再生、販売することで地域及び全国の資産へと価値を高める取り組みであること。
- 利用者の早期社会復帰・就労を目指した意識づけ、管理モデルの仕組化が出来ている。
- 地域密着型イベントでは利用者に訓練として古本の回収や販売を行うチャンスを提供している。

【連携の成果】

- 本のまち盛岡市で一般市民に留まらず地方公共団体、学校、企業などを巻き込んでの古本の資源循環モデルの形成に成功している。
- 寄付された古本は商品としてオンラインショップを通じ地域に留まらず全国への販売に成功。
- 利用者の意欲を引き出し工賃向上や早期社会復帰といった具体的な実績に繋がっている。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
集荷	外回り	体力のある人 注意深く作業が出来る人
仕分け・クリーニング	状態の見極め・クリーニング	理解・判断力のある人 集中力のある人
評価・出品・ポイント付与	段階評価PCを使用して出品作業	理解・判断力のある人 集中力のある人
注文された商品の梱包	注文された商品の梱包	パソコン操作が出来る人 判断力のある人

【ここが違う！盛岡書房の取組み】
利用者への意識づけ、及び可視化された管理による高い就労実績

① 利用者が何のために、誰のためにという目標を明確にすることにより自己肯定感と自己有用感そして責任感が生まれるようなカリキュラムを設定。
② 成長をデータやグラフで可視化して管理。
③ 作業状況の確認や作業中の問題点はチームの中で話し合いによる情報共有を身に付けることにより、コミュニケーション力や自己解決力を身に付けるよう指導。
④ 施設内で身に付けた基本的なスキルと職場実習での実践スキルは就職に結びつくための力になっている。

仕分け作業

クリーニング作業

これから取り組む事業所に
WIN−WINのポイント

一般財団法人岩手県青少年会館
フラップいわて
事務局次長　菅原直近氏

ブックループ活動（本の寄付）は地域住民に好評

利用者の皆さんは非常に真面目で一生懸命仕事をされているという印象です。それが多岐にわたる就職先にも表れていると思います。いっしょに取り組ませて頂いている古本市やブックループ活動（本の寄付）は地域住民に大変好評です。コロナ禍によるイベント自粛などもあり、今後はリモートを活用したイベントを展開していきたいと計画しておりますので、盛岡書房さまとはさらに連携を強化していきたいと考えております。

特定非営利活動法人
いわてパノラマ福祉館
盛岡書房
理事長　高舘美保子氏

本の循環を通し、誰もが「自身の存在を肯定できる場所」を創る

盛岡書房の事業は、地域の皆さまからの「本」と「想い」の寄付が礎となっています。
利用者は就職を目指すのはもとより人の役に立つことにやりがいを感じ、自分たちで考え工夫しています。その毎日を重ねることで自分も相手も肯定できるようになり力を付けていきます。「人の存在意義は常にプレーヤーであること」プレーヤーとは自分で選択したことを誰かのために行動できる人、そんな人財を地域の皆さんとともに育てています。

作業の様子を写した動画を公開中！
利用者が実際に作業している様子をご覧いただけます。

法人名 事業所名	特定非営利活動法いわてパノラマ福祉館 盛岡書房
住所	岩手県盛岡市本宮１-9-12
ＴＥＬ	019-681-3971
ＵＲＬ	http://www.npo-ipf.org/web/index.html

地域課題解決×福祉

福島県
泉崎村

「食のしあわせ」を「しいたけ」から

農事組合法人ひかり

就労継続支援Ａ型・Ｂ型
移行支援支援（多機能型）

こころん

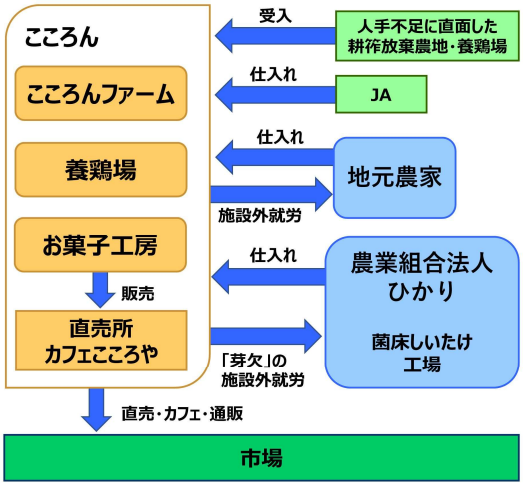
しいたけ工場での芽欠作業

直売所カフェこころや

連携の概要

「福祉と地域課題の解決は相互関係が強く、連携によって同時解決を試みた！」

こころんでは約100名弱の利用者がサービス登録をしており、そのうち50名程の利用者が、耕作放棄地を引き受けた自社農地で無農薬・無化学肥料のオクラ、玉ねぎ、菊芋など約50品目の野菜の栽培や水稲を行っている。また、高齢のため継続が困難になった養鶏場を引継ぎ養鶏業も行っている。利用者が生産した農作物や加工品は、地域農家などの野菜と一緒に自社の直売所で販売したり、カフェメニューの食材として利用している。
利用者への就労支援が同時に地域課題の解決にもつながっていると考えているため、自社内での農福連携だけでなく、施設外就労を通じた外部との連携を強化している。今般、農業組合法人ひかり（以下、ひかり）と連携し菌床しいたけ栽培工場で約30名の利用者が、しいたけ栽培における「芽欠」作業を行っている。



【連携のきっかけ】

令和元年の工場立ち上げ時の従業員を募集する際に、地元の養護支援学校に求人掲示の依頼をしたところ、こころんを紹介されたのがはじまり。車で2～3分の好立地であったが、紹介されるまではお互いに知らなかったため、今般の連携をきっかけに良好な取引関係につながった。

【連携の特徴】

- 地域課題を一つずつ取り込み、利用者一人一人に合った作業内容に分解して解決に繋げることを繰り返し、事業活動を拡大していることで、地域に不可欠な担い手になっていること。
- こころんでは、耕作放棄地を利用した自社農場、高齢養鶏者から事業承継をした養鶏場、それらで生産された野菜や卵を販売、食材として利用する直売所カフェを運営している。
- ひかりの工場内作業はこころんでは提供できない作業内容であり、就労の選択肢の幅を広げている。

【連携の成果】

- 工場内は気温や湿度が一定である。一年を通じて同じ環境で作業ができ、ペースが掴みやすいため就労意欲が高まる成果を得た。
- １日4名前後のチームを組んで、週に4日間午前中の作業を通年で担当している。ひかりからの評判も良く、その他に1週間程度の就労体験の枠を頂く事ができた。
- 体験することでミスマッチを減らし、利用者一人一人にあった支援を確実に提供できる成果を得た。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
しいたけ栽培の芽欠（めかき）	菌床から発芽したしいたけは重なっており、放置すると育成不全や異形になるため、適正な間隔に間引く作業。	作業ペースを守り、同じ作業をムラなく繰り返すことができる人。 正常なしいたけと育成不全や異形などを区別する判断ができる人。

左：耕作放棄地を引き受けた自社農園「こころんファーム」
右：（農）ひかりでの芽欠作業

【ここが違う！こころんの取組み】
地域の皆さんと小さくスタートし、今では地域の重要な担い手に

① こころんの強みは、販路（直売所カフェ）を有していることである。各連携先の商品を直売所で販売しており連携先にとっては大きなメリットとなっている。メリットを提供していることで、こころんが更なる施設外就労の連携先を探す際に協力を得たり、情報をもらえる事につながっている。
② 利用者が生産した農作物や加工品は、その他一般の商品と同様に陳列しており作業工賃の向上につながっている。
③ 連携先拡充への取り組みは、「利用者の可能性を広げていきたい。」という理念の下実行している。連携先が増えれば自社だけでは提供できない作業内容が増え、利用者一人一人の特性にあった就労支援につながる。
④ こころんのある地域は農業が盛んな地域であったため、連携先に農家が多く、農家特有の担い手不足の問題が同時に解決されていくのが特徴。利用者ファーストの考え方が、結果、地域課題の解決につながっている。

「日替わり気まぐれランチ」

直売所カフェ　こころや

これから取り組む事業所に WIN−WINのポイント

農事組合法人ひかり 工場長 天沼芳美氏

自身を見つめなおす 良い機会になりました

農事組合法人ひかりは、関連会社とともに「地域に根ざした組織」を目指しています。会社を立ちあげ当初にこころんを紹介されました。こころんとの連携による成果を一言でいうと、『自社従業員の就業意識が向上した』と思います。利用者が一生懸命に真面目に取り組んでいる姿を見て、自分たちとまったく同じ作業をこなすことが出来ると知り、内省して頑張るようになりました。また、利用者へのサポートを意識しながら働くことで、他人に優しく、柔らかく接するようになり、職場の雰囲気も良くなりました。

社会福祉法人こころん 直売所カフェこころや 理事 熊田芳江氏 施設長 吉村まゆみ氏

地域ぐるみで福祉支援を 実現したい

連携をきっかけに、しいたけ工場が地域の養護学校にも認知され実習先になりました。当社には養護学校の卒業生もおり、在学中のしいたけ工場での経験があるため、スムーズな就労支援につながっています。
現在は午前中の就労支援ですが、終日の就労支援も検討し、最終的にはしいたけ工場での採用に繋げて行きたいと考えています。養護学校、当社の就労支援、しいたけ工場での雇用のように地域で完結できる好循環になることを目指します。

作業の様子を写した動画を公開中！
利用者が実際に作業している様子をご覧いただけます。

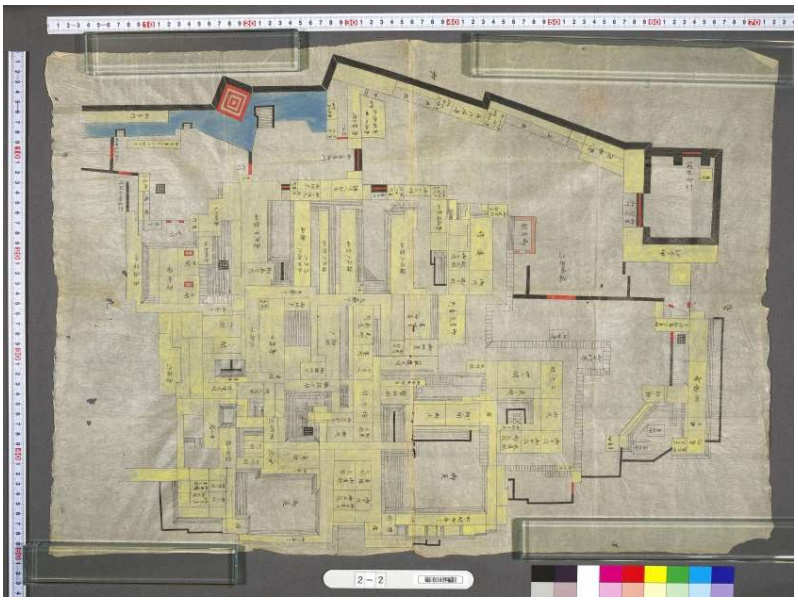
法人名 事業所名	社会福祉法人こころん 直売所カフェこころや
住所	福島県西白河郡泉崎村泉崎字川畑37-1
ＴＥＬ	0248-53-5568
ＵＲＬ	http://www.cocoron.or.jp/store/

地域課題解決×福祉

島根県
松江市

市の歴史、
文化財史料のアーカイブズをつくる
松江市役所

就労継続支援Ａ型事業所
白潟事業所


「（江戸）屋敷絵図」（松江市蔵）

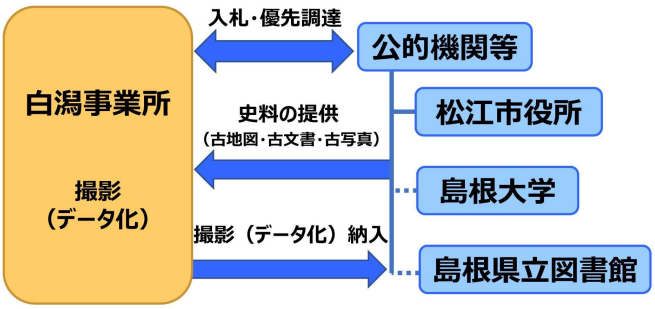
事業所内の一室で撮影

撮影したものをデータ化

連携の概要

「撮影・録音・データ化事業で地域の歴史と文化財史料を後世に引き継ぐ」

「松江市役所（歴史まちづくり部）」と松江市内の株式会社江友の「白潟事業所」との連携。松江市が所有する古文書や古地図、郷土史資料などを撮影して保存するデータ化事業を行なっている。目的は松江市の史料のアーカイブズ化。白潟事業所は簡単な郷土写真のデジタル化から町内会報誌、祭りの写真、田舎の歴史などに撮影対象を広げていき、現在は難易度の高い古文書や古地図等の歴史・文化財史料を手がけている。連携先は松江市役所の他に島根大学、島根県立図書館等。県外の機関からの依頼もある。



【連携のきっかけ】

2009年から始まった松江市史編纂事業の委員からの紹介を受けて松江市が白潟事業所に依頼するようになった。松江市としても福祉事業所を支援したい意向があったこと、白潟事業所の撮影技術力が高かったことが依頼につながった。市史の編纂事業では松江市の史料のアーカイブズ化という目的もあったが、市役所以外から借りた史料も多かったため、返却する前にデータ化して保存しておく必要があった。市史の編纂事業以降、松江市と白潟事業所との連携は継続している。

【連携の特徴】

- 松江市は城下町として発展し、歴史的背景のある街として古文書や古地図などの歴史史料が多く、データ化保存のニーズが高い
- 撮影、データ化という仕事の依頼を受けて、白潟事業所がコストを抑えた材料を使用した自前の撮影室と撮影機材をつくった
- 同事業所は撮影のクオリティを上げながら、コストダウンした分を販売価格に反映して、提供先に金額的なアドバンテージを出している

【連携の成果】

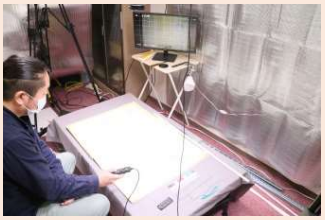
- 松江市史編纂事業を通じて地域の歴史史料や文化財資料を後世に残す、地域課題の解決の一端を担った
- 同事業所は資料の撮影から派生して、冊子の作成、製本印刷、防災マップの作製など同事業の幅を広げている
- 同事業所が一般的な市場価格より安価で提供していることにより、市税の節約にもつながっている

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
史料撮影	デジタルカメラ、スキャナーを使って資料を撮影する	カメラ等精密機械が好きな人
画像のデータ化（調整）	トリミング、色調整	静かに淡々と作業したい人
史像のデータ化（大型資料の撮影画像合成）	専用ソフトを使って、数十枚の分割画像を一枚の画像に合成する	間違い探しが得意な人
機材の調整、メンテナンス、設計製作	効率やクオリティを考え、機材の改良をする	想像力、ひらめき力のある人

【ここが違う！白潟事業所の取組み】
設備面でコストダウンを図り、販売価格に反映

① 白潟事業所の母体となる法人（株式会社江友）は、業務に人を合わせるのではなく人に合わせて仕事を創り出すという理念を持っており、法人全体で利用者の特性に合わせた10に渡る事業を運営している。松江市役所との連携はその中の「撮影」事業にあたる。
② 撮影、録音、データ化事業は専門的な技術が必要なうえに、扱う対象が古文書や古地図など歴史史料であるため、その分野や取り扱い方にも関心を持つ人材が求められる。現在、その分野に知識のある職員のもと、３～４人のチームで作業に取り組んでいる。松江市内でこの事業に特化するところは一般企業も含めてほとんどないとみられる。
③ 作業には大掛かりな機材が必要だが、それらの大半をホームセンター等から購入した材料を使って手作りしてコストダウンを図ってきた。また、カメラ等の一部の機材は補助金を利用して購入した。コストダウンした分を安価な販売価格につなげており、撮影のクオリティが高さとともに、受注が継続する要因となっている。


照明環境も安価な機材をセット

撮影対象は小さなものから大きなものまで

これから取り組む事業所に WIN－WINのポイント

松江市歴史まちづくり部
史料調査課　小山祥子氏

松江市は郷土史料の保存事業のニーズが高い街です

松江市は先の戦争で比較的被害を受けずにすんだ街であり、江戸時代からの史料が残っています。歴史的背景のある街として古文書や古地図の保存事業のニーズがある街です。これから発見される史料もたくさんあるので、失われる危険の前にきちんとデータ化していきたいですね。白潟事業所さんは熟練した技術をお持ちなので安心して任せられます。

株式会社江友
白潟事業所
カメラマン、レタッチャー
上野誠人氏

古文書の取り扱いと撮影技術は細かい作業の積み重ねです

撮影室や撮影機材の環境づくりは上司といっしょに一からつくってきました。この仕事は地域の歴史に関わるので、仕事の結果が報道されたり、完成物として人の目に触れることで仕事に誇りが持てます。古文書の取り扱いや撮影技術は細かい作業の積み重ねのため、今後は向き不向きも含めて後進の技術者の人材育成にも取り組みたいですね。

作業の様子を写した動画を公開中！
利用者が実際に作業している様子をご覧いただけます。

法人名 事業所名	株式会社江友 白潟事業所
住所	島根県松江市灘町139-12
ＴＥＬ	0852-59-9193
ＵＲＬ	http://ko-you.com/

地場産業×福祉

高知県
高知市

高知の観光土産品
工芸品企画製造卸業
有限会社宮地民芸

就労継続支援A型・B型事業所（多機能）
こだかさ障害者支援センター

「鳴子」

塗装

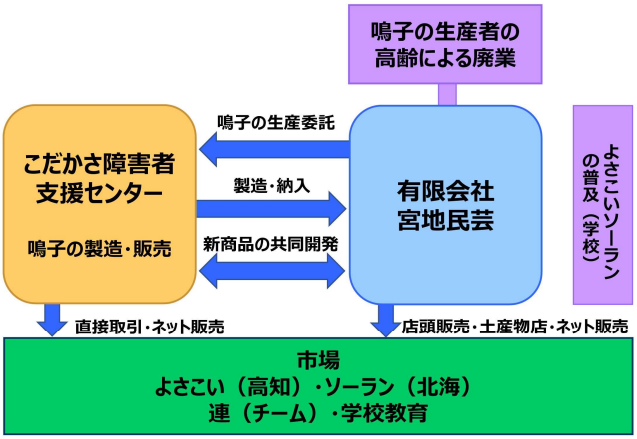
型抜き

バチミミ穴あけ

連携の概要

「高知のよさこい祭り、品質の良い『鳴子』の製造販売で連携」

高知市内のＡ型・B型事業所こだかさ障害者支援センター（以下、こだかさ）と同市内の観光土産品卸業「有限会社宮地民芸」（以下、宮地民芸）との連携事業。高知県はよさこい祭りの発祥地。こだかさは祭りで踊り子が使う『鳴子』を生産してきたが、北海道で始まったよさこいソーラン祭りを機に祭りが全国規模になり、一気に生産数が増加した。それ以降、主力製品として売上の多くを担っている。高知市内で観光土産品卸業を営む宮地民芸とは、鳴子の製造販売で長く連携してきた。コロナ禍で祭りが中止になり生産数が減少してからは、鳴子を使った新商品の共同開発に取り組んでいる。



【連携のきっかけ】

35年ほど前に宮地民芸で取り扱う鳴子を生産していた工場が閉鎖になったことをきっかけに、木工製品をつくっていた同事業所との連携が始まった。偶然近くに同事業所があったのが始まりの理由。以来、宮地民芸のオリジナルデザインの鳴子や宮地民芸で受注した鳴子を同事業所が製造している。

【連携の特徴】

- 国産から海外産まで鳴子の製造者は多いが、高知県は木材が豊富で素材のヒノキは音がよく鳴ることから、こだかさの製品は品質面の評価が高い。
- 鳴子はこだかさの主力製品であり、ピーク時は最大6万組（12万本）を製作していた。また祭りにとどまらず学校の行事で使用する用途の鳴子もつくっている。
- コロナで販売量が激減したため祭りの用途以外の商品を開発。スマホを置ける「なるこ型スマホスタンド」を共同開発し、宮地民芸が特許意匠を取得した。

【連携の成果】

- 30年以上にも渡る連携が続いており、高知の伝統産業である鳴子の製造と販売をともに担っている。
- 宮地民芸の企画で共同開発した「なるこ型スマホスタンド」の売れ行きが伸びており、第2の新商品開発に取り組む計画がある。
- 利用者には木工職人としての技術も積み重なっているうえ、地域の伝統産業に関わっていることが励みとなり、事業加速の要因になっている。

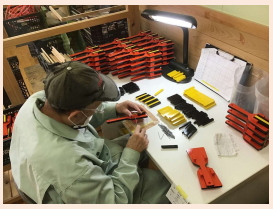
活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
木取り・木作り	木材をサイズごとに切り分け、機械を使っていろいろな形の鳴子を作る。 それぞれのパーツの穴あけをする。	機械を使う注意力・集中力がある人
塗装	鳴子の複数のパーツの研磨・塗装を繰り返して着色をする。	細かい作業が得意な人 配合の計算ができる人 環境に対応ができる人
組立・検品	鳴子の音の出る部分を角度を確認しながら組み立てる。 キズ・仕様内容を確認し修正等をする。	理解力・集中力が高い人 細部まで見ることができる人 責任感がある人

【ここが違う！こだかさ障害者支援センターの取組み】
オリジナルデザイン、工程の細分化、ネットショップの早期立ち上げ

① 顧客は祭りに出場するチームの踊り子、学校関係者、観光客の土産物など幅広い。特に踊り子が使う鳴子は衣装にあわせたオリジナルデザインとし、ロゴの焼き印を入れたり、色を変えたりするなど顧客と相談しながら製作している。
② 作業工程は約23工程に分業されている。図面化は主に職員が担い、利用者は「切る」「穴あけ」「塗装」等のパーツ作業を担当している。工程が多いのでそれぞれの障害に合わせた作業が可能である。聴覚障害の利用者には音が聞こえないため機械の扱い方に特に注意を払っている。
③ 機械工具が充実しており、レーザー加工できる機械、ＮＣ旋盤など工業用の機械が数十台ある。機械は利用者といっしょに使いやすいものを選定している。事業所の方針として利用者の手作業に頼るだけでなく、機械を充実させて生産量を増やし、利用者の工賃に反映させることを重視している。
④ ネットショップを立ち上げたタイミングが早く、ホームページからの受注も多い。全国、海外からも注文が入っている。

木取り

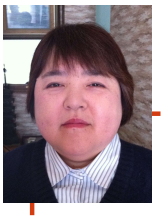

組立

これから取り組む事業所に WIN−WINのポイント

有限会社 宮地民芸
代表取締役 戎吉香与子氏

木工商品部門の大切なパートナーです

宮地民芸は私の祖父の代から高知市内で商売を営んでおり、こだかささんとは長いお付き合いになります。当店の木工商品の大切なパートナーです。鳴子を製作している利用者さんには高齢の方もいらっしゃいますが、納期までに1本1本大事につくってくださいます。ブランドとして続いていってほしいし、私たちもがんばりたいですね。



社会福祉法人小高坂更生センター
こだかさ障害者支援センター
木工部部長 友村正子氏

鳴子から派生する新商品を考えたいですね

事業所では鳴子と木工製品の２つのラインを育てており、今後も力を入れていきます。よさこい祭りが中止となって私たちも宮地民芸さんも厳しい状況です。「なるこ型スマホスタンド」に続く新製品を考えていこうかという話をしています。鳴子をベースにした次の商品をいっしょに企画していきたいですね。

作業の様子を写した動画を公開中！
利用者が実際に作業している様子をご覧いただけます。

法人名 事業所名	社会福祉法人小高坂更生センター こだかさ障害者支援センター
住所	高知県高知市越前町2-4-5
ＴＥＬ	088-873-0821
ＵＲＬ	http://www.kodakasa-h.com/kodakasa.html

地場産業×福祉

愛媛県
松前町

愛媛の地場産業の一つである海藻の珍味を生産販売する企業
株式会社昆布森

就労継続支援Ｂ型事業所
まこと（松前事業所）

まこと（松前事業所）全景

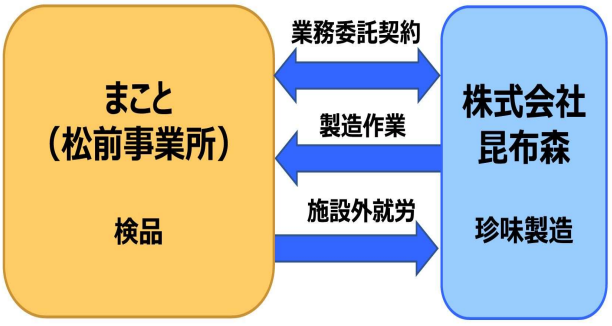
芽かぶ入りあさ漬け塩

芽かぶ茶

連携の概要

「効果的な施設外就労のプロセスによる愛媛の地場産業である珍味産業への貢献」

松前（まさき）町の珍味業界は小魚珍味の生産を古くから手がけ、地元瀬戸内海で獲れる新鮮な小魚を主原料として極めて良質の珍味として全国的に知られている。まこと（松前事業所）（以下、まこと）は、珍味の生産事業者である株式会社昆布森（以下、昆布森）と同社製品の製造における受託作業、及び同社工場への施設外就労で連携が行われている。受託内容としては、乾燥昆布の異物除去及び一次検品。そして、別製品（ひじき白和えの素）の包装用袋へのラベル貼付の作業を行っている。また、同製品の充てん作業の作業訓練として、細分化された模擬作業も行われている。施設外就労では、"おしゃぶり芽かぶ"、"ひじき白和えの素"を含め、全4品目の作業を担当しており、箱作り、製品充填作業、及び機械検品のところを担当している。常時施設外就労として4名を派遣し、全体で7名が昆布森との作業に従事している。
企業、事業所ともに、作業工程の改善及び利用者の適正分析/評価も熱心に取り組んでおり、作業工程の改善活動が継続して行われている。



【連携のきっかけ】

管理者である山﨑氏が、民間企業勤務時代に珍味業者である昆布森が障害者支援に関心がある企業であることを知っていた。また、まこと設立前に福祉事業所にて勤務していた時も同社から作業の相談を受けており、以前から同社との親交があった。平成29年より昆布森からの受託作業を開始し、まことを昆布森の隣に開設することになってからは施設外就労も始まり現在のような連携となった。昆布森は、20年以上前から、障害者施設への作業を委託してきた経験もあり、また山﨑氏との親交により、具体的な連携が始まることになった。

【連携の特徴】

- まことの職員が、企業から求められる、品質、納期、コストの点などビジネス感覚を有していること。
- 昆布森及びまことは利用者の優れた適性に合わせた工程を組み立てることを目的に、工程の細分化に取り組んでいること。
- 昆布森は2021年に「SDGs宣言・松山市SDGs推進協議会登録」を受けている。

【連携の成果】

- 双方が工程の細分化に取り組んだ結果、作業効率が向上してきている。
- 昆布森への一般就労への可能性のみでなく、同様の作業が発生する他の企業への事業拡大の可能性が大きくなってきている。
- 他の珍味製造企業への就労が決まった利用者がいる。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
前作業	機械による屑取り除き	安定したペースで作業できる人 指示を理解し作業できる人 周囲の環境に適応できる人 手順を理解し作業できる人 体を動かすことが得意な人
計量	機械を通過した芽かぶを計量	
検査	計量した芽かぶを色識別/金属探知機ラインへ投入	
封入・保管	芽かぶを専用ケースに入れて保管	

【ここが違う！まこと松前事業所の取組み】

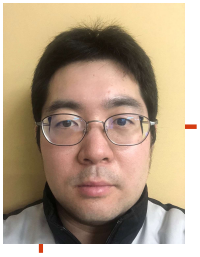
地場産業を支えるために必要なコスト感覚を生産性の追求によりビジネスパートナーとして活躍

① 民間企業勤務経験のある経営者が職員を育成していること。
② 利用者の就労を考えるうえで、事業として成り立たせることに重点をおいており、利用者には基本的動作として挨拶等の勤務態度についての指導を行い、委託された作業では品質及び納期を遵守することなど、強く留意されている。
③ 昆布森も、就労継続事業所への作業委託の長い経験、及びそこで培った障害者の特性への理解が深く、工場長及び社員にも深い造形がある。
④ 利用者が担当する作業工程については、常に改善が検討されている。施設外就労を目指して、体験、工夫を重ねて、利用者の作業工程を開発していくプロセスが、この連携で強く 意識されていることも、好循環を生んでいる。
⑤ 松前町には、珍味の企業が多くあり、事業の担い手確保に困っている企業が多い。まことは、これら企業への労働力を供給することで地域産業に貢献する事業所となることを目指している。
⑥ このような取り組みが、別の珍味事業者への認知度として広がっており、利用者の就労の機会を考えている企業も増えており、就職の事例もでている。

振り機投入作業

色彩識別機

これから取り組む事業所に WIN−WINのポイント



株式会社昆布森
常務取締役・工場長　好永隆之氏

障害者を労働者として活かすことにより、事業所が活性化

障害者を労働者として、弊社内でともに働くことになり、現場の職員も、事業所の製造工程の改善に積極的に取り組むようになりました。また、そのことにより、社内のコミュニケーションが活発になり、事業所全体の活性化を感じることができています。今後は、作業工程の機械化ができる部分等を更に開発し、施設外就労、障害者雇用を図りながら、事業を進展させていきたいと考えてます。

特定非営利活動法人まこと
まこと（松前事業所）
理事　山﨑澄人氏

担い手の不足する地場産業（珍味事業）へ労働力育成モデルの確立

昆布森との連携事業をモデルに、施設内の作業から施設外就労をつなげた作業モデルを確立できています。このことにより、地域に多数存在する珍味事業者も、障害者を労働者として活用することについて、徐々に関心を持たれるようになって来ており、就職事例も出てきました。今後は、このモデルを更に進展させ、地場産業である珍味事業への労働力育成モデルを作って行きたいと考えてます。

作業の様子を写した動画を公開中！
利用者が実際に作業している様子をご覧いただけます。

法人名 事業所名	特定非営利活動法人まこと まこと（松前事業所）
住所	愛媛県伊予郡松前町西高柳246-4
ＴＥＬ	089-985-2000
ＵＲＬ	https://npo-makoto.jp/index.html

地場産業×福祉

大阪府
堺市

創業明治35年
和風香辛料をつくって百余年
株式会社やまつ辻田

就労継続支援Ｂ型事業所
まちかどステーション八百萬屋

唐辛子の収穫作業

唐辛子の栽培風景

唐辛子の選別作業

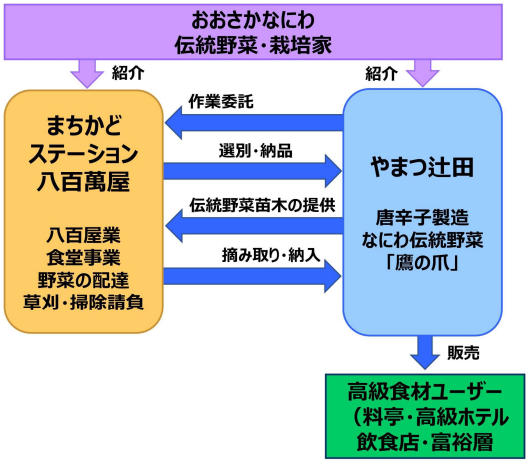
やまつ辻田の商品「鷹の爪」

A級品の鷹の爪

連携の概要

「なにわの伝統野菜、唐辛子のブランド『鷹の爪』の摘み取りと選別作業を請け負う」

大阪府堺市で長く和風香辛料の製造販売を営む「株式会社やまつ辻田」と同市内の事業所「まちかどステーション八百萬屋」の連携。農福並びに地場産業との連携である。やまつ辻田が扱う数ある香辛料のうち、唐辛子『鷹の爪』は〝なにわの伝統野菜〟に認定された地域の特産品である。その摘み取りと選別作業を同事業所が請け負っている。堺市はもともと唐辛子の一大産地だったが、生産農家が年々減少。今や国内で流通している赤唐辛子の大半が外国産だが、同社の赤唐辛子は貴重な国産品として高級料亭などから引き合いが多い。同事業所にとっても通年作業を確保できる安定事業となっている。また、畑の一角で唐辛子のテスト栽培を行い、今後は栽培数も増やす予定。



【連携のきっかけ】

2021年7月、堺市で栽培される鷹の爪が大阪府の「なにわの伝統野菜」に認証されたことを機に、ある紹介者を通じて、やまつ辻田がまちかどステーション八百萬屋を知ることになった。鷹の爪は摘み取りと選別作業が大変で、これまで地域のボランティアに内職的に作業を依頼していたが、その一部を同事業所にも依頼。事業者同士が同じ堺市内にあり、原材料の持ち運び等にも便利なことも連携の後押しとなった。作業を請け負った事業所は現在、作業所の一部で唐辛子の軸とりや色別に分ける等の選別作業を行っている。

【連携の特徴】

- かつて唐辛子の産地であった堺市に残る数少ない国産唐辛子に関わる事業であり、「なにわの伝統野菜」に認証されるなど、地域性と伝統性がある。
- 事業所ではもともと野菜の栽培や収穫を行なっており、唐辛子の選別作業にとどまらず、栽培にも事業を広げていける環境にある。
- やまつ辻田の国産唐辛子は希少性が高く安定した販路を持っている。メディアで紹介されることも多く、ブランド化された商品である。

【連携の成果】

- 唐辛子の選別作業は通年行われるため事業所の安定した売上確保につながり、受注単価の高い栽培にも着手することで工賃アップの可能性がある。
- 企業側にとっても、人の手と労力がかかる摘み取りと選別作業の担い手を増やせる機会となった。
- 商品がメディアに取り上げられる機会が多く、選別に携わる事業所の利用者のモチベーションアップにつながっている。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
準備	手袋、帽子、エプロンを着用し、机などを消毒する	衛生面がしっかりしていて、段取りの見通しがもてる人
選別	軸と枝を外す	指先が器用である人。 スピードのある人。
色選別	Ａ級品からＣ級品までを色別に分ける。痛みのある部分はとって捨てる	判断力がもてる人。細部に関して気配りができる人。
片付け	色別の箱に入れる。ビニール袋に入れ口をしばる。ゴミをまとめる。掃除機をかける	衛生面がしっかりしていて、全体を捉えて指示出しができる人

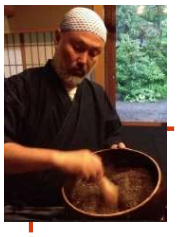
【ここが違う！まちかどステーション八百萬屋の取組み】
ゆるやかな納期のもと、丁寧な選別作業を行う

① 唐辛子の栽培と摘み取りは時期が決まっているが、栽培管理期間は比較的長く、選別作業は通年生じるため、事業所の安定した収入源になる。また、事業所のペースで作業配分できるのも強みである。
② 唐辛子の選別には一定のスピードが必要だが、事業所としては生産性より利用者のペースと訓練であることを尊重しており、仕事に向かう構えや取り組み方を重視している。発注する企業もそのことを理解しており納期を設けていない。
③ 選別作業は食品を扱うため衛生面に配慮できる人や、ひとつひとつを見極めて選り分けていくので作業に集中できる人、寡黙な人が向いている。
④ 同事業所の近隣には後継者不足で放棄された畑や田んぼが多くあり、唐辛子の栽培は拡大していける環境にある。そのためこの連携事業を主軸事業に育てていく意向がある。

唐辛子の摘み取り作業

摘み取った唐辛子を色別に分ける

これから取り組む事業所に WIN−WINのポイント



株式会社やまつ辻田
代表取締役社長　辻田浩之氏

日本に唯一残る鷹の爪純系品種を120年間守り伝えています

日本の唐辛子は外国産が99%、国産の「鷹の爪純系品種」は弊社が唯一です。それだけ希少性があるものですので、購入してくださるお客様も品質にこだわる料理人が多いです。事業所の利用者さんに、どのような人たちが買ってくださるかを話したり、メディアに取り上げられたと話すと喜んでくれます。そんな表情を見ると私もうれしいですね。

特定非営利活動法人ASUの会
まちかどステーション八百萬屋
理事長 増田靖氏

対等なパートナーシップで心地よい関係ができていると思います

連携先のやまつ辻田さんは事業所に対して対等でフラットな目線で関わる方です。作業内容の指示が明確で、円滑なコミュニケーションができていると思います。今後は唐辛子の栽培で事業の幅を拡げ、売上の確保を行なっていきますが、その一方で一流の食材を扱っているという自覚を持ち、品質を担保する上でも作業場の衛生環境を向上させていきたいです。

事業所ホームページへのご案内です。
事業所の活動を俯瞰的にご覧いただけます。

法人名 事業所名	特定非営利活動法人ASUの会 まちかどステーション八百萬屋
住所	大阪府堺市南区槇塚台3-1-7
ＴＥＬ	072-289-7139
ＵＲＬ	https://yaoyorozu-ya.com/

地場産業×福祉

愛媛県
愛南町

おさかなのふる里
愛南漁業協同組合 青年漁業者連絡協議会

就労継続支援A型事業所
エコテリアなんぐん市場

出荷作業（トラックへの積み込み）

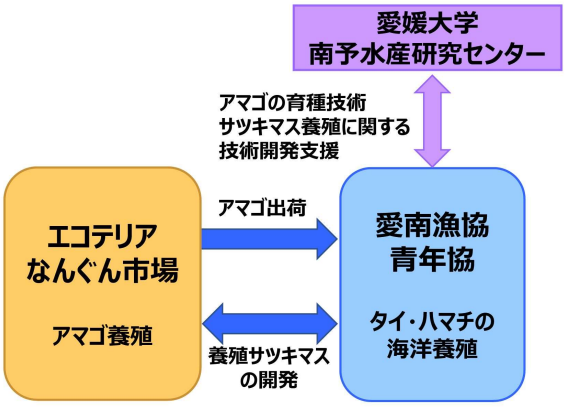
事業所入口

アマゴの養殖場

連携の概要

「地場産業である養殖業者と障害者福祉施設による新たな地域特産品”サツキマス”開発」

エコテリアなんぐん市場（以下、なんぐん市場）では、平成26年後継者問題を抱えていた事業者から事業承継しアマゴの養殖事業を開始した。一方、愛南漁業協同組合青年漁業者連絡協議会（以下、青年協）では、タイやハマチの養殖の閑散期を利用した新たな魚種としてサツキマスの生産に取り組みを始めていた。アマゴもサツキマスも同じ魚だが、河川で生まれて一生を河川で過ごす個体はアマゴ、海へくだった降海型の個体はサツキマスと呼ばれており、サツキマスの生産には、海での養殖技術が必要になる。双方にとって初めての取組となるため、愛媛大学・南予水産研究センターの指導を仰ぎ、試行錯誤を繰り返しながら、目標とする大きさ（1.5~2.0kg）のサツキマスの開発を行っている。現在、0.8~1.0kgまでには到達しているが、目標達成までにはさらに研究が必要であり、新たな地域特産品としてのサツキマスの完成を目指している。



【連携のきっかけ】

連携のきっかけは、青年協で養殖生簀が空く期間（1~5月）に、養殖できる新たな魚種の開発を始めたことにある。サクラマス及びサツキマス等、事例としては少ないが、他の地域で川魚を海で養殖する事業が参考になり、たまたま同地域でサツキマスの稚魚となるアマゴの養殖を営む当事業所があり、連携してサツキマスの養殖を目指すこととなった。なんぐん市場では養殖事業そのものが初めてであり、青年協も川魚の育種から取り組むのは初めての経験であり、双方が同じ目線になったことも共同開発を進めるきっかけとなった。

【連携の特徴】

- 双方がそれぞれ異なる設備及びノウハウを有しており、特産品としてのサツキマスを開発するためには、双方の協力が必要不可欠である。
- サツキマス養殖事業が成立すれば、アマゴの養殖出荷、地域の特産品としてのサツキマスの養殖販売と、双方に新たな付加価値が創出される。
- なんぐん市場では、飲食事業も行っており、サツキマスの加工品、新メニューの開発への事業の広がりを期待できる。

【連携の成果】

- 南予水産研究センターからの技術指導と、双方の協力により、海へ移しても生育できるアマゴの安定生産が可能となった。
- アマゴの育種技術も進み、当初150g程であったアマゴを最大200g程度の大きさにまで育種ができるようになった。最終目標は350gである。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
アマゴの養殖、エサやり	定期的にエサを与える	集中力が続く人 体力のある人
水源の手入れ	湧き水からの水槽までの流路の点検	水量等の変化に気づける人、 違和感があった時スタッフに報告できる人
水槽の清掃	水槽にはいる落ち葉等のゴミ、アマゴの死骸等の撤去	体力のある人 集中力の続く人

【ここが違う！エコテリアなんぐん市場の取組み】

地域の事業と知恵を繋ぎ、新たな地域産業の創出へ

① 山間地でアマゴ養殖を行っていた事業者が、後継者問題を抱えており担い手としてなんぐん市場に事業承継を行った。
② アマゴ養殖事業を進める中で漁協や南予水産研究センターとの輪ができた。
③ 養殖サツキマス開発事業には生簀が空いている期間に1.5～2kgにまで養殖育成することが必要であり、その為にはアマゴを現在の1.5倍ほどに育てることが最大の課題となっている。このような連携がこうした課題を乗り越える原動力となっている。
④ なんぐん市場を運営するNPO法人には山出（やまいだし）温泉事業及びレストラン事業(魚介料理）があり、養殖サツキマスの開発が実現すれば素材を活用したレストランメニュー及び加工品の開発も可能となる。
⑤ 黒潮が流れ込む太平洋に面している愛南町は、カキ・ブリ・タイなど養殖に最適な漁場である。地場産業である養殖業の設備やノウハウを活かした新たな魚種での養殖の挑戦は、次につながる事業として期待されている。

養殖中のアマゴ

出荷作業（水揚げ）

これから取り組む事業所に WIN－WINのポイント

愛南漁業協同組合
青年漁業者連絡協議会
中田知公氏（ヤマニ中田水産　代表）

地域の地場産業である養殖事業における課題を解決し、新たな地域特産品の開発を目指す

愛南町は、日本有数の養殖によるタイ・ハマチの産地です。しかしながら、地場産業である養殖事業における担い手不足は顕著です。そのような中、生簀の空いた期間（1～5月）を活用したサツキマス養殖事業の開発は、地域の産業を魅力のある事業として育てられる可能性があります。

特定非営利活動法人
ハートinハートなんぐん市場
エコテリアなんぐん市場
田上純一氏

サツキマスの養殖事業を契機に、アマゴの育種技術が向上

当事業所はA型事業として、地域の担い手が不足する農業を中心に事業展開を行っていました。そのような中、担い手のいなくなった、アマゴの養殖事業を引継ぐことになり、右も左も分からない状態から、養殖事業が始まりましたが、青年協からの問い合わせで、サツキマスの養殖事業に挑戦する機会を得て、また同時に、南予水産研究センター等からの支援も仰ぐことができ、アマゴの養殖事業も軌道にのせ運営できるようになりました。

法人名 事業所名	特定非営利活動法人ハートinハートなんぐん市場 エコテリアなんぐん市場
住所	愛媛県南宇和郡愛南町城辺甲２９３４
ＴＥＬ	0895-70-4031

地場産業×福祉

滋賀県
大津市

明治44年創業の酒蔵、
日本酒の魅力を伝える酒販店も営む
田中酒造株式会社

就労継続支援Ａ型事業所
がんばカンパニー

がんばカンパニー店舗

さけかすまかろん

甲賀流白玉爆弾ポルポローネ

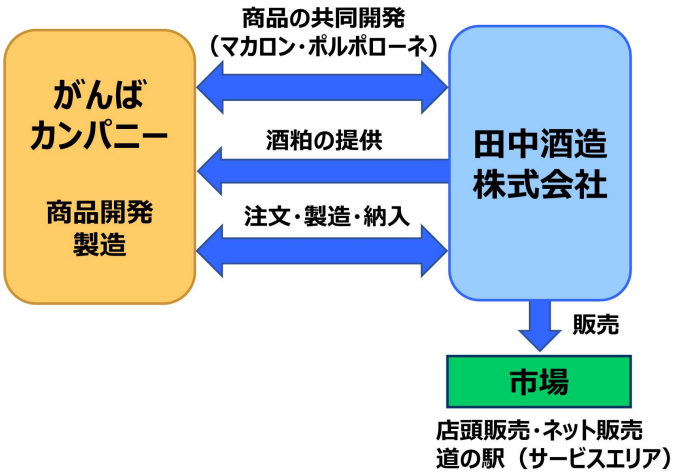
酒粕の菓子

製造の様子

連携の概要

「酒粕を使った菓子を共同開発。甲賀忍者のコンセプトで地域性豊かな商品へ成長」

滋賀県甲賀市の酒蔵「田中酒造株式会社」（以下、田中酒造）と滋賀県大津市の事業所「がんばカンパニー」との連携事業。田中酒造の酒粕の菓子「さけかすまかろん」と「甲賀流白玉爆弾ポルポローネ」の共同開発と製造をがんばカンパニーが行っている。地域の老舗酒蔵である同企業が百周年記念に酒粕を原材料とした菓子を発案し、菓子製造で知名度の高い同事業所に依頼した。同企業の所在地である甲賀市をイメージする忍者をコンセプトにした特徴ある菓子が完成し、同企業の店頭と自社サイト、高速道路のサービスエリア等で売上を伸ばしている。



【連携のきっかけ】

2011年に田中酒造が創業百周年を迎え、酒粕を使ったお菓子をつくりたいと発案。当初、地元の菓子屋に製造を依頼していたが、販売数が増えたので製造力のある企業を探していたところ、甲賀町の商工会からがんばカンパニーを紹介された。大手の菓子メーカーではロット数が合わない、生産ラインに材料が合わないなどの理由で断わられたが、同事業所は「地元のものでおもしろい」と引き受けた。開発当初はなかなか売れず、受発注の機会も少なかったが、現在は継続的に製造販売する商品に育っている。

【連携の特徴】

- 地域性を表す甲賀忍者を商品コンセプトに据え、商品の形態やパッケージ、ネーミングのイメージを統一している。企業と事業所が力を合わせて開発に取り組んだ。
- がんばカンパニーは滋賀県ではクッキー製造者として知名度が高い。OEMや企業のPB商品の開発製造を主軸にしており、企業側からのオファーが多い。
- 原材料に使用する酒粕は田中酒造が廃棄処分する予定のものを無償で提供している。原材料の有効活用になっており、リサイクルでエコな取り組みの側面も併せ持つ。

【連携の成果】

- 地域の企業と事業所が地域性を出した商品開発に取り組み、全国ネットで取り上げられるなど地場産業のＰＲの一端を担っている。
- 酒粕という原材料を使った菓子開発と製造の経験が、がんばカンパニーの製品ラインナップを広げるきっかけのひとつとなった。
- この取り組みの話が地域に広がり、田中酒造には酒粕を練り込んだパンをつくりたい等の他所からの引き合いが入っている。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
ミキシング	お菓子の材料を配合にミスがないように、しっかり分量を調整する	重い物を運ぶ体力がある人 計量器の数字がわかる人
成形・洗浄	手作業や専用の機械でオーブンに入れるまでのお菓子の形を作る。使用した器材や容器等を洗う	同じ作業を継続できる人 手先の器用な人 注意力のある人
オーブン・乾燥	湿度、温度管理を徹底し、お菓子を焼き上げる。その後、乾燥室で冷やす	機械操作を正確に行える人
包装・検査	成形されたお菓子の包装をひとつひとつ手作業で行う。金属探知機などで不純物を調べたり、校正されたはかりを使用してグラムチェックを行う	手先の器用な人 計量器の数字がわかる人
出荷	包装された商品を箱詰めし発送する	正確に数を数えられる人

【ここが違う！がんばカンパニーの取組み】
積極的な受注、大型機械の導入、商品開発力が強み

① がんばカンパニーは長く菓子製造を行い、地元でもよく知られている。また、OEMや企業のPB商品の開発製造の実績も多く、企業側からのオファーが入りやすい。特に大手メーカーが避けがちな小ロットの製造を引き受ける点が他社との差別化の要因になっている。「利用者の人的作業を補うため」と「売上を上げるため」に積極的に設備投資をして、製造に必要な大型機械を導入している。
② 今回の連携で開発した「さけかすまかろん」では、酒粕を活かせる菓子としてマカロンを選択。酒粕をクリームに練り込んだ。甲賀忍者を商品コンセプトに据え、竹炭を使って黒いマカロンにするアイデアを出した。また、もうひとつの商品「甲賀流白玉爆弾ポルポローネ」でも甲賀忍者のイメージを取り入れている。
③ 商品コンセプトについては両事業者が知恵を出し合い、打ち合わせ、制作、試食、意見の擦り合わせを繰り返し、着手から完成までに約3ヶ月を要した。販路のひとつに高速道路のサービスエリアがあることから、アルコールの含有量などにも気を配っている。

成形の様子

ミキシングの様子

これから取り組む事業所に WIN−WINのポイント

田中酒造株式会社
代表取締役 田中重哉氏

安定したクオリティを期限内に納めてくれる安心感があります

開発当初は販売量が少なく発注できない時期もありましたが、小ロットの発注を快く請け負って期限内に納めてくださいます。なによりも安定した商品を提供してくれるのがありがたいですね。うちは酒蔵で菓子は初めての商品なので、開発時はがんばカンパニーさんのノウハウを全面的に信頼しました。

社会福祉法人共生シンフォニー
がんばカンパニー
所長 水野武氏

熱意と柔軟な対応、商品完成後の販売努力が大きいです

連携先の田中酒造さんの熱意が強かったです。こちらの提案も柔軟に聞いてくださったことがスムーズな開発を後押ししました。また、パッケージの開発は田中酒造さんがされましたが、そのデザインのよさも商品の完成度を上げています。商品の完成後も継続して売れていることが連携の成功につながっていると思います。

作業の様子を写した動画を公開中！
利用者が実際に作業している様子をご覧いただけます。

法人名 事業所名	社会福祉法人共生シンフォニー がんばカンパニー
住所	滋賀県大津市大将軍2-31-5
ＴＥＬ	077-543-2766
ＵＲＬ	https://gamba.shop/

六次化商品×福祉

岩手県
雫石町

産直やお土産・地産地消のお食事・温泉・キャンプ場など観光拠点となる道の駅を運営
株式会社しずくいし

就労継続支援Ｂ型事業所
雫石町福祉作業所かし和の郷

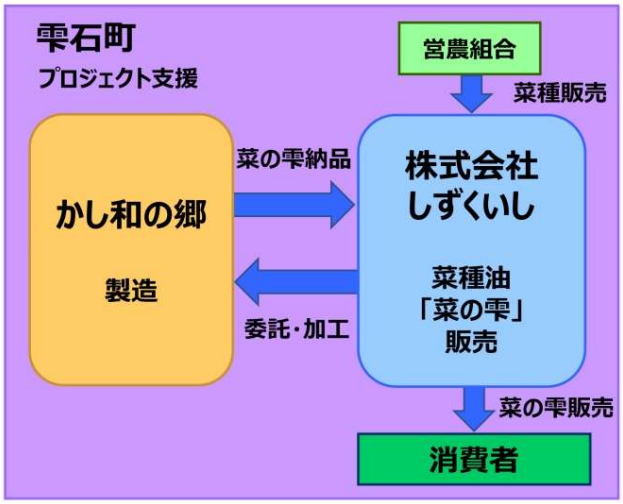
看板製品「菜の雫」

菜種の選別作業「一粒一粒丁寧な作業を心がけて」

連携の概要

「雫石町産の菜の花を六次化商品として製品化。官民福が連携し地域循環型モデルを形成」

雫石町は農業が盛んな地域であるが減反政策により稲作に変わる新たな農作物が必要になっていた。そこで、雫石町役場では「雫石町菜のテク・プロジェクト菜種搾油による“菜種油”の製品化」に取組むことになった。プロジェクトの仕組みは「営農組合」が菜の花の作付けを行い、そこから収穫された菜種をまずは第３セクターで道の駅などを運営する「株式会社しずくいし」が買い取る。そして作業所「かし和の郷」ではその菜種を預かり、搾油から瓶詰めを行い、出来上がった菜種油は「菜の雫」として道の駅「雫石あねっこ」やインターネット販売、ふるさと納税の返礼品として幅広く販売している。また、消費された後の廃油を事業所で回収のうえバイオディーゼル燃料として精製し農耕機械等へ活用するなど循環型モデルを形成している。



【連携のきっかけ】

当事業所の開所10周年の祝賀会の際に出席者からがんばっている利用者の工賃を上げる取り組みをしたらよいのではないかとの声が上がり、雫石町、営農組合、株式会社しずくいしを巻き込んだプロジェクトチームを発足。各地への視察や検討を重ね、平成１９年度より『しずくいし菜のテクノロジープロジェクト』の取り組みが開始。翌年度には菜種搾油施設等新築工事と搾油機械設備等が整備され当事業所で搾油、製品化に取り組み、平成２１年度には連携会社である株式会社しずくいしより、なたね油「菜の雫」の販売が開始され現在に至っている。

【連携の特徴】

- 原材料の菜の花は全て地元の営農組合が栽培・収穫した農作物を使用
- 株式会社しずくいしが菜種を購入し、かし和の郷で製品化された商品を販売までバックアップ
- プロジェクトは行政（雫石町役場）が全面的に支援

【連携の成果】

- 地域内の農作物（菜種）が「菜の雫」という付加価値性の高い菜種油として６次産業化に成功し地域経済に貢献
- 製品化の成功により利用者の意欲が引き出され工賃向上や社会参加が具現化
- 転作田の作物振興や景観形成、安心安全な食用油の提供と回収といった地域資源循環モデルの形成に成功

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
菜種の搬入	倉庫から菜種を搬入	力がある人
菜種の選別	混入物と菜種を一粒一粒ピンセットで選別	根気がある、細かいことが得意な人
焙煎・搾油・静置・油カス収集	焙煎行う。搾油機に焙煎された菜種を投入し油とカスに分かれ油カスも収集（肥料となる）	よく気がつく人 状況を教えてくれる人
瓶詰・ラベル貼り・出荷	精油となった菜種油を所定の瓶に詰め、瓶の所定の位置にラベルを貼る	正確に作業ができる人 丁寧に作業ができる人

【ここが違う！雫石町福祉作業所かし和の郷の取組み】

雫石町「菜のテク・プロジェクト」の担い手として地域社会に貢献

① 「菜の雫」の完成までには、選別作業、焙煎時間設定、瓶詰、ラベル貼りなど高い集中力とコツコツと作業を正確に進める根気とが求められ、そうした場面で利用者の特性がマッチ。
② 搾油工程を経て精油を取り出しているが、同時に発生する油カスは肥料として販売している。
③ 上澄みをすくいあげた後の精油は地域で回収した天ぷら油と共にバイオディーゼル燃料として農耕機の運転に利用し、循環型環境モデルを形成している。
④ 町をあげての取り組みに参画することで利用者は高いモチベーションを得て日々の作業に取り組んでいる。
⑤ 丹精込めて製造した「菜の雫」は自治体が推進する地域の逸品部門賞の「ふるさと名品オブ・ザ・サプライヤー2015」において優良賞を受賞するなど高い評価を受けている。

作業では高い集中力が必要

利用者・スタッフの皆さん

これから取り組む事業所に WIN－WINのポイント

株式会社しずくいし 道の駅雫石あねっこ 駅長　佐々木大氏

クリアゴールドの菜種油「菜の雫」は唯一無二の商品

かし和の郷の皆様の細かい手作業はひとつの才能です。搾油、瓶詰め、ラベル貼りまで１本１本丁寧に作られており、福祉作業所の作業が菜のテクプロジェクトとマッチングし上手く機能していると感じております。この作業のおかげで美しいクリアゴールドの菜種油を抽出できています。また地域内でも学校給食や温泉旅館等で安心安全な食用油として地産地消にも一役買っています。

特定非営利活動法人かし和の雫 雫石町福祉作業所かし和の郷 所長　佐々木百合子氏

プロジェクトに係わる地域の皆様に感謝の気持ちで一杯です

菜の雫の製造を通じて利用者は世の中の役に立っていることに喜びを感じ、仕事に誇りを持って取り組んでいます。私はそのことがすごくうれしいです。このプロジェクトは連携企業様をはじめ地域の皆様に支えられて成り立っており日頃から大変感謝しております。今後はこの商品の良さをもっとアピールし、多くの方に使用していただけるようにがんばります。

菜種採油事業についての情報はこちらを！
作業について詳しくご覧いただけます。

https://kashiwanoshizuku.jp/business/rapeseed/

事業所名	特定非営利活動法人 かし和の雫 雫石町福祉作業所 かし和の郷
住所	岩手県岩手郡雫石町千刈田７６-３
ＴＥＬ	019-691-1230
ＵＲＬ	https://kashiwanoshizuku.jp/kashiwanosato/

六次化商品×福祉

大分県
大分市

高菜、甘藷、大根、カブ、米などの
生産及び高菜の漬物の一次加工
株式会社ふるさと館

多機能型事業所
ひまわり畑

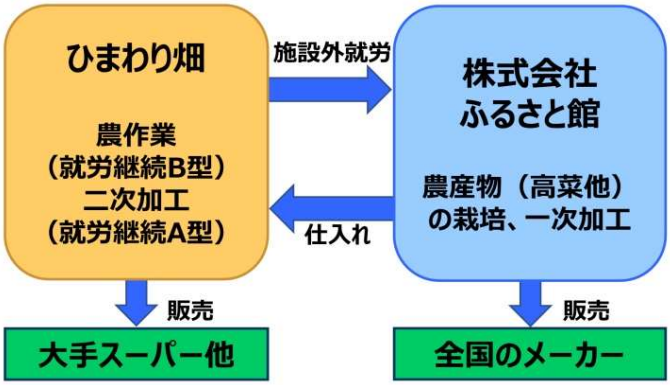
企業が一次、事業所が二次、連携により生まれた六次化商品の漬物

ひまわり畑事業所

連携の概要

「施設外就労として地元の農業法人と連携、商品を自主製品として販売」

ひまわり畑の利用者（B型事業所）が施設外就労として株式会社ふるさと館（以下、ふるさと館）に出向き業務委託費を得ている。ふるさと館は大阪市の漬物メーカーと連携して10ヘクタールの畑で作った高菜をメインに、大根、カブなど漬物の材料を大規模生産しており、当施設の主な就労内容は、機械化されにくい農作業、高菜の漬け込みなどの一次加工と出荷作業に必要な労力の提供を行なっている。同時に当施設にはHACCP対応型の空調設備を持つ工場があり、ふるさと館から一次加工された高菜を買取り、洗浄、塩抜き、カット、水分抜き、圧縮、味付け、油炒め、袋詰めなどの二次加工も行いひまわり畑の利用者（A型事業所）が商品化作業を担当。県内のスーパーや百貨店を中心に、イオングループのマックスバリューなど独自の販路で販売。



【連携のきっかけ】

ふるさと館は社会福祉法人新友会の、ひまわり保護者会で作った農業法人。約40年前にひまわり保護者会で何に取り組むかを考えていた際、自然と触れ合える農業が良いという話がキッカケとなり法人設立に至る。当初、ふるさと館は細々と運営していたが、大分県の後押しもあり経営規模の拡大に成功。ひまわり畑の保護者会で作った農業法人であることから、ふるさと館とは同じ志を持つメンバーが仕事の内容を専門特化することで、お互いの効果・効率を上げた取り組みを行っている。

【連携の特徴】

- ふるさと館は生産部門（農業）、ひまわり畑は加工部門というそれぞれ専門的な立場で農地、経営の拡大を行っている。
- 身近なメンバーだが馴れ合いの関係ではなく、業務委託契約のもと独立した別組織としての棲み分けを明確にしたうえで連携。
- HACCP対応型の工場であり、加工品の品質も高く障害者が作った商品という偏見を払拭し、一般企業並みの信頼を得ている。

【連携の成果】

- ふるさと館が農業法人として独立したことで、各方面からの情報や施策を受けることができ、結果として経営の規模拡大が可能となり、ひまわり畑（B型事業所）の施設外就労機会の増加につながった。
- HACCP対応型の工場を持つひまわり畑（A型事業所）が同時に販路開拓し販売数が増加することでふるさと館の生産量にも貢献。生産と販売の双方で相乗効果が生まれている。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
高菜の栽培	高菜の栽培・収穫、甘藷苗の植え付け【施設外就労】	地道にコツコツ作業を継続できる人 決まった作業を正確にできる人 農作業できる体力のある人
一次加工	高菜漬物の一次加工、出荷など。	地道にコツコツ作業を継続できる人 決まった作業を正確にできる人
二次加工	洗浄、塩抜き、カット、水分抜き、圧縮、味付け、油炒め、袋詰め	集中して作業を継続できる人 決まった作業を正確にできる人

【ここが違う！ひまわり畑の取組み】
連携による事業規模拡大への課題解決

① 農業法人の収益改善には事業規模拡大が一つの条件であったが、その中で人手不足が大きな課題であった。
② 体力があり、愚直に仕事をこなしてくれる利用者の特性が農業法人の要件にピッタリ。
③ ひまわり畑はHACCP対応型工場と独自販路を持ち、品質に関する信頼も高いことから、販売数を伸ばすことで、ふるさと館の生産数量の増加にも貢献。
④ ふるさと館はひまわり畑の保護者会が作った組織であり、近しい関係ではあるため利害も一致しているが、業務委託契約を結ぶことでけじめのある関係を維持。
⑤ 結果、ふるさと館、ひまわり畑双方にとって相乗効果が働くモデルを構築。

高菜の栽培

一次加工作業

これから取り組む事業所に WIN−WINのポイント

株式会社ふるさと館
取締役　小塩桂史氏

専門特化することで効果効率をあげた相乗効果の高い関係を構築することができました

農業法人として栽培品種の増加、面積の拡大をつうじて収益性の改善を考えていますが、一方で若者の農業離れにより常に人手不足の問題を抱えています。ひまわり畑の皆さんは作業を淡々とこなし仕事も実直、体力もあることからこれほど我々のニーズにマッチした人材は他にいません。不足する農業の担い手として障がい者の方の活躍に大きな可能性を感じており、農業は障がい者の新たな活躍の分野として期待しています。

社会福祉法人新友会
ひまわり畑
施設長 羽矢一弘氏

HACCP対応型工場で障害者が作った偏見を払拭、高い品質レベルで販路拡大

ふるさと館が農業法人として生産に専門特化、当施設のB型では農作業のお手伝いを、A型では、ふるさと館で生産した高菜を二次加工し高菜漬として製造販売を行なうなど、お互いが得意分野に特化した分業体制を構築することで、生産から販売まで同じ考えで取引ができています。近しい関係だからこそ業務委託契約を結ぶことでけじめのある関係を維持し、品質や生産キャパの高い要求が双方の成長と事業の相乗効果につながっています。

事業所ホームページへのご案内です。
事業所の活動を俯瞰的にご覧いただけます。

法人名 事業所名	社会福祉法人新友会 障害者就労支援センターひまわり畑
住所	大分県大分市大字辻1381-1
ＴＥＬ	097-595-1711
ＵＲＬ	https://3-flower.jp/pages/7/

リサイクル素材×福祉

山形県
山形市

新車販売から使用済み自動車の適正処理まで
株式会社山形県自動車販売店リサイクルセンター

就労継続支援B型事業所
みちのく屋台こんにゃく道場

レジャーチェア 「タフボーヤ」（みちのく屋台こんにゃく道場ホームページより）

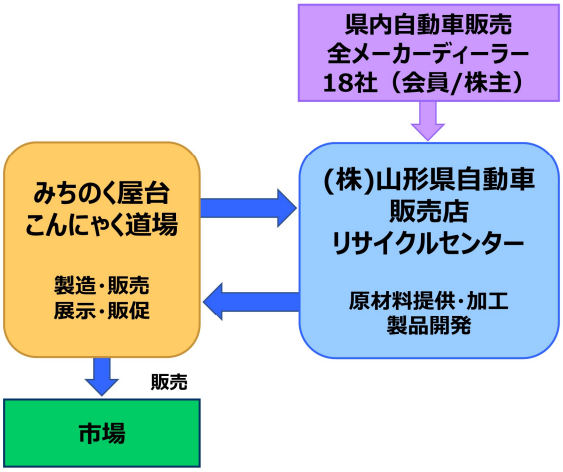
洗浄・乾燥作業

組立作業

連携の概要

「シートベルトの再利用製品『タフボーヤ』を開発。ディーラーで販売し、業界のSDGsに貢献」

廃棄される車両のシートベルトを、車両専門のリサイクル事業を手がける企業からもらい受け、レジャーチェア「タフボーヤ」を開発・販売している。県内の自動車販売店等で展示・販売されており、ユーザーからの評判も上々である。製品の安全性については、山形県工業試験センターの協力を得て耐荷重テスト等を行い、お墨付きを得ており、今後の販売拡大に期待が寄せられている。連携先企業は、エアバッグ等のリメイクにも取り組んでおり、連携による自動車部品の再利用製品の開発は、環境問題の解決に寄与する取り組みとして業界のSDGsに貢献するものである。



【連携のきっかけ】

施設外就労先として関係のあった山形県自動車販売店リサイクルセンターには、リサイクルされず廃棄されていたシートベルトがあることを知り利用者全員で活用法を話し合い、企業に提案を行い、再生シートベルトによるオリジナルデザインのレジャーチェアを完成させた。この製品は、着座部分と背もたれ部分に頑丈なシートベルトを使用していることから、レジャー・釣り・キャンプ・スポーツ等々のあらゆるシーンでの利用が可能である。長時間の利用にも疲れにくく身体を包み込む様な優れた構造が評価され、連携につながった。

【連携の特徴】

- 自動車の「廃エアバッグ」の糸抜き作業の受託を行っていたことがきっかけとなった。
- 受託の過程で、自動車廃シートベルトの活用について相談を受けたことからレジャーチェア「タフボーヤ」の開発が可能となった。
- レジャーチェア「タフボーヤ」は頑丈で、撥水・摩擦等に優れている特性があり、みちのく屋台こんにゃく道場オリジナルの「折りたたみ」コンパクトレジャーチェアの開発に至った。

【連携の成果】

- リサイクルセンターから廃棄される車両シートベルトを活用した「タフボーヤ」の開発は、地域企業との連携や一般ユーザーへの販売を通じて環境問題の啓発・解決に寄与している。
- 頑丈で優れたデザインにより、アウトドア等に最適な製品となった。
- 利用者が開発に携わり、仕事を拡充することができた。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
エアバッグ分解	エアバッグの縫製に使っている糸取り	細かい作業を継続的に実行出来る人
シートベルト洗浄	洗浄機等による汚れの洗浄作業	段取りが上手で判断力がある人
加工・組立	加工・組み立て作業	手先が器用で正確に作業が出来る人
梱包	製品の包装・梱包とパンフレットの入れ込み作業	集中力があり丁寧に作業が出来る人

【ここが違う！みちのく屋台こんにゃく道場の取り組み】
受注作業をきっかけに製品開発のパートナーに

① みちのく屋台こんにゃく道場は「地域に出向き、人と出会い、営みを得ることで社会と共に成長していける環境づくりを担う社会参加型就労支援」を展開。
② SDGsの取り組みを、利用者自らが関わりながら社会参加と社会共生を目指しており、リサイクルセンターから受けた相談を全員参加で議論の上、レジャーチェアとして製品化に成功。
③ 「タフボーヤ」は、山形県工業試験センターの協力を得て品質が担保されている。
④ 「タフボーヤ」は染色等で様々な模様等の加工が可能であり、バリエーション展開が可能でノベルティ等としても広範な顧客開拓が見込める。
⑤ 「タフボーヤ」は山形県リサイクル製品認定(2021.10)他多数を受けている。

切断作業

袋詰め作業

これから取り組む事業所に
WIN−WINのポイント

株式会社山形県自動車販売店リサイクルセンター
専務取締役　菅原弘紀氏

山形から世界に広げるエコの輪、リサイクルの心

私どもは、「自動車販売から使用済み自動車の適正処理まで業界で責任を持つ」というコンセプトに基づき、自販連山形県支部に加盟する県内メーカーディーラー18社が出資し、同時に会員代表者全員が役員に就任することで、環境や資源等の社会的な課題に積極的に取り組むことを目的としてリサイクル事業をおこなってます。本来捨ててしまう廃材からの製品化を目指しており、その一例であるエアバッグやシートベルトはパラシュートの材料に匹敵する強度があることから、「手提げバッグ」や「帽子」等々に生まれ変わってます。
みちのく屋台こんにゃく道場とは、リサイクル事業への取り組みが相互のWin-Winの関係へと結びついたものです。

特定非営利活動法人
山形自立支援創造事業舎
みちのく屋台こんにゃく道場
代表 齋藤 淳氏

地域に出向き、人と出会い、社会と共に成長する環境づ くり

我々は、就労支援と業務受託しているリサイクルセンターから廃棄される自動車シートベルト等の再利用の打診があり、利用者全員を巻き込んだ話し合いの結果として「タフボーヤ」の製品化に繋がりました。品質面では山形県工業試験センターからのご協力をいただいて、しっかりとした製品に仕上がってます。

事業所ホームページへのご案内です。
事業所の活動を俯瞰的にご覧いただけます。

法人名 事業所名	特定非営利活動法人山形自立支援創造事業舎 みちのく屋台こんにゃく道場
住所	山形県山形市末広町2-6
ＴＥＬ	023-673-9494
ＵＲＬ	http://michinoku-yatai.jp/

リサイクル素材×福祉

新潟県
阿賀野市

ペレットストーブで国内トップシェアを誇る

株式会社新越ワークス

就労継続支援Ｂ型事業所

あおぞらソラシード

あおぞらソラシードの製品「あおぞら着火材」

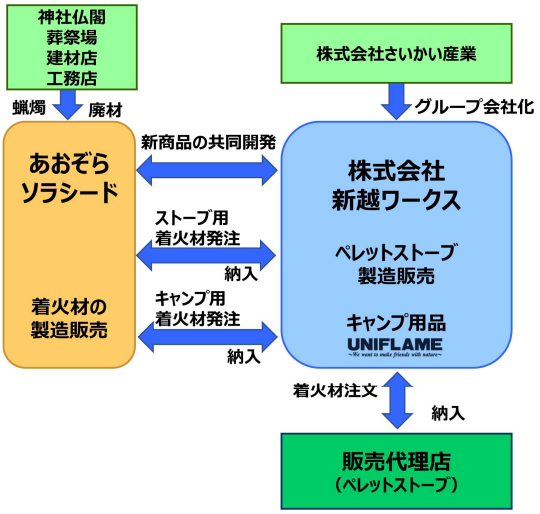
着火材の製造過程

手作業で行われる製品づくり

連携の概要

「環境負荷の少ないリサイクル素材でペレットストーブの着火材を製造」

主にアウトドア用品を製造販売する「株式会社新越ワークス」とＢ型事業所「あおぞらソラシード」との連携事業。新越ワークスが製造販売する木質ペレットストーブで使用する着火材をあおぞらソラシードがつくっている。着火材の原材料には間伐材などの木材粉砕くずと使用済みのローソクが使われており、リサイクル素材を活用した、環境に負荷のかからない点が特徴。安定した品質が消費者にも評価され、ペレットストーブの普及とともに売上を伸ばしている。新越ワークスは国内のペレットストーブの販売量の約3分の1を占めるトップシェア企業である。



【連携のきっかけ】

ペレットストーブの販売事業を営んでいた「株式会社さいかい産業」があおぞらソラシードの経営母体であるＮＰＯ法人あおぞらに着火材の商品開発と製造を依頼したのが連携事業の始まり。当時、新越ワークス（旧社名：新越金網株式会社）はペレットストーブの製造を担っていた。あおぞらソラシードはさいかい産業から製造委託を受けて着火材を製造していたが、2021年のさいかい産業と新越ワークスの経営統合を機に、『あおぞら着火材』として同事業所オリジナル製品として製造販売するようになった。

【連携の特徴】

- 着火材の原材料には木材の端材を地元の建材店や工務店から、ろう（廃棄処分のろうそく）を神社やセレモニーホールから無料で調達している。リサイクル素材を活用した製品である。
- 製造工程を細分化して、障害の程度が最重度の人でも作業に関われる工程をつくっている。
- これまで同事業所が同企業からの委託作業として製造していたが、現在は事業所のオリジナル製品として独自の販路を開拓している。

【連携の成果】

- 市場に数ある着火材の中でも性能が良く火持ちもすると消費者に好評で、購入リピーターが多い製品に育っている。
- 環境負荷の少ない製品であること、工程が手作業で福祉事業所の作業に導入しやすい点から、県外の福祉事業所にも同事業が広がっている。
- ペレットストーブの着火材だけでなく、キャンプやバーベキューの火おこしなどアウトドアシーンでも使われ始めており、販路拡大の可能性がある。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
製造準備	ろうそく叩き、ろうそく計量、木くず計量、薪作り	正確に作業ができる人 注意力、集中力がある人
製造作業	計量、均し、叩き、冷やす	丁寧に作業できる人 立ち仕事ができる体力のある人
発送関連	検品、袋詰め、箱作り、箱詰め	手先の器用な人 正確に作業ができる人
後片付け	トレーの掃除、テーブル掃除、床掃除	単純作業を飽きずにできる人

【ここが違う！あおぞらソラシードの取組み】
製造工程を公開して、他事業所にもノウハウを公開

① ペレットストーブの着火材は約20年前に商品開発から関わり、長く製造を行なっている。事業所の生産活動に占める売上の割合は少ないものの、ペレットストーブの安定的な普及に伴い通年作業として継続している。
② できるだけ多くの利用者が作業に関われるように製造工程を分解しており、“型枠にはめたものを叩く”工程は重度の自閉症の人が担当している。時期によって差はあるが、一日の製造個数は平均すると400～500枚（箱数で40～50箱）。
③ 原材料に本来廃棄される予定の木材の端材や余ったろうそくを有効活用している点が評価され、全国から見学に訪れる人が多い。製造工程のノウハウを公開して提供しているため、同じ事業に取り組む福祉事業所が県外に約10か所広がった。その際の販路は新越ワークスの販売代理店が担っている。
④ これまで新越ワークスからの委託作業として製造を請け負っていたが、このほど自社製品『あおぞら着火材』として売り出すことになった。ペレットストーブにとどまらない販路を開拓中である。

原材料を型枠にはめる

成形した着火材を冷やす

これから取り組む事業所に
WIN－WINのポイント

株式会社新越ワークス
エネルギー事業部
取締役　事業部長　山後佑馬氏

木質燃料の普及にさらに力をいれていきたいです

当社がある新潟県燕市は金属加工で有名な地域ですが、あおぞらソラシードさんのように手づくりで作業を行う業者さんは少ないです。そんな中、継続的に製造を引き受けてくださるのでありがたいです。決められた作業を正確に丁寧にこなされるので品質は信頼しています。連携を発展させるためにも、ペレットストーブの魅力をもっと発信していきたいですね。

特定非営利活動法人あおぞら
あおぞらソラシード
理事長　本多佳美氏

ビジネスパートナーとしてやりがいがある事業です

連携先の新越ワークスさんとその先にいる消費者が本当に必要としている商品をつくっているのだと実感できる事業です。ビジネスパートナーとしての存在意義を感じますね。事業所にとって着火材の売上はまだ少ないですが、自社製品として販路を拡大するために、他のアウトドアメーカーにも商品案内をしています。今後は営業に力を入れていきたいです。

作業の様子を写した動画を公開中！
利用者が実際に作業している様子をご覧いただけます。

法人名 事業所名	特定非営利活動法人あおぞら あおぞらソラシード
住所	新潟県阿賀野市畑江75
ＴＥＬ	0250-47-7152
ＵＲＬ	https://aopoco.com/sorashi-do.html

リサイクル素材×福祉（産学福）

広島県
広島市

社会課題を解決するカリキュラムから発案
広島県公立大学法人叡啓大学
残布を無償提供する学生服の販売店
株式会社いとや

就労継続支援Ｂ型事業所

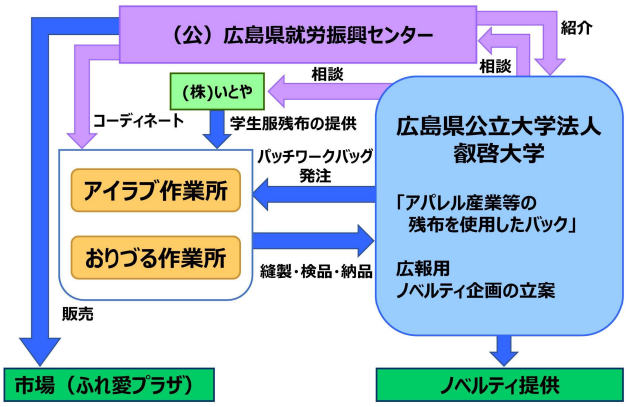
アイラブ作業所

学生服の残布を使ったパッチワークバッグ「Uni HodgePodge（ユニ ほっじぽっぢ）」。ひとつひとつデザインが異なっている

連携の概要

「産学福の三者連携で生まれた、リサイクル素材のパッチワークバッグを製造」

「広島県公立大学法人叡啓大学」、「株式会社いとや」、「アイラブ作業所」の連携。人と社会を前向きに変える人財（チェンジ・メーカー）を育てる叡啓大学がノベルティグッズのパッチワークバッグを発案。その縫製作業をアイラブ作業所が担っている。社会課題の解決という点では、布地に学生服の残布というリサイクル素材を使っており、残布を無償提供しているのが株式会社いとやである。地域の大学と企業、事業所の産学福の三者連携として注目を集めている。製品のパッチワークバッグは縦36cm、横30cmでＡ4のクリアファイルが入る大きさ。ひとつひとつが手づくりで、さまざまな学生服の端切れをつなぎ合せることから、同じデザインのものがふたつとないのが特徴である。



【連携のきっかけ】

2021年4月に広島市内に開学した「叡啓大学」の開学前の発案から始まる。同大学が実社会のリアルな課題に取り組む課題解決演習を教職員が体現するため『ひろしま ほっぢぽっぢプロジェクト』を立ち上げた。同大学の広報活動で使用するバッグをアパレル産業の残布を使ってつくろうと県内企業に協力を求めたところ、学生服を販売する「株式会社いとや」が裾上げ作業で廃棄される学生服の残布を提供。縫製作業は「広島県就労振興センター」のコーディネートのもと、「アイラブ作業所」と「おりづる作業所（生活介護施設）」 が請け負うことになった。

【連携の特徴】

- 地域の大学、企業、事業所の「産学福」の三者が連携している。
- 廃棄処分される学生服の残布をリサイクルしたエコな取り組みの製品である。
- 生地の強さ、事業所の縫製作業のクオリティ、工業用ミシンなどの設備環境など品質の良さにつながる要因が揃っている。

【連携の成果】

- SDGsや社会課題を解決するストーリー性が地域の注目を集め、製品に付加価値をつけた。
- 自主製品の制作が主体だったアイラブ作業所の活動に今回の縫製事業が加わり、利用者の工賃アップへの足掛かりとなった。
- 地域の「産学福」の連携を実現する一事例となった。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
切って開く・アイロンがけ	ズボンの裾のはぎれの縫い目をほどき、1枚布にする。開いた布にアイロンをかける	糸の縫い目が見える人 ハサミが使える人 安全にアイロンを使用できる人
並べて縫う	布を並べてパッチワークのデザインを決め、布の重なりを縫う	色合わせ柄合わせが得意な人 ミシンを使いこなせる人
ロゴをつける	叡啓大学、いとや、アイラブ作業所のロゴマークを縫い付ける	集中力・注意力がともにある人
ポケットをつける	ポケットを裏地に縫い付ける	ミシンで丁寧に縫える人
裏生地をつける	制服の表地と裏地を縫い合わせる。 裏地は古い着物生地を再利用している	縫製経験者
タグづけ	ショップに出す商品の値札をつける	手先の器用な人

【ここが違う！アイラブ作業所の取組み】

整った縫製設備と利用者の高い技術力

① アイラブ作業所の運営母体である社会福祉法人広島聴覚障害者福祉会は広島県内で唯一のろう重複障害者施設である。主に聴覚障害と他の障害（視覚、知的など）のあるろう重複障害者が活動しており、コミュニケーションは手話や触手話を通して行われている。中には縫製を学んできた人もおり、高い技術力を持っている。

② 作業場所には工業用ミシン2台、家庭用ミシン3台、ロックミシン１台があり、整った設備環境が製品の仕上がりの良さにつながっている。学生服の生地はもともと夏の暑さや冬の寒さに耐えうる強さを持っているのも特徴。

③ パッチワークバッグをショップに出す時につけるタグ（値札）は、広島市の平和公園に献鶴された折鶴を解体し再生紙にしたものにスタンプを押し、地域性を出している。バッグは叡啓大学のノベルティグッズとして使われるが、広島県就労振興支援センターが運営するアンテナショップ「ふれ愛プラザ」にも展示され、1個800円（税込）で販売されている。

学生服ズボンの裾の切れ端を使用

ミシンで布を縫い合わせる

これから取り組む事業所に WIN−WINのポイント

広島県公立大学法人叡啓大学 教学課　岡本大夢氏

依頼先は福祉事業所にしようと決めていました

縫製作業の依頼先については、ダイバーシティを標ぼうする大学として、福祉事業所に依頼すると決めていました。デザインについてもアイデアを出してくださり、縫製方法やデザインについても積極的にアイデアを出してくださり、一体感をもって取り組むことができてます。

株式会社いとや 業務管理部　小川裕介氏

廃棄処分されるものが活用されてうれしいです

提供している残布の一例は学生服のズボンを裾上げする時に切られたものです。産業廃棄物として処分されるものが社会的にも有効活用していただけて、大変うれしく思います。

社会福祉法人 広島聴覚障害者福祉会 アイラブ作業所 グループリーダー 三原彩子氏

エコな取り組みと福祉の連携ですね

仲間たちの（利用者たちの）の工賃アップにつながるのならなんでもしたいという思いから、叡啓大学さんの企画を県就労を通してお受けしました。今回の連携事業を通して、仲間の作業の幅が広がっただけではなく、作業意欲や責任感の向上につながりました。捨てられていた学生服がバックに変わる、エコと福祉の融合ですね。バックを見て、学生さんたちが「これ、うちの学校の制服だ」と会話が生まれるのもいいですよね。連携に関わる人たちのそれぞれの思いがマッチングしたのだと思っています。

作業の様子を写した動画を公開中！
利用者が実際に作業している様子をご覧いただけます。

法人名 事業所名	社会福祉法人広島聴覚障害者福祉会 アイラブ作業所
住所	広島県広島市中区吉島西2-3-22
ＴＥＬ	082-248-0336
ＵＲＬ	http://hirochoufuku.jp/work/

リサイクル素材×福祉

埼玉県
深谷市

建設資材の輸入、製造、加工販売
三井ホームコンポーネント
株式会社　埼玉工場

多機能型事業所

深谷たんぽぽ

薪の組み立て作業

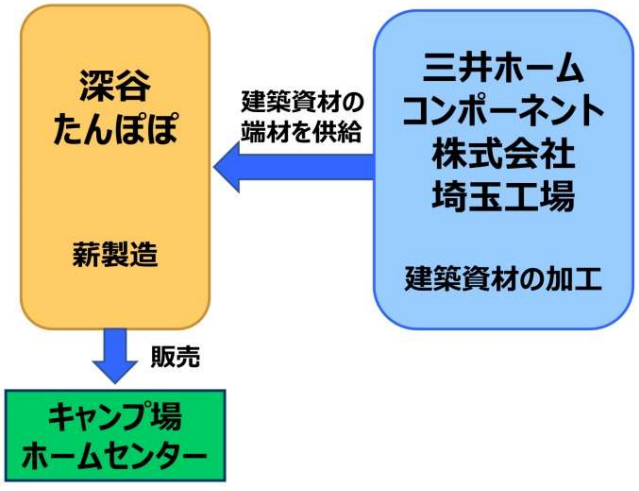
深谷たんぽぽ

出荷を待つ薪

連携の概要

「建築資材の端材を活用した薪の生産と販売」

三井ホームコンポーネント（株）埼玉工場の生産活動を通じて排出される端材を利用して、薪づくりを行っている。
三井ホームコンポーネント（株）からは週1回、端材を廉価で購入している。生産した薪は秩父・長瀞方面のキャンプ場やホームセンター販売用の卸売業者へ販売をしており、現在8名の利用者が携わっている。
薪づくり作業班(木工班)の令和2年度作業収入は4,873,266円で総収入22,411,685円の21%を占めており、10科目ある作業班のうち2番目に高い金額となっている。
深谷たんぽぽでは薪づくりの他にも様々な生産活動を行っており、令和2年度の平均工賃は全国平均を上回る30,011円と伸びており、地域と融合したリサイクル作業等が利用者の社会生活レベルの向上に関与しているといえる。



【連携のきっかけ】

平成７年に法人傘下の春日園（身障者授産施設・当時)において、埼玉県北埼玉郡大利根町(当時)にある三井ホームコンポーネント（株）から出るプレカット加工材の端材を活用した住宅ドアの芯材(ねり芯)製造作業を受託したことがきっかけで連携が始まった。
当初はねり芯の製造を行っていたが、その後、ねり芯材に使いにくい材料を活用しての薪づくりを開始し、春日園の作業種変更により平成9年から薪づくり作業は深谷たんぽぽへと移った。

【連携の特徴】

- 端材の有効活用を検討していた三井ホームコンポーネント（株）と、生産活動を探していた事業所とのニーズが合致した。
- 事業所が秩父・長瀞地域と近接しており、薪の販売先であるキャンプ場への販売を拡大することができた。
- 材料仕入れの際や訪問時などにコミュニケーションを図り良好な関係性の構築に努めている。

【連携の成果】

- 利用者の仕事内容が増え、多様な仕事を選択することができるようになった。
- 事業所において10ある作業班の中で、2番目に高い作業収入を得ることができ、利用者工賃の向上に大きく寄与している。
- 建築資材の端材を廃棄するのではなく、薪として製造することによって、資源の有効活用をすることができた。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
段ボール折り	段ボール折り　ホームセンターへ出荷するための段ボール箱を作成	注意力・集中力がある人
薪つめ	長さを切りそろえた薪をバンド内につめる	空間把握能力 集中力がある人
仕上	薪つめで作成された薪の束に、形状に合わせた薪を更につめて商品を完成	空間把握能力 集中力がある人
運搬	完成した薪の束を出荷用に運搬	体力・持久力がある人

【ここが違う！深谷たんぽぽの取組み】
長年の地域との関わり、多様な背景を持つ職員の配置により工賃向上へ

① 「よく働き、よく遊べ」という考えのもと、仕事を通じた利用者の生活の基盤づくりを展開。
② 55名の利用者が10科目の作業に取り組み、すべてが地元の皆さんとの関わりがある。
③ 受託作業に留まらず、野菜作りに有機食用バラやハーブといった新品目にトライしたり、リサイクル作業、学校や福祉施設の清掃及び花壇管理といった役務作業等多くの作業を通じて地域と幅広い領域で接点を持ことが、次の事業への機会を呼び込んでいる。
④ 施設が開所して以来、長年地域との深いつながりを有している点が強みの１つ。
⑤ 営業職、自営業、大工職人など多様な職務経験を有する職員が在籍していることも作業領域の幅の拡大につながっている。
⑥ 利用者の平均工賃は平成10年度以降毎年向上し、令和2年度には平均工賃30,011円となっている。

端材の切断作業

組み上がった薪

これから取り組む事業所に
WIN－WINのポイント

三井ホームコンポーネント株式会社
係長　栗原正幸氏

工場の端材が、人々のくらしに役立つ製品に生まれ変わる事に感動

工場から出る木端材の使い道を模索していたところ、深谷たんぽぽ様と出会いました。当社の木端材が障がい者の就労支援の一部となり、さらにキャンプ用の薪という製品に変化して、人々のくらしに貢献できていることに感動しました。また、木端材を有価販売できたことで、経費削減にも繋がっています。
これからも深谷たんぽぽ様と連携し、少しでも社会に貢献していきたいと思います。

社会福祉法人埼玉のぞみの園
深谷たんぽぽ
施設長 楳澤正範氏

薪づくりの作業の成長により利用者の生活域も拡充しています

薪づくりは三井ホームコンポーネント様の建築端材を活用し廃棄処分されていた端材を30ｃｍに切断し輪状紐の中に詰めていきます。如何に隙間なく詰めるかが腕の見せ所。昨今のアウトドアブームもあり年間売上は開始した20年前に比べ約6倍の500万円程になります。この収入は経費を除いた全額が障がいを持つ利用者の工賃となり生活域を拡充しました。グループホームで自立した生活を送る利用者は10年前の2名から17名に増加中しています。

作業の様子を写した動画を公開中！
利用者が実際に作業している様子をご覧いただけます。

法人名 事業所名	社会福祉法人埼玉のぞみの園 深谷たんぽぽ
住所	埼玉県深谷市人見2000
ＴＥＬ	048-572-1668
ＵＲＬ	https://www.nozominosono.jp/facility/tanpopo

リサイクル素材×福祉

大阪府
堺市

廃棄予定の防火服を再利用

堺市消防局

就労継続支援Ａ型事業所
ドルフィンアイ
就労継続支援Ｂ型事業所
グレースハウス

防火服の再利用は堺市の広報でもＰＲ（写真：堺市消防局提供）

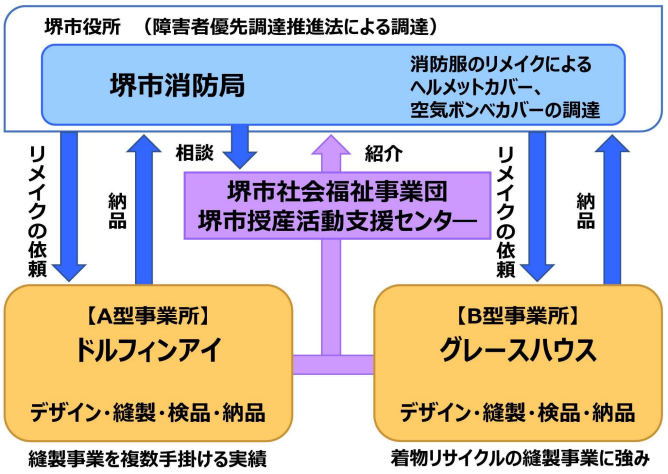
空気ボンベカバーも製作

資器材収納バッグ

連携の概要

「廃棄予定の防火服を縫製事業でヘルメットカバー等にリメイク」

「堺市消防局」と同市内で縫製事業を行う事業所「ドルフィンアイ」「グレースハウス」の連携事業。消防局が廃棄する予定の古くなった防火服10数着を、資器材収納バッグ、空気ボンベカバー、ヘルメットカバーにリメイクする。新品の購入が必要だったものをリサイクルすることで、消防局にとっては廃棄物削減と物品購入費の節約につながり、事業所にとっては利用者の縫製作業と工賃の創出につながっている。



【連携のきっかけ】

2019年より堺市消防局が消防服（防火服）の更新に伴いリサイクルを検討。消防服は一定年数着用したら新しいものに交換しなければならない。そのため、障害者優先調達推進法に係る取り組みの一環として、堺市障害施策推進課の所管する授産活動支援センターに防火服のリサイクルを打診。同センターが縫製事業の実績があるドルフィンアイとグレースハウスに製作を依頼した。

【連携の特徴】

- 消防服は特殊な生地が使われているため加工が難しいが、２つの事業所は堺市内で縫製事業を行なう事業所の中でもトップレベルの技術力を持つことからマッチングとなった。
- ひとつの連携事業に２つの事業所が関わることにより、事業所間にコミュニケーションの機会が生まれている。
- 消防局からは年度単位の発注となり、事業所にとって受注から納期までがゆるやかに設定されており仕事が受けやすい。

【連携の成果】

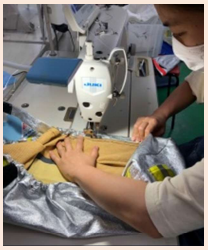
- 事業所にとって地域の公的機関との初めての連携となり取引先の拡大につながった。また特殊な防火服のリメイクという点で縫製作業の技術の幅が広がった。
- 消防局にとって新品の装備品を購入する代わりに再利用することでコストダウンにつながった。また、廃棄の際の処理費用の軽減効果もあった。
- 防火服以外にも消防ホースなど廃棄予定の備品の再利用を検討しており、SDGsの取り組みが進んでいる。

活躍できる作業例（ドルフィンアイ）

作業名	作業内容	向いている人
生地裁断	消防服の上にパターンを置き、ハサミで裁断する	丁寧、正確に作業できる人
縫製	パーツをミシンで縫い合わせていく	ミシンを扱える人 立体的な商品になるので、いせこみなど臨機応変に対応できる人
検品・糸切り	不良がないか検品する。糸端が残っていれば切る	注意力・集中力のある人

【ここが違う！ドルフィンアイの取組み】
縫製の経験者が効率性を重視しながら作業

① ドルフィンアイはエコバック、マスク、エアコンフィルター、幼稚園のスモックなど多様な商品の縫製作業を扱っており、技術力は堺市内の事業所でもトップレベル。刺しゅうミシン、オーバーロックミシン、二本針ミシンなど設備も充実している。
② 消防局から依頼のあった消防服のリメイクでは、利用者3人でヘルメットカバー、酸素ボンベカバーの約10点を製作。製作期間は約２週間。デザインは既存の新品商品のものを参考にした。特殊な生地に対応するため、はさみや針の種類を見直した。
③ 作業工程は職員による「型紙作成」。その後は利用者による「裁断」、「縫製加工」、「付属品（マジックテープ・ゴム）の裁断」、「付属品の縫製」、「検品」という順序で進められた。ミシンの扱い方がわかる人、サンプルを見て縫い方を組み立てられる人など縫製の基礎ができている人が作業にあたった。
④ Ａ型事業所ということもあり効率性を重視。できるだけ短時間で寸法を同じに、きれいな形に仕上げることを意識している。


空気ボンベカバーの縫製

ヘルメットカバーの縫製

これから取り組む事業所に WIN－WINのポイント

堺市消防局
警防課　藤本慎也氏

デザインも縫製も満足の行く仕上がりです

障害者福祉事業所との連携は初めてで最初はどこまで依頼できるか想像ができなかったのですが、授産活動支援センターの職員の方に調整していただきスムーズに企画できました。加工が難しい生地ですが、出来上がったものは縫製、デザインとも満足いくもので、裏地の補強などリクエストには全て応えていただきました。

プロスパー株式会社
ドルフィンアイ
代表取締役　久田哲生氏

行政との連携を増やしていきたいですね

消防局さんとの連携は初めてでしたが、この仕事は続けたいし増やしていきたいと思っています。また、この仕事に限らず、行政の仕事を切り出して請け負えるのではないかと考えています。今回は特殊な生地で加工が難しかったようですが、現場の職員と利用者ががんばってくれました。当事業所の縫製の技術力はまだ伸びる可能性があると思っています。

作業の様子を写した動画を公開中！
利用者が実際に作業している様子をご覧いただけます。

法人名 事業所名	プロスパー株式会社 ドルフィンアイ
住所	大阪府堺市堺区甲斐町西2-2-27 1F
ＴＥＬ	072-282-7871
ＵＲＬ	http://prosper-japan.com/company/

活躍できる作業例（グレースハウス）

作業名	作業内容	向いている人
ほどく	消防服（防火服）をほどく	集中力がある人 手順の組み立てが得意な人
裁断	大きさをみながらハサミを入れる	根気がある人 大きなはさみを使うことに抵抗のない人
ネームプレート付け	「堺市消防局」というネームプレートを付ける位置決め	クリエイティブな人 コミュニケーション力のある人
ひも通し	ヘルメットカバーのひもを切る・通す	繰り返し作業が得意な人

【ここが違う！グレースハウスの取組み】
リメイクに長けた技術力、余裕のある納期

① 「グレースハウス」はもともと縫製事業で着物のリメイク等を行い、寄付していただいた着物の生地をつまみ細工や服に仕立て直して、帆布と合わせてトートバック等をつくっている。今回の連携事業ではその技術の積み重ねが活きている。特殊な消防服の構造を見て、生地の無駄を省き、構成していく技術に長けている。
② 消防局からは年度単位で注文が入るため、納期に余裕を持った生産計画を立てられる。通所の安定しない精神障碍の利用者も見通しを持って取り組める。
③ 防火服のリメイクではヘルメットカバー、ボンベカバー、資器材バッグを製作した。主な作業は「防火服をほどく」、「大きさによってはさみを入れる」、「ひもを通す」、「ネームプレートをつける」の4段階。利用者の特性と作業スキルを考慮し、工程を複数に分けることで利用者が関わりやすいようにしている。

防火服をほどく作業

裁断作業

これから取り組む事業所に WIN－WINのポイント

堺市消防局
警防課　藤本慎也氏

堺市消防局のネームプレートが評判です

「堺市消防局」のタグをうまく活用できればと考えていたのですが、グレースハウスさんが資器材収納バッグのネームプレートとしてうまく縫い付けてくださいました。他市との合同訓練や災害派遣訓練の際、多くの方の目に入っているようで評判がいいです。消防関係の機関紙や堺市消防局の広報誌に写真を掲載する時もわかりやすいです。

社会福祉法人サワリ
グレースハウス
生活支援員　金安奈氏

工賃の考え方を見直す機会になりました

私たちはＢ型事業所ということもあり、請け負う仕事の金額が低いという思い込みがありましたが、授産活動支援センターが調整してくださり、Ａ型事業所のドルフィンアイさんと連携することで縫製作業の商品価値と工賃の考え方を見直すことができました。防火服の生地は特殊ですが、他にも転用できる可能性があるので、消防局さんと連携して商品の広がりを考えていきたいです。

作業の様子を写した動画を公開中！
利用者が実際に作業している様子をご覧いただけます。

法人名 事業所名	社会福祉法人サワリ グレースハウス
住所	大阪府堺市堺区南陵町1-2-6
ＴＥＬ	072-280-0830
ＵＲＬ	http://www.sawari.or.jp/custom.html

8 地域産業連携型福祉の取り組み手順

地域産業連携型福祉に取り組みたいと思ったら、以下の手順で始めてみると良いと思います。最初は小さな成果でも実績を積むことで、徐々に周囲から一緒にやろうと声がかるようになるでしょう。誘われたらなんでもやるということではなく、目的に合致した連携になるかどうかを考えながら取り組むことが重要です。

■地域産業連携型福祉のポイント・手順

1．連携の目的を明確にする
工賃向上、事業所を応援してくれる関係人口の増加、福祉事業所としての地域貢献など、何を目指しての連携を作りたいのか、目的を明確にしましょう。

2．事業所の強み・リソースの明確化
事業所の特徴や強み、持っているリソース（経営資源：人・モノ・設備・機材・情報など）を整理し、連携先の候補に示せるように準備しましょう。これまでの生産活動実績（商品やサービス）も示せるようパンフレットや資料を用意しましょう。

3．地域産業の現況や地域の課題についての情報収集
地域にどんな課題があるのか、自治体の産業振興課、観光課、商工会議所などの経済団体などにアプローチし、情報を集めましょう。身近なところでは、地域の共同受注窓口の担当者にどんな企業から仕事の問い合わせがあるのか聞いてみるのも良いでしょう。

4．情報発信、小さなところからでも連携をスタート
地域に出て、できる活動から取り組んでみましょう。取り組んだことはSNSを活用するなどして積極的に発信しましょう。自分たちの取組を通じて、地域にどんな貢献ができたのか、利用者の仕事としてどんな成果があったのか、次は何を目指すのかを端的に発信しましょう。

地域産業について専門家に相談したいなら

自治体や地域の経済団体の他、地域の産業に取り組みにあたって、専門家に相談してみるのも良いでしょう。

■よろず支援拠点（国が47都道府県に設置した無料の経営相談所）
https://yorozu.smrj.go.jp/base/

■中小企業診断協会（中小企業の経営相談を行っている中小企業診断士の団体）
https://www.j-smeca.jp/open/static/sibuindex.jsf

いずれも各県の拠点・支部があります。

9 企業の皆様へ

障害者施設にはいろいろな種類がありますが、地域でパンや弁当を生産・販売したり、企業から受託した内職作業を行っているところの多くは、「就労継続支援事業所」と呼ばれ、障害のある利用者を支援しながら生産活動を行い、その収益を利用者に分配し経済的な自立を目指し活動している事業所です。

就労継続支援事業所には、A型、B型の2種類があり、主な違いは以下のとおりです。

	就労継続支援A型	就労継続支援B型
事業所数（全国）	約3900か所（令和3年1月現在）	約14,000か所(令和3年1月現在)
概要	通常の事業所で雇用されることが困難で、雇用契約に基づく就労が可能な人に対し、雇用契約を結んで就労機会の提供、生産活動の提供、就労に必要な知識・能力向上のための訓練等を行っている	通常の事業所で雇用されることが困難で、雇用契約に基づく就労が困難な人に対し、就労機会の提供、生産活動の提供、就労に必要な知識・能力向上のための訓練等を行っている
利用者の平均給与（月額）	79,625円（令和2年度）	15,776円（令和2年度）

地域には、就労継続支援事業所への仕事の発信や仲介を行っている「共同受注窓口」が設置されています。
「仕事を発注したい」「どんな連携ができるか検討したい」といったお考えの場合は、次ページもしくは下記ウェブサイト掲載の「共同受注窓口一覧」より最寄りの共同受注窓口にご相談されることをお勧めします。

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_02816.html

10

共同受注窓口一覧

	都道府県名	運営主体	共同受注窓口名	住 所 ・ 連 絡 先	電話
1	北海道	社会福祉法人北海道社会福祉協議会	ナイスハートネット北海道（北海道障がい者就労支援センター）	札幌市中央区北2条西7丁目1 北海道社会福祉総合センター3階	011-241-3983
2	北海道	札幌市	アウトソーシングセンター元気ジョブ	札幌市中央区南8条西2丁目5番74号市民活動プラザ・星園内	011-596-6581
3	北海道	札幌市	元気ショップ	札幌市中央区南8条西2丁目5-74 市民活動プラザ星園202	011-205-0890
4	北海道	札幌市手をつなぐ育成会	元気ショップいこーる	札幌市北区北8条西6丁目2-15	011-738-2221
5	青森県	社会福祉法人	三八地区福祉施設就労開発センター	青森県八戸市大字美保野13-2132	0178-25-6056
6	青森県	社会福祉法人	ふらわーずぶるーむ	青森県南津軽郡大鰐町虹貝字篠塚33-11	0172-48-3662
7	青森県	社会福祉法人	多機能型事業所はっこう	青森県青森市横内字桜峰63-1	017-738-2104
8	岩手県	社会福祉法人	岩手県社会福祉協議会共同受注センター	盛岡市三本柳8-1-3	019-601-7031
9	宮城県	特定非営利活動法人	みやぎセルプ協働受注センター	宮城県仙台市太白区袋原五丁目12-1	022-399-6299
10	山形県		山形県社会就労センター協議会	山形市小白川町二丁目3番31号	023-622-5805
11	福島県		福島県授産事業振興会	福島県福島市御山町8番30号	024-563-1228
12	茨城県	一般社団法人	茨城県共同受発注センター	茨城県水戸市笠原町993-2茨城県精神保健福祉センター2階	029-243-3022
13	（水戸市）	市直営	水戸市障害者共同受発注センター	茨城県水戸市中央1丁目4番1号	029-291-3948
14	栃木県		とちぎセルプセンター	栃木県宇都宮市若草1－10－6 とちぎ福祉プラザ内	028-622-0433
15	群馬県	一般社団法人群馬県社会就労センター協議会	群馬県障害者施設等共同受注窓口	前橋市新前橋町13-12	027-255-6034
16	群馬県	一般社団法人	共同受注窓口「みんなの店」	前橋市日吉町二丁目17-10 総合福祉会館内	027-289-6332
17	埼玉県	一般社団法人	埼玉県セルプセンター協議会	さいたま市大宮区堀の内町1－41－7	048-782-5302
18	千葉県	特定非営利活動法人千葉県障害者就労事業振興センター	特定非営利活動法人千葉県障害者就労事業振興センター	千葉市中央区玄鼻2-9-3	043-202-5367
19	東京都	特定非営利活動法人日本セルプセンター（都委託事業）	東京都共同受注窓口（仮称）	新宿区新宿1－13－1 大橋御苑駅ビル別館2階	03-6709-9611
20	（港区）	特定非営利活動法人みなと障がい者福祉事業団	港区就労支援ネットワーク会議	港区芝1丁目8番23号 港区立障害保健福祉センター5階	03-5439-8062
21	（新宿区）	公益財団法人新宿区勤労者・仕事支援センター	新宿区障害者福祉事業所等ネットワーク	新宿区新宿7－3－29 新宿ここ・から広場 しごと棟	03-5273-3852
22	（文京区）	文京区障害福祉課	ジョブ～る文京	文京区春日1-16-21・文京区福祉部障害福祉課	03-5803-1211
23	（台東区）	台東区障害者就労支援室	プロジェクトパワーアップたいとう	台東区松が谷1-4-12 松が谷福祉会館6階	03-3847-6431
24	（墨田区）	墨田区(すみだふれあいセンター)	墨田区福祉作業所等ネットワーク《Kai》	墨田区緑四丁目35番6号 すみだふれあいセンター福祉作業所	03-5600-2001
25	（江東区）	江東区	江東区障害者支援課就労支援担当	東京都江東区東陽4－11－28	03-3699-0325
26	（目黒区）	目黒区	目黒区障害福祉課障害施設事業係	東京都目黒区上目黒二丁目19番15号	03-5722-9893
27	（大田区）	大田区	大田区生産活動支援施設連絡会	大田区西六郷1－4－27	03-3734-0763
28	（世田谷区）	特定非営利活動法人障害者支援情報センター （区委託事業）	世田谷セレ部	世田谷区北沢5-23-27 エイト内	03-3485-3633
29	（渋谷区）	特定非営利活動法人あさのはネットワーク	渋谷区障害者団体連合会作業所連絡会（窓口：ワークささはた）	渋谷区笹塚3－48－1－1	03-3376-8924
30	（中野区）	中野区	なかの障害者就労支援ネットワーク	中野区新井2-8-13	03-3388-2941
31	（杉並区）	杉並区	すぎなみ仕事ねっと(任意団体 法人格なし)	杉並区和田1-5-18万テナビル2階	03-3381-4278
32	（荒川区）	荒川区	荒川区作業所等経営ネットワーク	荒川区荒川2-2-3 荒川区福祉部障害者福祉課障害サービス係	03-3802-3111
33	（板橋区）	一般社団法人コミュニティベースドリハビリテーション協会	板橋区作業所ネットワーク事務局	板橋区蓮根21-4	03-6909-6411
34	（練馬区）	社会福祉法人練馬区社会福祉協議会	練馬区社会福祉協議会 練馬区障害者就労支援センター	東京都練馬区豊玉北5-14-61 練馬馬ビル5F	03-3948-6501
35	（足立区）	足立区	足立区障がい者相互支援ネットワーク会 Aふらんき	足立区梅島3－31－19	03-5681-0133
36	（八王子市）	特定非営利活動法人八王子ワークセンター	八王子ワークセンターかてかてネットワーク	東京都八王子市千人町二丁目7番5号	042-669-0340
37	（府中市）	府中市福祉作業所等連絡協議会	ちゅうNet	梅の木の家共同作業所 府中市分梅町3－34－8	042-368-6841
38	（昭島市）	昭島市委託事業	あきしまある（昭島市障害者（児）福祉ネットワーク 工賃アップ検討部会）	東京都昭島市武蔵野3-2-19	042-542-5800
39	（調布市）	任意団体（法人格なし）	調布市福祉作業所等連絡会	調布市布田2-26-8 フラットカズ1F	042-481-3201
40	（日野市）	社会福祉法人東京都社会福祉事業団	日野市授産事業地域連携システム事業 日野わーく・わーく	日野市多摩平2-5-1	042-843-1008
41	（国分寺市）	なし	国分寺障害者施設お仕事ネットワーク	東京都国分寺市西恋ヶ窪4-10-2 ともしび工房内	042-324-7071
42	（多摩市）	特定非営利活動法人障害者自立支援センター多摩社会福祉法人啓光福祉会	多摩市障害福祉ネットワーク たまげんき	多摩市南野3-15-1 総合福祉センター1階・2階	042-376-5044
43	神奈川県	特定非営利活動法人	神奈川障害者共同受注窓口はたらき隊かながわ	藤沢市湘南台1-7-8	0466-53-7802
44	新潟県		新潟県社会就労センター連絡協議会	新潟市中央区上所2-2-2新潟ユニゾンプラザ3階（事務局：新潟県社会福祉協議会）	025-281-5521
45	富山県		富山県社会就労センター協議会	富山市五福474番地2	076-442-2430
46	石川県	社会福祉法人	石川セルプ振興センター	石川県金沢市本多町3-1-10	076-224-1211
47	福井県	社会福祉法人	福井県セルプ(福井県セルプ振興センター)	福井県福井市光陽2-3-22	0776-29-2234
48	福井県	(空白)	越前市社会就労センター協議会(セルプえちぜん)	福井県越前市帆山町5-31-1	0778-23-6855
49	山梨県	特定非営利活動法人	ジョブクリエーター	山梨県南アルプス市野牛島1745-3	055-287-7307
50	長野県	特定非営利活動法人	長野県セルプセンター協議会	長野県長野市若里7－1－7	026-291-8280
51	岐阜県	社会福祉法人	岐阜県セルプ支援センター	岐阜県岐阜市下奈良2-2-1 岐阜県福祉農業会館内	058-273-1111(内線2526)
52	静岡県	一般社団法人	静岡県社会就労センター協議会	静岡県静岡市葵区呉服町2-1-5 5風来館 4階	054-204-5088
53	静岡県	特定非営利活動法人	オールしずおかベストコミュニティ	静岡県静岡市葵区呉服町2-1-5 5風来館 4階	054-251-3515
54	愛知県	一般社団法人	愛知県セルプセンター	名古屋市中川区小本本町一丁目71番地	052-304-7890
55	愛知県	一般社団法人	愛知障害者就労共同受注販売センター（みんなのわ）	名古屋市北区山田二丁目11番62号 大曽根住宅1棟1階	052-916-5308
56	三重県	特定非営利活動法人	共同受注窓口みえ	三重県津市桜橋2丁目131番地	059-264-7373
57	滋賀県	特定非営利活動法人	滋賀県社会就労事業振興センター	滋賀県草津市大路2丁目11－15	077-566-8266
58	京都府	特定非営利活動法人	京都ほっとはあとセンター	京都市中京区 竹屋町通烏丸東入清水町375	075-255-0355
59	大阪府	一般社団法人	エル・チャレンジ福祉事業振興機構	大阪市中央区法円坂1-1-35大阪市教育会館	06-6949-3551
60	大阪府	社会福祉法人	大阪府社会福祉協議会セルプ部会大阪授産事業振興センター	大阪市中央区中寺1丁目1-54大阪社会福祉指導センター内	06-6766-1717
61	大阪府	一般社団法人	吹田市障がい者の働く場事業団	吹田市昭和町10番20号	06-6317-1231
62	大阪府	社会福祉法人	茨木市立障害者就労支援センターかしの木園	茨木市春日1丁目15番22号	072-626-5910
63	大阪府	社会福祉法人	たかつき授産事業共同受注ネットワーク	高槻市下田部町2-76-3 （総合支援センターさくら内）	072-648-4803
64	大阪府		堺市立健康福祉プラザ 授産活動支援センター	堺市堺区旭ヶ丘中町4丁3番1号	072-275-5018
65	大阪府		守口あったかプロジェクト	守口市八雲北町3-39-8桜の園	06-6992-0697
66	大阪府	特定非営利活動法人	障がい者支援ねっとまつばら	松原市田井城6丁目328-2	090-3727-7477
67	大阪府	社会福祉法人	大阪ハートフル商店街	大阪市北区中津1-4-10	06-6131-5988
68	大阪府		大東市障害者自立ネットワーク	大東市寺川3-4-9(四条作業所内)	072-875-3599
69	大阪府	特定非営利活動法人	東大阪障害者共同受注連絡会	東大阪市衣摺4丁目11番20号	072-984-2302
70	兵庫県	特定非営利活動法人	兵庫セルプセンター	神戸市中央区坂口通2-1-1 兵庫県福祉センター6階	078-414-7311
71	奈良県	特定非営利活動法人	奈良県社会就労事業振興センター	奈良市芝辻町2丁目11-16圭真ビル102号	0742-93-3244
72	奈良県		あたらしい・はたらく・つくる福祉型事業協同組合	奈良市大宮町3丁目5-39第3やまと建設ビル301号	0742-81-7081
73	和歌山県	一般社団法人	和歌山県セルプセンター	和歌山市美園町5丁目4－6	073-499-6142
74	和歌山県	一般社団法人	協働	和歌山市北出島一丁目2番18号	073-488-7758
75	鳥取県	特定非営利活動法人	鳥取県障害者就労事業振興センター	鳥取県米子市東福原1丁目1-45	0859-31-1015
76	島根県	特定非営利活動法人	島根県障がい者就労事業振興センター	松江市東津田町1741-3 2F	0852-67-2671
77	岡山県	特定非営利活動法人	岡山県セルプセンター	岡山市北区南方2丁目13－1 岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館 きらめきプラザ1階	086-222-0300
78	広島県	公益社団法人	広島県就労振興センター	広島市南区比治山本町12-2	082-252-3100
79	広島県	一般社団法人	花と緑のハート事業協会	広島市中区舟入中町2-14	082-295-3736
80	広島県	一般社団法人	トータルライフサポートふくやま	福山市西町1-1-1リム・ふくやまB2F	050-3386-6219
81	山口県	特定非営利活動法人	山口県社会就労事業振興センター	山口県山口市大手町9-6	083-933-1522
82	徳島県	特定非営利活動法人	とくしま障害者授産支援協議会	徳島市南庄町5丁目77番地3	088-602-7560
83	香川県	特定非営利活動法人	香川県社会就労センター協議会	香川県高松市前田東町585－5	087-813-1420
84	愛媛県		宇摩圏域障がい者共同受注窓口	四国中央市中之庄町542	0896-24-4006
85	愛媛県		新居浜・西条圏域障がい者共同受注窓口	西条市禎瑞388	0897-55-0102
86	愛媛県		今治圏域障がい者共同受注窓口	今治市大西町紺原甲302-1	0898-35-3522
87	愛媛県		松山圏域障がい者共同受注窓口	松山市志津川町203-1	089-979-0424
88	愛媛県		八幡浜・大洲圏域障がい者共同受注窓口	西予宇和町卯之町5-234	0894-69-1560
89	愛媛県		宇和島圏域障がい者共同受注窓口	宇和島市川内1067-1	0895-27-0381
90	愛媛県	一般社団法人	えひめICTチャレンジド事業組合	松山市木屋町3-12-7	089-923-5002
91	高知県	高知県社会就労センター協議会	高知県共同受注窓口運営協議会	佐川町字寺中甲1037－1	0889-22-2113
92	福岡県	特定非営利活動法人	セルプセンター福岡	福岡県大牟田市今山4368-3	0944-54-2100
93	佐賀県	一般社団法人	佐賀県共同受注支援窓口	佐賀県佐賀市天祐一丁目8-5	0952-97-9856
94	長崎県	特定非営利活動法人	長崎県障害者共同受注センター	長崎市茂里町3番24号	095-865-6681
95	熊本県	株式会社コウケン	株式会社コウケン	熊本市中央区大江2丁目14－76	096-227-6400
96	熊本県	特定非営利活動法人自立応援団就労センターくまもと（事務局）	はーとアラウンドくまもと	熊本市北区貢町780-8（特定非営利活動法人 自立応援団 就労支援センターくまもと内）	096-288-1752
97	熊本県	社会福祉法人玉医会たまきな荘就労支援センター風工房（事務局）	あらたまハートブランド協議会	玉名市伊倉北方2231-1（たまきな荘就労支援センター風工房内）	0968-71-2355
98	熊本県	NPO法人とら太の会（事務局）	八代市障害者福祉事業所協議会	熊本県八代市妙見町2377-3（NPO法人とら太の会内）	0965-30-0701
99	大分県		大分県障害福祉サービス事業所等共同受注センター	別府市大字内竈1393番2	0977-66-0277
100	鹿児島県	一般社団法人	かごしま障がい者共同受注センター	鹿児島県鹿児島市鴨池新町1番7号（県社会福祉センター4階）	099-206-5210
101	沖縄県	一般社団法人	沖縄県セルプセンター	沖縄県那覇市首里石嶺町4丁目373番地1	098-882-5663

（注）都道府県が把握している共同受注窓口を厚生労働省にて整理（平成31年1月31日現在）

（注）共同受注窓口とは、受注内容を対応可能な複数の障害者就労施設等にあっせん・仲介する等の業務を行う窓口。

掲載事業所一覧

法人名・事業所名	就労継続 支援の種別	住所	TEL
株式会社縁	Ｂ型	福井県小浜市東市場38-17	0770-56-3066
社会福祉法人いわみ福祉会 ワークくわの木金城第2事業所	Ａ型・Ｂ型	島根県浜田市金城町下来原1541-8	0855-42-0039
株式会社WISH	Ｂ型	広島県三原市城町1-15-1旭ビル201	0848-38-9555
株式会社幸呼来Japan 幸呼来Japan	Ｂ型	岩手県盛岡市安倍館町19-41	019-681-9166
特定非営利活動法人わっぱの会 ソーネおおぞね	Ａ型	愛知県名古屋市北区山田2-11-62 大曽根住宅1棟1階	052-910-1001
特定非営利活動法人彩り にじいろ	Ａ型・Ｂ型	宮崎県西臼杵郡高千穂町三田井1171-7	0982-83-0707
特定非営利活動法人インクルーシヴ・ジャパン インクルーシブ・松山　ヒカリのアトリエ	Ｂ型	愛媛県伊予郡松前町大字徳丸字松ノ西1208番地4	089-909-6556
株式会社すみなす GENIUS	Ｂ型	佐賀県佐賀市鬼丸町7-3	0952-60-2673
社会福祉法人佛子園 Healing Bay Area 日本海倶楽部　/ 日本海倶楽部ザ・ファーム	Ａ型・Ｂ型	石川県鳳珠郡能登町字立壁92	0768-72-8180
社会福祉法人ドリームヴイ ヴイ長屋	Ｂ型	東京都北区桐ヶ丘1-9-4-2	03-5948-4300
公益社団法人青年海外協力協会 JOCA×3	Ａ型・Ｂ型	広島県山県郡安芸太田町大字加計3505-2	0826-22-6666
特定非営利活動法人山陰福祉の会 San-fuku	Ｂ型	鳥取県米子市福市1850-2	0859-21-9789
社会福祉法人カリヨン スタジオれもん	Ｂ型	徳島県名西郡石井町石井字尼寺138-2	088-679-6208
社会福祉法人すてっぷ 社会就労センターぴいす	Ｂ型	群馬県前橋市広瀬町3-7-15 内山ビル101	027-290-6161
合同会社トランスーノア カーマン	Ｂ型	佐賀県唐津市厳木町牧瀬399番地3	0955-63-2140
特定非営利活動法人いわてパノラマ福祉館 盛岡書房	Ｂ型	岩手県盛岡市本宮1-9-12	019-681-3971
社会福祉法人こころん 直売所カフェこころや	Ａ型・Ｂ型	福島県西白河郡泉崎村泉崎字川畑37-1	0248-53-5568
株式会社江友 白潟事業所	Ａ型	島根県松江市灘町139-12	0852-59-9193
社会福祉法人小高坂更生センター こだかさ障害者支援センター	Ａ型・Ｂ型	高知県高知市越前町2-4-5	088-873-0821
特定非営利活動法人まこと まこと（松前事業所）	Ｂ型	愛媛県伊予郡松前町西高柳246-4	089-985-2000
特定非営利活動法人ASUの会 まちかどステーション八百萬屋	Ｂ型	大阪府堺市南区槇塚台3-1-7	072-289-7139
特定非営利活動法人ハートinハート なんぐん市場 エコテリアなんぐん市場	Ａ型	愛媛県南宇和郡愛南町城辺甲2934	0895-70-4031
社会福祉法人共生シンフォニー がんばカンパニー	Ａ型	滋賀県大津市大将軍2-31-5	077-543-2766
特定非営利活動法人　かし和の雫 雫石町福祉作業所　かし和の郷	Ｂ型	岩手県岩手郡雫石町千刈田76-3	019-691-1230
社会福祉法人新友会 障害者就労支援センターひまわり畑	Ａ型・Ｂ型	大分県大分市大字辻1381-1	097-595-1711
特定非営利活動法人山形自立支援 創造事業舎 みちのく屋台こんにゃく道場	Ｂ型	山形県山形市末広町2-6	023-673-9494
特定非営利活動法人あおぞら あおぞらソラシード	Ｂ型	新潟県阿賀野市畑江75	0250-47-7152
社会福祉法人広島聴覚障害者福祉会 アイラブ作業所	Ｂ型	広島県広島市中区吉島西2-3-22	082-248-0336
社会福祉法人埼玉のぞみの園 深谷たんぽぽ	Ｂ型	埼玉県深谷市人見2000	048-572-1668
プロスパー株式会社 ドルフィンアイ	Ａ型	大阪府堺市堺区甲斐町西2-2-27 1F	072-282-7871
社会福祉法人サワリ グレースハウス	Ｂ型	大阪府堺市堺区南陵町1-2-6	072-280-0830

令和3年度　厚生労働省委託事業
「障害者就労における地域の産業と福祉の連携推進事業」

【発行】2022年（令和4年）3月
【実施】株式会社FVP
〒101-0047　東京都千代田区内神田1-4-1　大手町21ビル10階